

## 第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

奈良時代以降の遺構は、竪穴住居15軒、掘立柱建物10棟、柵列3、溝9条、土坑4基、ピット30基等である。

分布をみると、調査区南部（A区南端部・B区・C区）に大部分が集中し、他に調査区北端部（A区北部）にも竪穴住居・掘立柱建物が集中している。

遺物は、土師器、須恵器、鉄製品、銅製品等が出土している。

### 第2節 遺構

#### 1. 竪穴住居（第151図、第21・22表）

竪穴住居は15軒検出されている。

##### (1) 分布（第152図）

調査区南部（A区南端部・B区・C区）に14軒、調査区北端部（A区北部）に1軒と2ヶ所に分布している。北端部には竪穴住居は1軒しかないが、掘立柱建物が3棟あるため調査区外にも竪穴住居がある可能性が高い。

##### (2) 平面形態

平面形態の判明するものは、隅丸方形が2軒、隅丸長

方形が6軒で、隅丸長方形が圧倒的に多くなっている。調査区外に続いているため形態が判明しない8軒も、隅丸方形が隅丸長方形になるものと考えられる。

##### (3) 規模

長辺5.70～2.80m平均4.49m、短辺4.45～2.40m平均3.46m、壁高105～33cm平均62cm、面積（カマドを含む上端面積）23.1～6.6㎡平均15.1㎡、床面積（カマドをのぞいた下端面積）は17.3～5.9㎡、平均12.1㎡である。調査区外に続く住居が多いため、推定も含めて長辺がわかる住居が9軒、短辺・面積がわかる住居が7軒と少なく、他の住居は全体の規模が不明である。壁高は平均62cmと高く、遺構の残存状況は良い。

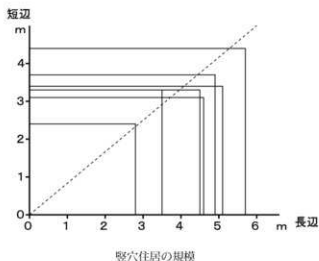
##### (4) 主軸方位

カマドのある壁に垂直の方向を住居の主軸としたが、カマドの検出された住居はすべて東方向であり、北から81°～98°東の範囲に集中している。

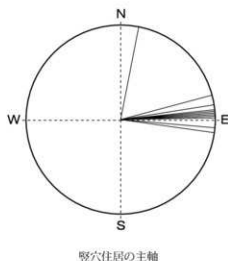
##### (5) 壁溝・柱穴・貯蔵穴

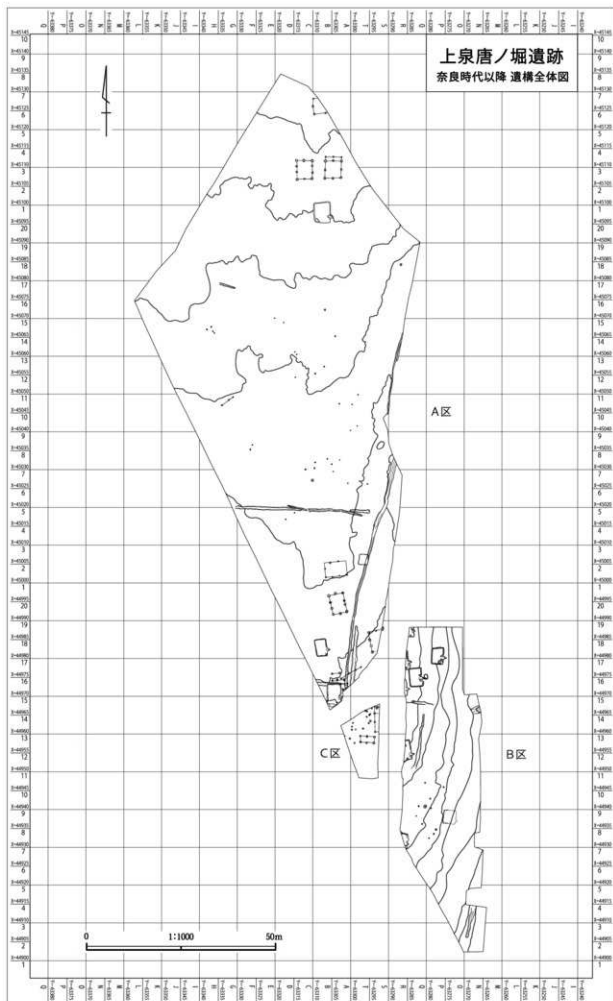
壁溝の確認された住居は8軒で、確実にない住居は1軒であり、他は不明である。ある住居では、全周するものが4軒で部分的なものが4軒となっている。

柱穴は、ないものが7軒で、ある可能性のあるものが



第151図 竪穴住居の規模・主軸





第152図 奈良時代以降遺構全体図

第21表 型穴住居一覧

住居No	グリッド	重 複	平面形態	長辺	短辺	長辺	壁高	面積	床面積	主軸方位	カマド			
				m	m	短辺	cm	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		位 置	全長m	幅m	主軸方位
1号住居	3-T-1-2	1溝より古	隅丸方形	2.80	2.40	1.17	33	6.6	5.9	N-11°-E				
2号住居	94-B-17-18	なし	隅丸長方形	4.60	3.10	1.48	42	14.6	11.5	N-87°-E	東壁やや南寄り	1.63	0.90	N-90°-E
4号住居	94-A-B-14-15	5住より古	隅丸長方形	4.90	3.75	1.31	70	(17.9)	(15.3)	N-87°-E	東壁南寄り	1.10	1.10	N-89°-E
5号住居	94-A-B-14	4住より新 6住より古	隅丸方形または 隅丸長方形	[2.30]	[1.40]		65	[2.7]	[2.1]	N-75°-E				
6号住居	94-A-B-14	5住より新	隅丸方形または 隅丸長方形	[1.50]	[0.80]		70	(1.1)	[0.9]	N-84°-W				
12号住居	4-B-20 14-B-1	なし	隅丸長方形	5.70	4.45	1.28	58	(23.7)	(17.3)	N-88°-E	東壁南寄り	1.30	0.80	N-97°-E
17号住居	93-R-6-7 93-Q-7	211ピットより 古 31住・60土 より新	隅丸方形または 隅丸長方形	3.95	[1.80]		87	[4.8]	[3.1]	N-95°-E	東壁南寄り	0.90	1.00	N-98°-E
21号住居	93-Q-R-11・12	なし	隅丸方形または 隅丸長方形	5.30	[2.20]		105	[9.4]	[7.2]	N-81°-E	東壁南寄り	1.35	1.15	N-88°-E
22号住居	93-Q-8 93-P-8	なし	隅丸方形	3.50	(3.35)	(1.04)	45	(11.6)	(11.2)	N-98°-E	東壁南寄り			
24号住居	93-R-10-11	なし	隅丸方形または 隅丸長方形	[2.20]	[0.50]		57	[1.2]	[0.6]	N-89°-E	東壁やや南寄り	[0.90]	1.00	N-94°-E
26号住居	93-Q-R-15	167土坑より新	隅丸方形または 隅丸長方形	[4.50]	[0.60]		65	[3.0]	[2.3]	N-84°-E	東壁やや南寄り	1.15	1.20	N-87°-E
27号住居	93-Q-15-16	17土坑より新 28住と重複	隅丸長方形	5.10	3.70	1.38	48	17.0	12.9	N-86°-E	東壁やや南寄り	1.90	1.80	N-93°-E
28号住居	93-Q-R-16・17	27住と重複	隅丸方形または 隅丸長方形	[5.25]	[1.30]		67	[4.4]	[2.2]	N-85°-E	東壁やや南寄り	1.55	1.30	N-89°-E
29号住居	93-Q-17 93-P-16-17	なし	隅丸長方形	4.55	3.35	1.36	64	14.8	10.5	N-95°-E	東壁やや南寄り	1.70	1.20	N-91°-E
30号住居	93-Q-18	なし	隅丸方形または 隅丸長方形	[2.55]	[1.55]		55	[3.5]	[2.9]	N-86°-E	東壁	1.10	1.00	N-88°-E

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

第22表 竪穴住居出土遺物一覧

	土器類										須恵器類										土器計	石製品	鉄製品	他	合計							
	埴				甕				瓶	計	埴				甕				器・瓶	他						計						
	口縁	体部	底面	中央	口縁	胴部	底面	中央			小計	口縁	体部	底面	中央	小計	口縁	胴部									底面	中央	小計			
1号住居				0	1			1	1					0					0			0	1				1					
2号住居	23	39	15		77	5	162	4	171	1	240	3	1		4	3	3		3	3			10	259			259					
4号住居	26	46			75	19	204	2	311	300	11	8	5	1	25	2	2				1	1	29	419			419					
5号住居	7		1	1	9	7	63	2	72	83	4		1	5	1	1				0	1	7	88	1	1	90						
6号住居	4	1			5		20		20	25				0						0		0	25			25						
12号住居	25	2	24	1	52	10	226	4	240	292	30	4	1	1	36	2	8		30		0	26	318	1	1	320						
17号住居	37	11			48	19	402	4	425	473	12		2	14	11	11			1	1	3	1	30	503			503					
21号住居	40	40	18	2	100	4	91	1	96	196	1	2	2	5	4	1	5		0	1		11	207	5		212						
22号住居			1		1		14		14	15	1			1					0			3	16			16						
24号住居	2		1		3			1	1	4				0					0			0	4			4						
26号住居	7	1	1		9	10	86	1	97	106	1			1					0			1	107			107						
27号住居	87	170	8	3	266	13	381	3	397	683	8		5	1	14	1	2		3		0	1	18	681	5		686					
28号住居	13	14	6	1	34	20	271		1	292	326	7	1	1	1	10		1	1	2	1	1	2	15	341	1	1	342				
29号住居	111	136	23	1	251	54	897	8	759	1,010	36	3	3	24	2	2			0	2		28	1,038	3		1,041						
30号住居	2	2	5	1	10	2	53		55	65				0					0			0	65			65						
合計	384	444	101	10	940	163	2,763	30	1	2,927	1	3,896	76	19	20	4	319	3	34	2	39	1	4	5	31	2	176	4,074	2	15	0	4,091

1軒、他は不明であり、ないものが圧倒的に多い。

貯蔵穴は、あるものが4軒で、ないものが4軒と同数である。あるものは、すべてカマド右脇に存在している。

(6) 床面・掘り方

床面は、全体的に硬化しているものが4軒、部分的に硬化しているものが2軒、やや硬化しているものが2軒で、他はあまり硬化していないか、残存等が悪く不明なものである。貼床されているものが多く、掘り方をそのまま床面としているものは2軒である。貼床は、ロームを主とした黄褐色土で行っているものが6軒、褐色土・

黒褐色土・暗褐色土で行っているものが2軒、不明が1軒である。掘り方は、外周が溝状にくぼむものが2軒、土坑・ピットが多くあるものが7軒、ほぼ平坦なものが3軒等である。

(7) 遺物出土状況

竪穴住居の出土遺物については、出土状況により以下の3種類に分けて考えることにする。

A 遺棄 竪穴住居で使用されたものが遺棄されているもの。床面上・カマド等住居の使用面の出土で、完形・半完形のもの。ただし、棚から転落あるいは貯

蔵穴に転落した物は、床面から浮いた状態や貯蔵穴埋没土中の物もある。遺物の時期は、住居の時期を示している。

**B 廃棄** 廃絶された住居に他から捨てられたもの。床面および埋没土中の出土で、完形・半完形に復元できる物あるいは破片。遺物の時期は、住居の使用された時期よりも新しくなるが、竪穴住居が埋没するまでの時間に限られる。

**C 流入** 住居外の遺物が自然営力や人為的な埋め戻しにより、竪穴内に入り込んだもの。すべての層から出土し、破片の状態である。遺物の時期は、住居が埋没するまでの時期より古くなる。

一般的には、竪穴住居を廃絶するときには土器等の生活用品は持ち去ると考えられるため、竪穴内に残されるものは多くないであろう。当遺跡でも、遺棄された遺物が多く見つかる住居は少なく、廃棄・流入遺物が多くなっている。

#### (8) カマド

カマドは12軒の住居から検出された。1軒はカマドを持たない住居で、2軒は不明である。位置はすべて東壁南寄りである。規模は、全長1.90～0.90m平均1.37m、幅1.80～0.80m平均1.13mとなっている。袖部は黄褐色・灰褐色粘質土で構築しているものが多いが、褐色土・暗褐色土のものもある。自然礫を補強材としているものが1軒あるが、他は補強材なしか不明である。焚口部・燃焼部底面は、平坦なものも多く、奥壁の立ち上がりはなかなかのものが多い。

#### 1号住居 (第153図、PL.75)

**位置** A区3-T-1・2 **重複** 1溝より古

**平面形態** 隅丸方形 **規模** 2.8×2.4m

**壁高** 33cm **面積** 6.6㎡ **床面積** 5.9㎡

**主軸方位** N-11°-E **壁溝** なし

**柱穴** なし **貯蔵穴** なし

**床面・掘り方** 平坦で堅緻であるが、掘り方を床面とし、貼床なし。

**遺物出土状況** 埋土中から土器・石器が少量出土しているが、ほとんどが縄文時代の遺物である。

**カマド** なし

**出土遺物** 土師器裏が1点出土している。他に縄文土器・

石器(剥片)が出土している。

**所見** 方形で壁も垂直に近い掘り方であり、床も平坦で堅緻であるが、カマド・貯蔵穴・貼床等の施設がなく、一般的な住居ではない可能性が高い。詳細な時期も不明である。

#### 2号住居 (第154・155図、PL.76・92)

**位置** A区94-B-17・18 **重複** なし

**平面形態** 隅丸長方形 **規模** 4.60×3.10m

**壁高** 42cm **面積** 14.60㎡ **床面積** 11.50㎡

**主軸方位** N-87°-E

**壁溝** カマド右脇を除き全周 **柱穴** なし

**貯蔵穴** カマド右脇 0.45×0.43m、深さ29cm

**床面** ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床とし、ほぼ平坦で、やや硬質。

**掘り方** 全体としては北から南に向かい下がっており、土坑状の掘り込みが数ヶ所検出されている。

**遺物出土状況** 貯蔵穴西側から特に集中して出土しており、カマドから貯蔵穴にかけて多く出土しているが、床面から浮いた状態のものが多く、廃棄・流入遺物がほとんどと推定される。

#### カマド

**位置** 東壁やや南寄り **全長** 1.63m **幅** 0.90m

**主軸方位** N-90°-E

**構築** 粘土で袖を構築していたと考えられるが、残っていない。火床面は床面とほぼ同レベルであるが、燃焼部はやや下がっている。燃焼部中央に支脚の痕跡と考えられる掘り込みが、両袖部底面に袖補強材の痕跡と考えられる掘り込みがある。

**遺物出土状況** 燃焼部・煙道部から土師器裏が多く出土している。

**出土遺物** 出土総数は259点であるが、土師器249点・須恵器10点で土師器が圧倒的に多い。残りのよいものは比較的少なく、4点図示できたのみである。

**所見** 遺物は廃棄・流入のものが多く住居に遺棄されたものはほとんどない。このため時期ははっきりしないが、8世紀後半代の遺物が出土している。

#### 4号住居 (第156～158図、PL.77・92)

**位置** A区94-A・B-14・15 **重複** 5住より古

**平面形態** 隅丸長方形 **規模** 4.90×3.75m

**壁高** 70cm **面積** [16.8]㎡ (17.90)㎡

**床面積** [14.6]㎡ (15.30)㎡

**主軸方位** N-87°-E **柱穴** なし

**壁溝** 南壁は5住に切られるため西部が不明であるが、北壁・西壁・東壁の一部に存在する

**貯蔵穴** カマド右脇 0.30×0.24m、深さ14cm 貯蔵穴としては規模が小さい。掘り方で検出された北東に接する掘り込みも貯蔵穴の可能性あり。

**床面** ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床とし、ほぼ平坦で、やや硬質。

**掘り方** 東西の壁際が幅広の溝状に掘り込まれる。また、北東隅・南東隅は土坑状に掘り込まれている。

**遺物出土状況** カマドを中心とした住居の南東部に比較的集中して出土している。床面から浮いた状態のものが多く、4の須恵環も床面上の出土であるが、破片が接合したものであるため、廃棄・流入遺物と考えられる。

#### カマド

**位置** 東壁南寄り **全長** 1.10m **幅** 1.10m

**主軸方位** N-89°-E

**構築** 暗灰色粘土で袖を構築、残存状況は良好。

**遺物出土状況** 燃焼部から支脚と考えられる礫が出土している以外は、残りのよい遺物はない。

**出土遺物** 土器総数419点出土しているが、土師器390点、須恵器29点で土師器が圧倒的に多い。しかしながら、環に関しては、土師器75点、須恵器25点であり、差は比較的少ない。

**所見** 遺物は破片となっているものが多いが、遺棄、廃棄されたものもかなりあると考えられる。出土遺物からは、8世紀後半代の住居と考えられる。

#### 5号住居 (第156～158図、PL.77・92)

**位置** A区94-A・B-14

**重複** 4住より新 6住より古

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** [2.30]×[1.40]m **壁高** 65cm

**面積** [2.7]㎡ **床面積** [2.1]㎡

**主軸方位** N-75°-E **壁溝** 不明

**柱穴** 不明 **貯蔵穴** 不明

**床面** ローム粒を多量に含む黒褐色土で貼床としてい

る。やや凹凸があるが、全面調査できていないため、詳細は不明である。

**掘り方** 北東部しか判明していないが、外周が溝状に低くなる掘り方である。

**遺物出土状況** 調査した範囲では、少量の破片が全面から出土している。

**カマド** 不明

**出土遺物** 総数で90点出土しているが、土師器が81点、須恵器が7点、石製品・鉄製品が各1点で、土師器が圧倒的に多い。残存状態は悪く、須恵器環・蓋の破片が図示できただけである。石製品は砥石である。

**所見** 重複および調査区外に続くため、大部分は不明。遺物は、廃棄・流入のものが多いと考えられる。遺棄された遺物が少ないため時期ははっきりしないが、8世紀後半～9世紀前半と推定。

#### 6号住居 (第156～158図、PL.77)

**位置** A区94-A・B-14 **重複** 5住より新

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** [1.50]×[0.80]m **壁高** 70cm

**面積** [1.1]㎡ **床面積** [0.9]㎡

**主軸方位** N-84°-W **壁溝** 残存部分なし

**柱穴** 不明 **貯蔵穴** 不明

**床面** ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床とするが、残存部分が少なく大部分は不明。

**掘り方** 残存部分中央に南北に段があるが、他は不明。

**遺物出土状況** 破片が少量出土したのみ。

**カマド** 不明

**出土遺物** 土師器破片が25点出土しただけで図示できる遺物はなかった。

**所見** 大部分が調査区外のため詳細不明。出土遺物も少なく時期も不明である。

#### 12号住居 (第159～161図、PL.78・92・93)

**位置** A区4-B-20 A区14-B-1 **重複** なし

**平面形態** 隅丸長方形 **規模** 5.70×4.45m

**壁高** 58cm **面積** [21.70]㎡ (23.10)㎡

**床面積** [16.9]㎡ (17.30)㎡

**主軸方位** N-88°-E

**壁溝** 掘削部分を除き、カマド以外全周

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

**床面** ロームを含む褐色土で貼床とするが、非常に薄い。ほぼ平坦で硬化。

**掘り方** 攪乱されている南東部を除き、3つの隅にビット検出。また、北東部に土坑状掘り込みあり。他はほぼ平坦な掘り方。

**遺物出土状況** 壁際の1・4は床面上で重なって出土しているため、遺棄遺物と考えられる。また、炭化材が、中央部付近の床面上で検出されている。他の遺物は埋土中の出土で、廃棄・流入遺物と考えられる。

**カマド**

**位置** 東壁南寄り **全長** 1.30m **幅** 0.80m

**主軸方位** N-97°-E

**構築** 残存状況はあまりよくないが、自然礫を補強材として粘土で袖を構築していると推定される。礫は右袖のみの出土で倒れた状態で出土。燃焼部底面はやや下がり、立ち上がりは急である。

**遺物出土状況** 燃焼部内から土師器片が少量出土。

**出土遺物** 土器総数で318点出土しているが、土師器292点、須恵器26点と土師器が圧倒的に多い。他に、石製紡錘車と鉄製鎌が出土している。図示した遺物は10点あるが、完形で出土の1・4以外は、残存はよくない。

**所見** 炭化材が出土しているが、少量のため焼失家屋とは断定できない。時期は、遺棄と考えられる遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

**17号住居** (第162・163図、PL.79・93)

**位置** B区93-Q・R-6・7

**重複** 211ビットより古 31住・60土より新

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** 3.95×[1.80]m **壁高** 87cm

**面積** [4.80]㎡ **床面積** [3.1]㎡

**主軸方位** N-95°-E

**壁溝** 北壁と東壁一部にあり 他は不明

**柱穴** 不明 **貯蔵穴** 不明

**床面** ロームを含む暗褐色土・黄褐色土で部分的に貼床。一部掘り方を床面としている。

**掘り方** 一部調査区外に続くが、土坑状掘り込み1基あり。他はほぼ平坦な掘り方。

**遺物出土状況** 出土量は多く、残存部分のほぼ全面から

出土。床面から浮いた状態の破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどであるが、カマド右脇出土の6は遺棄遺物と考えられる。

**カマド**

**位置** 東壁南寄り **全長** 0.90m **幅** 1.00m

**主軸方位** N-98°-E

**構築** 暗褐色土を含む褐色土で袖を構築。焚口部底面はやや下がり、燃焼部立ち上がりは急である。

**遺物出土状況** 燃焼部・焚口部から9～12の土師器が破片の状態で出土。

**出土遺物** 土器総数で503点出土しているが、土師器473点、須恵器30点と土師器が圧倒的に多い。図示した遺物は12点あるが、完形・半完形は少なく、破片が多い。

**所見** 半分以上調査区外のため、不明点が多い。時期は、遺棄遺物がないためはっきりしないが、図示された遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

**21号住居** (第164・165図、PL.79・94)

**位置** B区93-Q・R-11・12 **重複** なし

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** 5.30×[2.20]m **壁高** 105cm

**面積** [9.40]㎡ **床面積** [7.2]㎡

**主軸方位** N-81°-E

**壁溝** カマドを除く東壁、北壁残存部、西壁一部

**柱穴** 北東部のビットが柱穴になると考えられる。南東部には検出されていないが、掘り方検出のビット中に柱穴の可能性もあるものもあると推定される。

**貯蔵穴** なし

**床面** 黒褐色土を含む黄褐色土で部分的に貼床とする。他は掘り方を床面とする。ほぼ平坦で、全体的に硬化。

**掘り方** 内側から壁溝状に回る掘り込みを検出。拡張の可能性もあると考えられる。他に土坑状の掘り込みが2基検出された。

**遺物出土状況** ほとんどが埋土中の出土で、破片が多く廃棄・流入遺物が大部分と考えられる。

**カマド**

**位置** 東壁南寄り **全長** 1.35m **幅** 1.15m

**主軸方位** N-88°-E

**構築** 褐色土で袖を構築。掘り方で両袖の下にビットあり。自然礫等の袖補強材の設置痕の可能性。

**遺物出土状況** 焚口部・袖上面から4の土師甕が破片の状態で出土。

**出土遺物** 土器総数で207点出土しているが、土師器196点、須恵器11点と土師器が圧倒的に多い。図示した遺物は9点あるが、完形・半完形のものはいくつか破片が多い。鉄製品・鉄滓が5点出土している。

**所見** 半分以上が調査区外のため、不明な点が多い。時期は、遺棄遺物がないためはっきりしないが、8世紀第2～第3四半期と推定。

#### 22号住居 (第166図、PL.80)

**位置** B区93-0・P-8 **重複** なし

**平面形態** 隅丸方形の可能性あり

**規模** 3.50×[0.65]m (3.35)m **壁高** 45cm

**面積** [9.50]㎡ (11.60)㎡ **床面積** [9.1]㎡ (11.20)㎡

**主軸方位** N-98°-E

**壁溝** 残存部分なし **柱穴** 不明 **貯蔵穴** 不明

**床面** 暗褐色土を含む褐色土で貼床。残存部分少なく詳細不明。

**掘り方** 土坑状掘り込み3基あり。他は削平・攪乱のため大部分不明。

**遺物出土状況** 残存部分に破片が散在。他は削平・攪乱のため不明。

**カマド** 東壁南寄り 攪乱により詳細不明。

**出土遺物** 残存状況悪く、破片が16点出土したのみ。

**所見** 削平・攪乱により大部分不明。出土遺物少なく時期不明。

#### 24号住居 (第167図、PL.80・94)

**位置** B区93-R-10・11 **重複** なし

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** [2.20]×[0.50]m **壁高** 57cm

**面積** [1.20]㎡ **床面積** [0.6]㎡

**主軸方位** N-89°-E **壁溝** 残存部分なし

**柱穴** 不明

**貯蔵穴** 掘り方検出のカマド右脇掘り込みが貯蔵穴と考えられる。[0.32]×0.58m

**床面** 大部分が調査区外のため詳細不明。

**掘り方** やや凹凸のある掘り方。大部分が調査区外のため詳細不明。

**遺物出土状況** 埋土中に散在。大部分が調査区外のため詳細不明。

**カマド**

**位置** 東壁やや南寄り **全長** [0.90]m

**幅** 1.00m **主軸方位** N-94°-E

**構築** 褐色・黒褐色土で袖を構築。燃焼部底面は平坦で、立ち上がりはなだらかである。

**遺物出土状況** ほとんど出土せず。

**出土遺物** 残存状況悪く、破片が4点出土したのみ。

**所見** 大部分が調査区外で、北部は攪乱のため詳細不明。

遺物も極めて少ない。図示した遺物は8世紀代と推定。

#### 26号住居 (第168図、PL.80・94)

**位置** B区93-Q・R-15 **重複** 167土坑より新

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** [4.50]×[0.60]m **壁高** 65cm

**面積** [3.00]㎡ **床面積** [2.3]㎡

**主軸方位** N-84°-E **壁溝** 残存部分なし

**柱穴** 不明

**貯蔵穴** カマド右脇 [0.70]×0.73m

**床面** ロームを含む暗褐色土・褐色土で貼床とし、ほぼ平坦な床面。北部を中心として硬化。

**掘り方** 細かい凹凸はあるが、全体的に平坦な掘り方。

**遺物出土状況** 埋土中に破片が散在。

**カマド**

**位置** 東壁やや南寄り **全長** 1.15m **幅** 1.20m

**主軸方位** N-87°-E

**構築** 粘土を含む褐色土・暗褐色土で袖を構築。燃焼部の底面はほぼ平坦で、奥壁はなだらかに立ち上がる。

**遺物出土状況** 破片が少量出土。

**出土遺物** 総計107点出土しているが、土師器が106点で須恵器が1点と、ほとんど土師器だけである。

**所見** 大部分調査区外のため詳細は不明で、図示可能な遺物が1点と非常に少ないため時期も不明。

#### 27号住居 (第169～171図、PL.81・94)

**位置** B区93-Q-15・16

**重複** 17土坑より新 28住と重複

**平面形態** 隅丸長方形 **規模** 5.10×3.70m

**壁高** 48cm **面積** 17.00㎡ **床面積** 12.90㎡



**主軸方位** N-86°-E

**壁溝** カマドを除いて全周 **柱穴** なし

**貯蔵穴** なし

**床面** ほほ平坦な床面で、掘り方を床面とする。

**掘り方** 北東部から南東部、南西部にかけて土坑・ビット多数検出。他は平坦な掘り方。

**遺物出土状況** 出土量は多く、中央～南部に集中する。破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどと考えられる。

**カマド**

**位置** 東壁やや南寄り **全長** 1.90m **幅** 1.80m

**主軸方位** N-93°-E

**構築** 褐灰色粘質土で袖を構築。焚口部・燃焼部底面はほほ平坦で、燃焼部奥壁はやや急に立ち上がる。煙道部はほほ水平にのび、なだらかに立ち上がる。

**遺物出土状況** 破片が少量出土したのみ。

**出土遺物** 総計686点出土しているが、土師器が663点、須恵器が18点と、土師器が圧倒的に多い。他に、鉄製品3点、銅製品1点、鉄滓1点が出土している。

**所見** 遺棄された遺物が少ないので、時期ははっきりしないが、図示された遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

**28号住居** (第172・173図、PL.82・95)

**位置** B区93-0・R-16・17 **重複** 27住と重複

**平面形態** 隅丸方形または隅丸長方形

**規模** [5.25]×[1.30]m **壁高** 67cm

**面積** [4.40]㎡ **床面積** [2.2]㎡

**主軸方位** N-85°-E

**壁溝** 東壁カマド北側にあり。南側はなし。他は不明。  
**柱穴** 不明

**貯蔵穴** カマド右脇にビットがあるが、規模小さく貯蔵穴にはならない。

**床面** ロームを含む黄褐色砂質土で貼床とし、平坦で全体的に硬化。

**掘り方** カマドから右脇にかけてビット多数検出。他は不明。

**遺物出土状況** カマド以外は破片が多く、埋土中の出土がほとんどで、廃棄・流入遺物が多いと考えられる。

**カマド**

**位置** 東壁やや南寄り **全長** 1.55m **幅** 1.30m

**主軸方位** N-89°-E

**構築** 灰褐色粘質土で袖を構築。燃焼部底面は、若干くぼむがほほ平坦で、立ち上がりはややなだらかな。

**遺物出土状況** 焚口部・燃焼部から土師器が3個体潰れた状態で出土。

**出土遺物** 総計で342点出土しているが、土師器が326点で須恵器が15点と、土師器が圧倒的に多い。他に鉄製品が1点出土している。

**所見** 住居の大部分が調査区外のため不明な点が多い。カマド以外は遺棄された遺物がほとんどなので、時期ははっきりしないが、図示された遺物から8世紀第2～第3四半期と推定。

**29号住居** (第174・175図、PL.83・95)

**位置** B区93-0・P-16・17 **重複** なし

**平面形態** 隅丸長方形 **規模** 4.55×3.35m

**壁高** 64cm **面積** 14.80㎡ **床面積** 10.50㎡

**主軸方位** N-95°-E

**壁溝** カマド・貯蔵穴を除いて全周 **柱穴** なし

**貯蔵穴** カマド右脇 1.34×0.99m、深さ31cm

**床面** 黒褐色砂質土とロームの混土で一部貼床。他は掘り方を床面とし中央部を中心に硬化。北東隅部と北西隅部がややくぼむ。

**掘り方** 中央から北部にかけてやや高く、周辺が溝状に下がる掘り方。北東部から南部にかけて土坑・ビット多数検出。

**遺物出土状況** 出土量は多く、ほぼ全面の埋土中から出土。床面から浮いた状態の破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどと考えられる。

**カマド**

**位置** 東壁やや南寄り **全長** 1.70m **幅** 1.20m

**主軸方位** N-91°-E

**構築** 灰褐色粘質土で袖を構築。焚口部・燃焼部底面はほほ平坦で、燃焼部から煙道部にかけてなだらかに立ち上がり、煙道部の奥壁はやや急に立ち上がる。

**遺物出土状況** 破片が少量出土したのみ。

**出土遺物** 総計で1,041点出土しているが、土師器が1,010点、須恵器が28点で、土師器が圧倒的に多い。他に鉄製品の破片が3点出土している。

**所見** 遺物出土量は多いが、遺棄されたものはほとんど

ないため、詳細な時期は不明である。図示された遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

### 30号住居 (第176図、PL.84・95)

位置 B区93-Q-18 重複 なし

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [2.55]×[1.55]m 壁高 55cm

面積 [3.50]㎡ 床面積 [2.9]㎡

主軸方位 N-86°-E 壁溝 残存部分なし

柱穴 不明 貯蔵穴 不明

床面 黒褐色・灰白色土を含む黄褐色土で、部分的に貼床とする。大部分が調査区外で詳細不明。

掘り方 やや凹凸があるが、全体的に平坦な掘り方。

遺物出土状況 出土量は少なく、埋土中に散在。廃棄・流入遺物がほとんどと考えられる。1の土師杯は壁際の出土で、遺棄遺物の可能性あり。

### カマド

位置 東壁 全長 1.10m 幅 1.00m

主軸方位 N-88°-E

構築 暗褐色土で袖を構築。焚口部・燃焼部底面は平坦で、奥壁手前でやや上がり、奥壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況 燃焼部から土師器片が出土している。

出土遺物 総計で65点出土しているが、すべて土師器で、須恵器や他の遺物は出土していない。

所見 大部分が調査区外で不明な点が多い。遺棄遺物が少なく時期ははっきりしないが、図示した遺物から、8世紀後半代と推定。

## 2. 掘立柱建物 (第177～183図、第23・24表、PL.85・86・95)

掘立柱建物は10棟検出されている。

### (1) 分布 (第152図)

調査区北端部に3棟、中央やや南寄りに7棟集中しており、大きく2つの群に分かれている。

### (2) 形態・規模

全体の形状が判明するものは6棟で、1間×2間1棟、2間×2間側柱1面庇1棟、2間×3間側柱4棟となっており、他は不明である。規模は長辺が最大6.6m、最小3.55m、平均5.2mで、短辺が最大4.2m、最小1.6m、

平均3.65m、面積が最大23.3㎡、最小5.85㎡、平均18.9㎡である。

### (3) 主軸方位

長辺の方向を主軸とする。南北を向くものが5棟、東西を向くものが5棟で、両者同数となっている。

### (4) 柱穴

柱穴の規模を掘立柱建物ごとの平均でみると、長径61～34cm、平均48cm、短径53～31cm、平均43cm、深さ51～26cm、平均37cmで、規模の差は比較的少ないといえる。柱痕または抜き取り痕のある柱穴は少なく、3号のビット2・ビット3に可能性があるが、はっきりしない。

### (5) 時期

出土遺物が少ないため、詳細な時期は不明である。竪穴住居との重複関係や出土遺物から、8世紀以降のものが多いと考えられる。

## 3. 欄列 (第184図、第25・26表、PL.86)

ビットが直線的に並んでいるが、建物とすることはできないものを欄列とした。

### (1) 分布

調査区中央やや南寄りに3基集中している。

### (2) 規模

長さ3.70～2.35mである。

### (3) 主軸方位

長辺の方向を主軸とする。すべて東西を向く。

### (4) ビット

長径81～42cm平均50cm、短径49～30cm平均39cm、深さ49～16cm平均33cmである。

### (5) 時期

出土遺物が少ないため、詳細な時期は不明である。8世紀以降のものが多いと考えられる。

## 4. 溝 (第185～187図、第27・28表、PL.87・88・95)

溝は9条検出されている。

### (1) 分布

調査区中央から南部に分布し、北部には見られない。

### (2) 規模

最大幅2.06～0.76m、最小幅1.53～0.36m、深さ41～5cmである。

### (3) 走向

南北方向を向くものが5条、東西方向を向くものが4

第23表 掘立柱建物一覽

No.	グリッド	層数	長さ(m)	幅(m)	基礎幅(m)	主軸方位	柱間	P1											
								P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	
1号竪立	14-A-3 19-20	25土民	5.2	3.80	19.76	N-13°-E	2×3間隔柱	基礎 ca	60	59	58	54	70	62	67	53	72	45	72
								短輪 ca	55	55	56	62	65	60	60	52	63	43	62
								深さ ca	37	34	24	47	35	25	29	26	25	27	40
2号竪立	4-A-1-2 4-B-1-2		5.9	3.9	22.62	N-85°-E	2×3間隔柱	基礎 ca	25	27	35	29	47	31	(13)				
								短輪 ca	22	43	17	18	35	25					
								深さ ca	68	78	68	47	65						
3号竪立	93-5-1 17-18	3住	5.45	4	21.8	N-10°-E	2×3間隔柱	基礎 ca	60	62	57	45	65						
								短輪 ca	68	50	75	82	70						
								深さ ca	45	47	35	31	46						
4号竪立	93-5-16 14-A-15-16	1・2溝	6			N-61°-E	不明	基礎 ca	39	38	32	31	40						
								短輪 ca	25	47	26	30	36						
								深さ ca	45	39	30								
7号竪立	46-10		3.55			N-66°-E	不明	基礎 ca	35	30	29								
								短輪 ca	29	16	30								
								深さ ca	70	46	53	64	72	39	52	54	71	80	
8号竪立	14-C-2-3		4.9	4.1	20.09	N-3°-E	2×3間隔柱	基礎 ca	65	40	50	64	53	34	41	42	55	53	
								短輪 ca	59	40	42	54	38	26	30	49	41	40	
								深さ ca	30	55	43	54	34	48	47	34	54	53	66
9号竪立	14-A-8-2-3	8土民	5.55	4.2	23.31	N-2°-E	2×2間隔柱 1固定	基礎 ca	26	53	38	40	33	45	41	32	42	52	60
								短輪 ca	40	40	38	41	42	41	23	40	40	60	60
								深さ ca	42	56	58	40							
12号竪立	14-B-5-6 14-C-6		13.30	4.1	(10.15)	N-85°-E	2×2〜	基礎 ca	35	46	45	35							
								短輪 ca	40	71	65	40							
								深さ ca	28	47	39	40							
14号竪立	93-5-13-14		6.6	(1.30)	(8.90)	N-1°-E	不明	基礎 ca	27	47	38	40							
								短輪 ca	30	22	20	20							
								深さ ca	51	67	60	52	43	36	33				
15号竪立	93-5-1-12		3.7	1.58	5.85	N-66°-E	1×2間	基礎 ca	50	60	45	45	42	36	30				
								短輪 ca	26	46	34	31	17	14	24				
								深さ ca											

第24表 掘立柱建物出土遺物一覽

	土器類										遺物類										土器計	石器類	鉄製品	銅器	総計			
	坪				溝				物	計	坪				溝				物	計								
	口縁	底	甲	小	口縁	底	甲	小			口縁	底	甲	小	口縁	底	甲	小										
1号竪立	1			1	1			1	2												0	2					2	
2号竪立		1		1	1			1	2												0	2					2	
8号竪立	1			1	2			2	3			0	1	1	1	5					0	2		7	10			10
9号竪立				0	2			2	2							0					0	2					2	
13号竪立	1			1	1			1	2												0	2					2	

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

第25表 欄列一覧

No.	グリッド	重層	長辺(m)	正軸方位	P 1			P 2			P 3			P 4		
					長軸 (x)	短軸 (y)	深さ (z)	長軸 (x)	短軸 (y)	深さ (z)	長軸 (x)	短軸 (y)	深さ (z)	長軸 (x)	短軸 (y)	深さ (z)
1号欄列	94-A・B-15		2.35	9-01° -E	45	42	32	44	35	33						
2号欄列	94-A-15	1層	3.60	9-00° -E	42	40	46	57	35	29	59	42	37	43	(25)	36
3号欄列	94-A-15	4層 1・4層	3.70	9-00° -E	61	43	27	52	48	49	42	30	28	53	37	35

第26表 欄列出土遺物一覧

	土器類										遺物類										土器計	石製品	鉄製品	他	総計				
	坪					溝					他	計	坪					溝								他	計		
	口縁	体部	底面	瓦	小計	口縁	体部	底面	瓦	小計			他	計	口縁	体部	底面	瓦	小計	口縁								体部	底面
1号欄列	1				1					0	1						0						0	1				2	
2号欄列	1		1		2					0	2						0						0	2				4	
3号欄列			4		4					0	4						0						0	4				8	

条で、南北と東西がほぼ同数である。

(4) 機能・時期

いずれの溝も、形態・埋土等から水路等の機能は考えにくく、地境等の溝であった可能性が高い。出土遺物が少なく詳細な時期は不明であるが、8世紀以降になると考えられる。

5. 土坑 (第188図、第29・30表、PL.89～91・95)

土坑は4基検出されている。

(1) 分布

分布は散漫で、集中した分布は見られない。

(2) 形態

平面形態は、楕円形3基、隅丸長方形1基で、断面形態は、台形が2基、長方形が1基、不整形が1基となっている。

(3) 規模

長径2.45～0.65m平均1.38m、短径1.54～0.48m平均0.95m、深さ48～17cm平均35cm、面積1.8～0.4㎡平均1.0㎡である。

(4) 機能・時期

特に機能が判明するような形態のものはなく、機能を限定することはできない。出土遺物も少ないため詳細な時期も不明であるが、少量の遺物から、8世紀以降のものと考えられる。

6. ビット (第189・190図、第31・32表、PL.95～98)

ビットは30基検出されている。

(1) 分布

調査区中央南寄りに集中している。

(2) 規模

長径80～23cm平均39cm、短径74～20cm平均34cm、深さ89～7cm平均28cmである。

(3) 機能・時期

ほとんどが性格不明のものである。柱痕あるいは抜き取り痕が見られるものは202号と207号の2基で、柱穴と考えられるが、他のビットは機能を断定することはできない。遺物が出土しているのは、218号と221号の2基で、時期は8世紀以降と考えられる。他のビットも同様な時期となる可能性が高い。

第27表 溝一覧

	グリップ	溝 深	長さm	最大幅m	最小幅m	深さcm	基 向
1号溝	94A-15～18・37・1・93F-18～20・3・6・7	4溝・4縦立・1横・2・3横列	62.7	1.4	0.43	35	N-12°-E
2号溝	94A-15・93F-15～18	4縦立	36	1.4	0.51	38	N-5°-E
3号溝	374・4A～G・4D～G・5	8・14・15横・195土坑	34.9	1.05	0.41	18	N-80°-W
4号溝	94A・8・15	4横・1溝・3横列	8.35	0.91	0.85	25	N-81°-W
7号溝	3・6-10～14 3・5・9～11		23.8	0.5	0.43	5	N-10°-E
8号溝	93N2・3		6.6	1.1	0.55	23	N-13°-E
9A号溝	93Q-11～13		11.6	1	0.36	8	N-10°-E
9B号溝	93P～8・14		7.25	0.71	0.67	16	N-82°-W
10号溝	93N14		2.6	2.06	1.53	41	N-36°-E

第28表 溝出土遺物一覧

	土師器										瀬貝器										土師器計	石製法	鉄製品	他	総計						
	杯					鉢					他	計	杯					鉢								他	計				
	口縁部	体部	底部	断面	小計	口縁部	体部	底部	断面	小計			口縁部	体部	底部	断面	小計	口縁部	体部	底部								断面	小計		
1号溝	4	4			8	10	1			11	19	1	2			3					0	0				3	22				2
2号溝	8	3			11	2	39			41	52	1	2			3	2	1	3		0				6	58					
4号溝					0					0	0					0					0	0			0	0	1				
6号溝		1			1					0	1					0					0	0			0	1					
8号溝	1	1	1		3	4				4	7		2	2		0					0	0			2	9				4	
10号溝			1		1					0	1					0					0	0			0	1					8

### 第3節 遺物 (PL.92～95)

遺物は、土師器、須恵器、石製品、鉄製品等が出土している。(第33表)

**土師器** 器種は、杯、甕、鉢、等が出土しており、総数5,232点出土している。甕が3,733点で杯が1,493点と、甕の出土量が杯の2倍以上となっている。

I 杯 A～Cの3類に分けられる。

A 丸底で、体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は内傾または外反する

B 平底で口縁部と体部の稜がはっきりするもの

C その他・不明

II 甕 A・Bの2類に大別できる。

A 褐色・橙色で器壁厚く、口縁部は「く」の字状を呈する

B 赤褐色・暗赤褐色で器壁薄く、口縁部は「く」の字状・「コ」の字状を呈する

1 口縁部が「く」の字状を呈する

2 口縁部が「コ」の字状を呈する

III 鉢

IV 小型土器

V その他・不明

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

第29表 土坑一覧

	グリッド	層 階	平面形状	断面形状	長径m	短径m	長辺/短辺	深さ cm	面積㎡	主軸方位
10号土坑	4E-4	14土坑	横円形	台形	0.65	0.48	1.35	17	0.40	N47°-E
40号土坑	3S-8	11土坑	横円形	台形	2.45	1.54	1.59	48	1.80	N39°-E
68号土坑	14A-2	9掘立	横円形	不正形	1.07	0.75	1.43	32	0.70	N46°-E
172号土坑	95中心-15-16	27土坑	隅丸長方形	長方形	1.34	1.03	1.30	41	1.20	N46°-E

第30表 土坑出土遺物一覧

	土器類											遺物類											土器計	石器類	鉄製品	銅製品	総計			
	埴					雑						他	計	埴				雑										他	計	
	口縁	体部	底面	小計	口縁	体部	底面	小計	他	計	口縁			体部	底面	小計	口縁	体部	底面	小計	他	計								
2号土坑	1			1				0	1					0				0			0			0	1				1	
68号土坑	2			2	4			4	6	2			2	1				1			0				3	9			9	
149号土坑				0				0	0	1			1					0			0			1	1			1		
172号土坑	1	1		2	1	4		5	7				0					0			0	1		1	8			8		

須惠器 器種は、埴、蓋、甕、壺・瓶等で、総計343点出土している。埴・蓋類が229点、甕類が101点、壺・瓶類7点で、埴類が最も多くなっている。

I 埴・碗・皿 埴・碗・皿は破片では区別がつかないため一括して分類した。器形のわかるものは、口径/高さが3/1以上のものを埴、以下のものを碗とした。皿は口径/高さが4/1以上のものを目安とした。

A 平底で底部高台の無いもの

- 1 底部回転笠切りのもの
- 2 底部切離し後全面寛削り・ナデのもの
- 3 底部回転系切り後外周寛削りのもの
- 4 底部回転系切り無調整で底部大（口径/底径<1.75）
- 5 底部回転系切り無調整で底部小（口径/底径≥1.75）
- 6 不明

B 黒色土器

C その他・不明

II 蓋

III 甕

IV 壺・瓶類

V その他・不明

石製品 砥石・紡錘車各1点が出土している。

鉄製品 鎌（不確実なもの含む）2点・刀子4点・釘3点等が出土している。他に鉄滓が3点出土している。

銅製品 青銅製の丸柄が1点出土している。

中近世遺物

中近世は、軟質陶器、陶器、磁器、銅製品（煙管吸口）等の遺物が少量出土している。

第31表 ビット一覧

No	グリッド	量 数	長さ cm	幅 cm	長さ cm
200	93-Q-8		36	34	30
201	93-P-9		31	28	16
202	93-Q-9		39	34	34
203	93-Q-8		24	21	33
204	93-Q-7		32	26	14
205	93-Q-7		42	33	19
206	93-Q-7		48	40	20
207	93-P-Q-9		90	74	69
209	93-P-Q		35	30	36
210	93-P-10		33	31	7
211	93-A-7	17 庄	(75)	(34)	64
212	93-S-14	213 ビット新	52	44	37
213	93-S-14	212 ビット旧	45	40	30
215	93-S-14		32	29	30
217	93-T-14	240 ビット	23	20	10

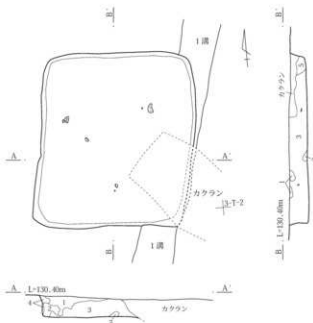
No	グリッド	量 数	長さ cm	幅 cm	長さ cm
218	93-T-14	219 ビット新	40	40	31
219	93-T-14	218 ビット旧	43	40	22
220	93-T-13		36	27	23
221	93-T-13		51	40	27
223	93-T-13		38	36	37
225	93-T-13		45	35	13
227	93-T-13		33	28	20
228	94-A-13	93-T-13	33	32	10
229	94-A-13	93-T-13	40	39	24
230	93-T-13		28	24	25
234	93-T-12		38	36	30
235	94-A-12		42	42	36
236	94-A-12	(33)	(27)		28
240	93-Q-10		34	32	20
241	93-T-13・14	217 ビット	38	31	26

第32表 ビット出土遺物一覧

	土師器										瀬原器										土師器計	石製品	銅製品	他	総計					
	坪					溝					他	計	坪					溝								他	計			
	口縁	体部	底面	甲壳	小計	口縁	体部	底面	甲壳	小計			他	計	口縁	体部	底面	甲壳	小計	口縁								体部	底面	甲壳
218号坪					0					0	1	1													0	1				1
221号坪	1				1					0		1														0	1			1

第33表 奈良時代以降出土遺物一覧

点数	土器類										漆器類										土器計	新石器類	中世世陶器	磁器	石製品	鉄製品	銅製品	金	銀	合計						
	坪					壺					貯					器・箱																				
	口縁	体部	底面	※元	小計	口縁	体部	底面	※元	小計	口縁	体部	底面	※元	小計	口縁	体部	底面	※元	小計											蓋	他	計			
	口縁	体部	底面	※元	小計	口縁	体部	底面	※元	小計	口縁	体部	底面	※元	小計	口縁	体部	底面	※元	小計											蓋	他	計			
345	753	185	10	1,493	106	3,510	34	1	3,733	6	5,232	110	64	28	4	206	11	77	13	101	1	6	0	7	23	6	343	5,375	6	9	1	2	17	2	4	5,634

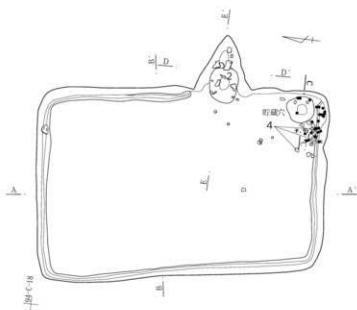


- A-A・B-B
- 1 黒褐色砂質土(09D3/2) As-C組、細粒、やや硬。
  - 2 黒褐色砂質土(09D3/2) 細粒、ロームの有無で3層と区別、1層より粗。
  - 3 2層C1～3cm大のローム粒まばらに含む、密、やや硬。
  - 4 ロームブロック
  - 5 帯灰色砂質土(09D4/1) 細粒、密、粘性あり。

第153図 1号住居

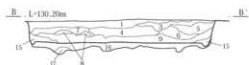
0 1:60 2m





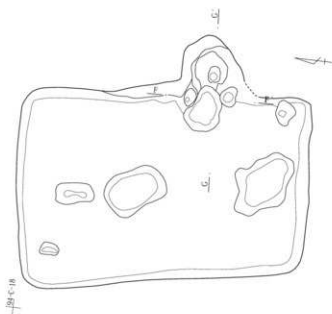
A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 中々軟質、白色～黄白色軽石をやや多くローム粒子を少量含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) 中々軟質、白色～黄白色軽石を微量にローム粒子をやや多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 黄白色軽石粒を少量含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒子多く、ロームブロックを散見含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 黄白色軽石粒を少量、ロームブロックをやや多く含む。
- 6 に近い黄褐色土(10YR5/6) 黄白色軽石粒を少量、ロームブロックを多く含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 黄白色軽石粒を少量含む。
- 8 黄褐色土(10YR5/6) 黄白色軽石粒を少量含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) 中々軟質、ローム粒子を全体的にやや多く含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック少量、炭化物微量含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/2) 中々軟質、ローム粒子少量含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量、ロームブロック微量含む。
- 13 褐色土(10YR4/4) 軟質、ローム粒子を主体とする。
- 14 黒褐色土(10YR2/2) 軟質、ローム粒子微量含む。
- 15 黒褐色土(10YR3/1) 軟質、ローム粒子極微量含む。
- 16 に近い黄褐色土(10YR4/3) しまり有、硬質ロームブロックを多く含む。腐敗。
- 17 褐色土(10YR4/6) ロームを主体とする層。



C-C'

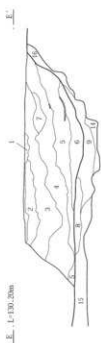
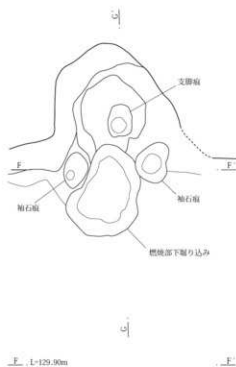
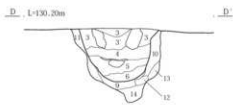
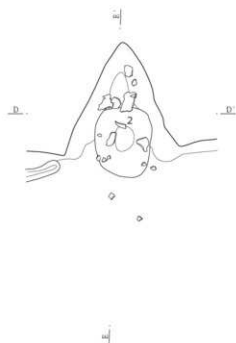
- 18 灰黄褐色土(10YR5/2) 軟質、カマドから炭が込入れた泥、粘土粒子を多く含む。
- 19 褐色土(10YR3/2) 塊土ブロックを多く含む。
- 20 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒子微量、ロームブロックやや多く含む。



0 1:60 2m

第154図 2号住居(1)

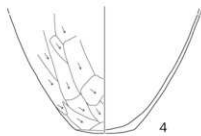
第5章 奈良時代以降の遺構と遺物



0 1:30 1m

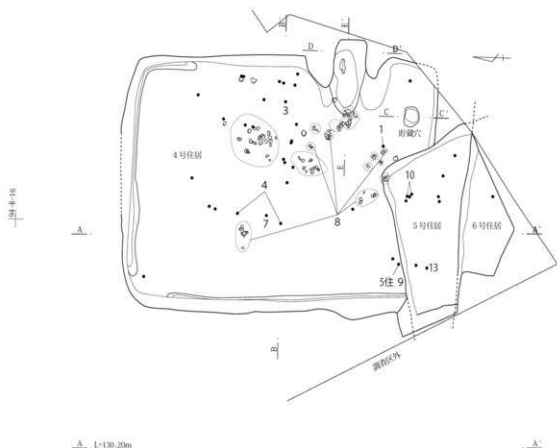
D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(00R3/2) しまりやや有、ローム微粒子を多く含む。
  - 2 黒褐色土(00R3/2) ロームブロック、白灰色粘土を多く含む。
  - 3 黒褐色土(00R2/2) ローム粒子、ロームブロックをやや多く、粘土塊を少量含む。
  - 3' 黒褐色土(00R2/2) ローム粒子、ロームブロックをやや多く、粘土塊、焼土粒を少量含む。
  - 4 にぶい黄褐色土(00R4/2) しまり微い、粘性微い、黄灰～白灰色粘土塊を多く含む。
  - 5 暗褐色土(00R3/3) ローム粒多く、焼土ブロック、炭化物を少量含む。
  - 6 黒褐色土(00R3/2) 焼土粒子、灰をやや多く、ローム粒を少量含む。
  - 7 粘土塊
  - 8 黒褐色土(00R2/2) やや軟質、硬質粘土塊、灰、炭化物をやや多く含む。
  - 9 暗褐色土(00R3/3) 軟質、ローム粒子を多くブロックを少量、灰をやや多く含む。
  - 10 暗褐色土(00R3/4) やや硬質、白灰色粘土ブロックを多く、ローム粒子、ブロックをやや多く含む。
  - 11 0層と同質
  - 12 黒色土(00R2/1) 黒色粘土塊。
  - 13 褐色土(00R4/4) しまり有、ローム粒子を主体とする。
  - 14 黒褐色土(00R3/2) 軟質、ローム粒子を多く含む。
  - 15 褐色土(00R4/4) 上面にやや硬化した面を持つ、ローム粒子を主体とする層。
  - 16 暗褐色土(00R3/2) 軟質、ローム粒子を多く含む。
- F-F'・G-G'
- 1 暗褐色土(00R3/4) ローム粒を主体とする。
  - 2 褐色土(00R4/4) やや軟質、ローム粒多く、硬質ロームブロック少量。

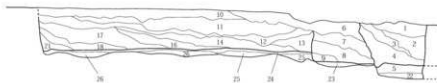


0 1:3 10cm

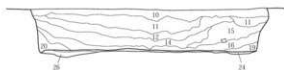
第155図 2号住居(2)



A, 1:130, 20m



B, 1:130, 20m



B

C, 1:129, 20m

C-C'  
1 黒褐色砂質土(10193/3) 1mm大ローム粒多量。  
ロームブロック少量。

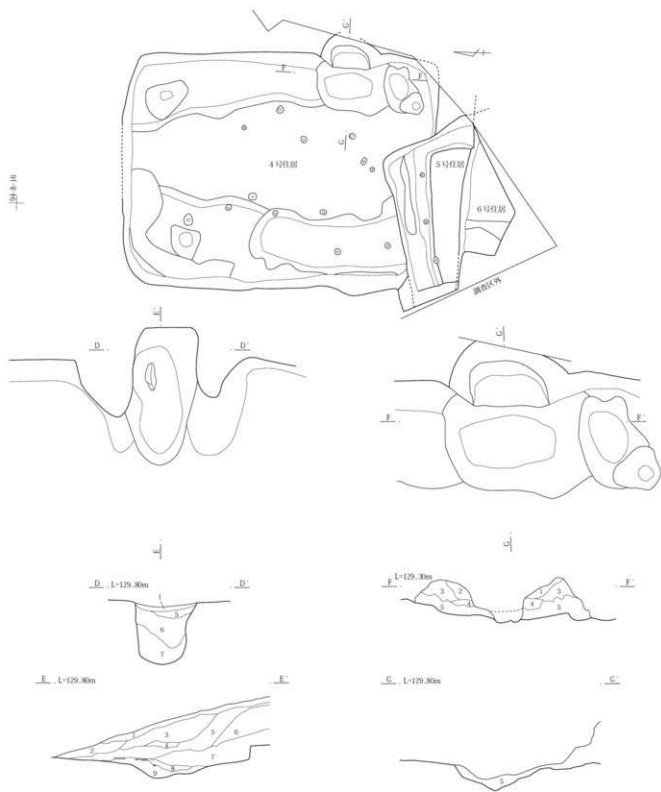
A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10192/3) やや軟質、ローム粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土(10192/2) ローム粒子を全体的に少量含む。
- 3 黒褐色土(10193/3) ローム粒子、ブロックを微量含む。
- 4 暗褐色土(10193/4) ローム粒子を多く、黄褐色砂粒を微量含む。
- 5 に近い黄褐色土(10194/3) ローム粒子をやや多く、ロームブロックを少量含む。
- 6 褐色土(10194/4) やや軟質、ローム粒子を多く含む。
- 7 暗褐色土(10193/3) ローム粒子少量、白色砂粒微量含む。
- 8 黒褐色土(10192/3) しまり少、焼土粒子やや多く、ローム粒子微量含む。
- 9 黒褐色土(10193/1) やや軟質、ロームブロック少量含む。
- 10 黒褐色土(10193/1) 白色砂粒をやや多く、ローム粒を少量含む。
- 11 黒褐色土(10193/2) 白色砂粒をやや多く、ローム粒を少量含む。
- 12 黒褐色土(10193/2) 軽石の混入が認められる。土質は14層と同。
- 13 に近い黄褐色土(10194/3) ローム粒、ブロックを多く含む。

- 14 黒褐色土(10192/2) ローム粒子、ブロックをやや多く、白色砂粒を少量含む。
- 15 暗褐色土(10193/3) やや軟質、ローム粒を全体的に少量含む。
- 16 黒褐色土(10193/2) ローム塊粒を多く、炭化物を微量含む。
- 17 黒褐色土(10193/1) しまりやや強い、ロームブロックを微量含む。
- 18 褐色土(10194/4) しまり強い、ローム粒子を多く、ロームブロックをやや多く含む。
- 19 黄褐色土(10194/3) 軟質、ローム粒、炭を少量含む。
- 20 黒褐色土(10192/1) 軟質、ロームブロックを微量含む。
- 21 黒褐色土(10192/1) 2層と同質。
- 22 に近い黄褐色土(10194/3) ローム主体、白色砂を少量含む。
- 23 黒褐色土(10193/2) ローム粒を多く含む。
- 24 に近い黄褐色土(10194/3) やや軟質、ロームブロックを多く含む層。
- 25 黒褐色土(10193/1) やや軟質、ローム粒子を少量含む。
- 26 褐色土(10194/4) ローム粒を主体とする。

0 1:60 2m

第156図 4号・5号・6号住居(1)



D-D'・E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/2) やや軟質、ローム粒を多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘質、灰色～黒褐色粘土層を主体とし、ローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR4/1) 粘質やや中、灰～黒色粘土の塊を多く、白色軽石粒を少量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/2) 軟質、ローム粒を多く含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/2) 軟質な粘土粒子を多く、焼土ブロックを微量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/2) 焼土ブロック、焼土粒子、粘土粒子をやや多く含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/7) 暗褐色粘土ブロックを主体とし、ローム粒子、焼土粒ブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土(2.5Y3/0) 硬質、焼土粒子を少量含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 灰を多く、ローム粒を少量含む。

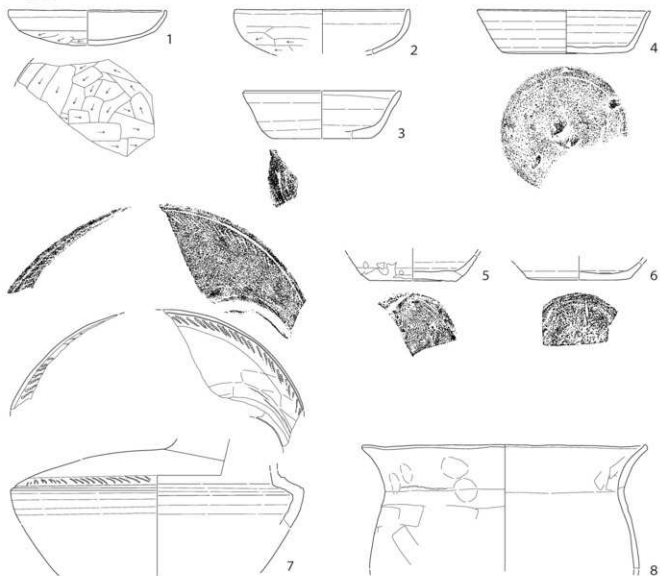
F-F'・G-G'

- 1 黒褐色土(10YR4/1) 粘土を主体、一部焼熱して焼土化している。
- 2 灰褐色土(10YR6/0) 粘土を主体とし、大部分が焼熱して焼土化している。
- 3 暗褐色土(2.5Y3/0) 粘土を主体とする層の芯状、焼熱。
- 4 暗褐色土(10YR3/2) ローム粒、焼土粒を多く、粘土の混入が少ない。
- 5 暗褐色土(10YR2/2) 3cm未満のロームブロック多量。

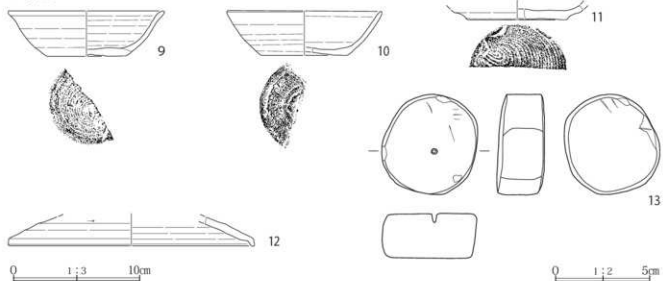
0 1:30 1m

第157図 4号・5号・6号住居(2)

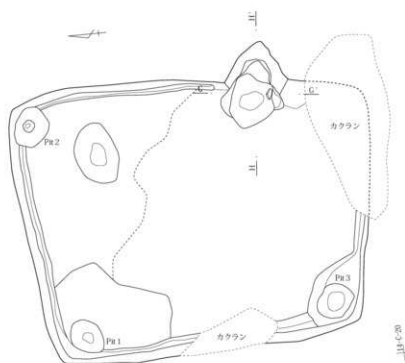
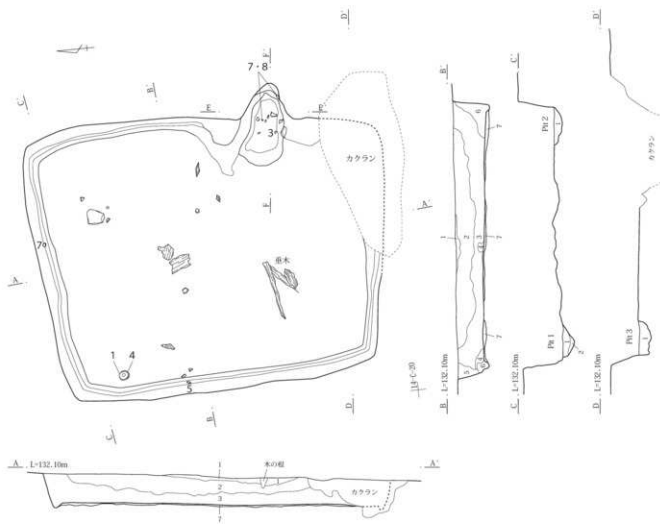
## 4号住居



## 5号住居



第158图 4号・5号住居出土遺物



A-A'・B-B'

1 珪質土(100R3/3) As-砂多量、As-Pr一部1次堆積のブロック。

2 珪質土(100R3/1) 密、やや硬、As-C混。

3 珪質土(100R3/2-3/3) As-C混、密、やや硬、1~3cm大ロームを全体に含み、カマド近くの中央部では焼土あり。全体に炭化物多量。

4 掘中のロームブロック

5 にふい黄褐色砂質土(100R4/3) やや密、弾力あり、内壁面のみ分布。

6 珪質土(100R3/2-3/3) 3層と同様状、ロームが少く少ない。

7 珪質土(100R4) しまり有、硬質ロームブロックを主体とする限り床層。

C-C'・D-D'

1 珪質土(100R3/3) 軟質、硬質ロームブロックをやや多く含む。

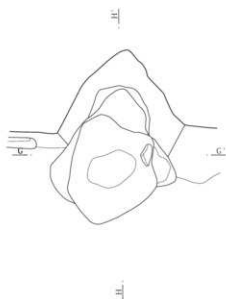
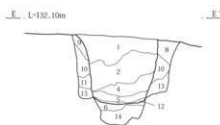
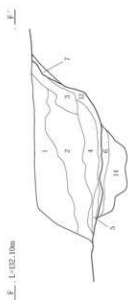
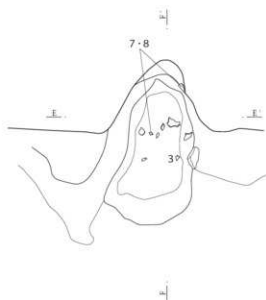
2 珪質土(100R5/3) 硬質の黄色ロームを主体とする。

第159図 12号住居(1)

## 遺構・遺物

### E-E'・F-F'

- 1 黒褐色土(00R2/2) やや軟質。ローム粒子をやや多く、  
 灰く輝石を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(00R4/2) 粘質。崩落した粘土(焼土粒含む)を多  
 く、ローム粒子を少量含む。
- 3 にふい黄褐色土(00R4/3) ローム崩壊土を主体とし、焼土  
 ブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土(00R3/3) ローム粒子を多く、崩落した粘土塊と  
 焼土粒子をやや多く、灰を少量含む。
- 5 黒褐色土(2.50R3/2) 灰。焼土粒子を主体とする。カマド崩  
 壊土の凝じた灰層。
- 6 暗褐色土(00R3/3) 粘質。ロームブロック少量、粘土塊を  
 多く含む。
- 7 にふい黄褐色土(00R4/3) 全体的に焼熱し焼土化している。  
 ローム粒子を多く含む。
- 8 黄灰色土(2.50V/1) 粘土を主体とする、やや焼熱し焼土ブ  
 ロック化している。
- 9 オリーブ褐色土(2.50V/3) 軟質。ローム粒子微量含む。
- 10 暗褐色土(0.50R4/4) 焼土ブロックを多く含む。焼熱した壁層。
- 11 暗褐色土(00R3/2) ローム粒子、焼土粒子少量含む。
- 12 灰赤色土(2.50R4/2) 灰層。細かな焼土粒子を多く含む。
- 13 暗褐色土(00R3/3) 軟質。ロームブロックを多く含む。
- 14 黄灰色土(00R4/1) 粘土を主体としローム粒子を少量含む。

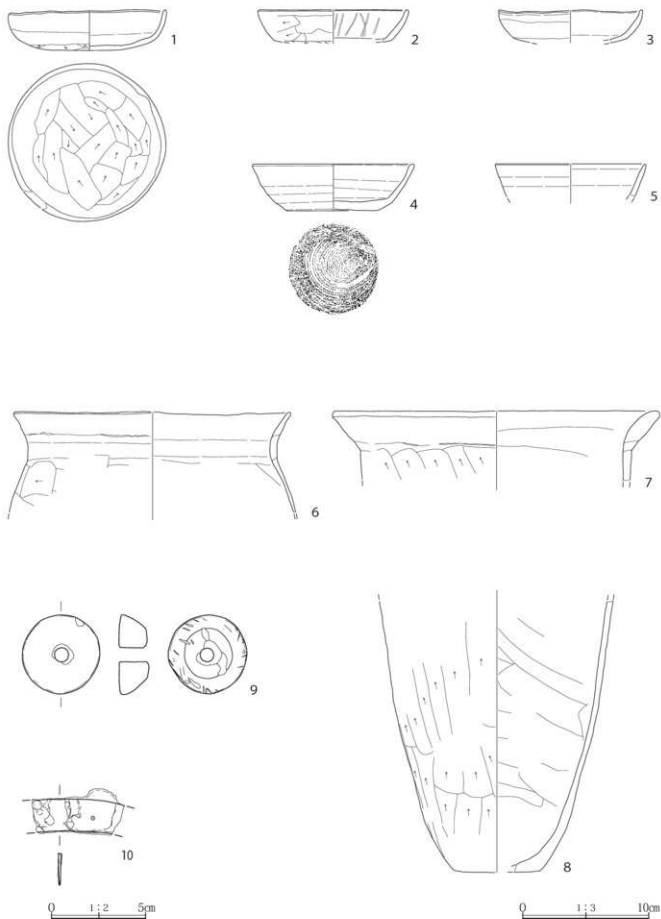


### G-G'

- 1 黄灰色土(00R4/1) 粘質。やや硬質な粘土塊を  
 主体とする。焼土粒子微量含む。
- 2 黒褐色土(00R3/2) 粘土塊をやや多く、焼土粒  
 子微量含む。
- 3 にふい黄褐色土(00R4/3) やや軟質。焼土粒子  
 少量含む。
- 4 黒褐色土(00R2/2) ローム粒子をやや多く含む。
- 5 暗褐色土(00R3/3) やや軟質。ロームブロック  
 を多く含む。

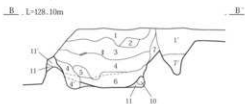
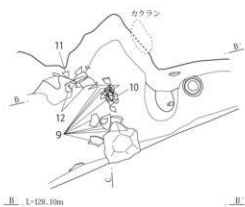
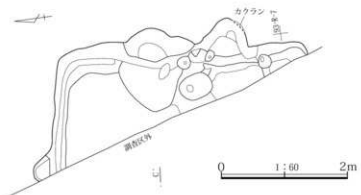
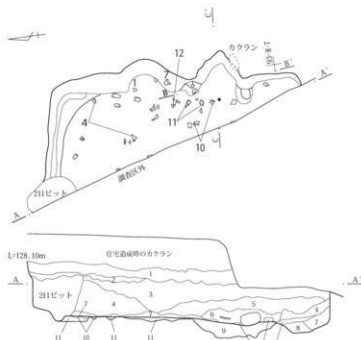
0 1:30 1m

第160図 12号住居(2)



第161図 12号住居出土遺物





A-A'

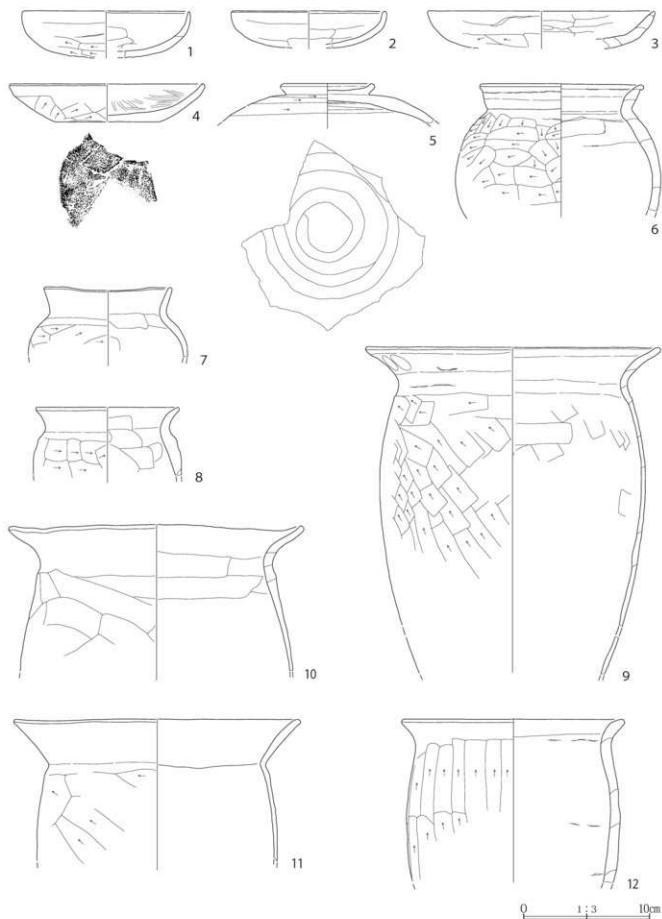
- 1 黒褐色土(07R3/2-4/2) 灰色がかった土、白い軽石混じり。
- 2 暗褐色土(07R3/3-4/2) ロームかロームブロック混じり、白い軽石あり、1層より明るい。
- 3 暗褐色土(07R3/3-2/2) As-C5しき軽石が多く混じる。ローム粒少し混じる。
- 4 黒褐色土(07R2/3) As-C5しき軽石が多く混じる。ローム粒ほとんど混じら3層より明瞭が強い。
- 5 暗褐色土(07R3/3-2/2) ローム粒、As-Cを含む。焼土粒少しあり、輪郭の弱いロームブロック少しあり。
- 6 暗褐色土(07R3/3) As-C5しき軽石わずかにあり。焼土粒、細かな炭粒あり。ローム、粘土のブロックを含む。
- 6' 暗褐色土(07R4/3) 粘土ブロック。
- 6'' 暗褐色土(07R2/3-3/3) カマド使用面の灰を多く含む。カマド跡に近い。
- 7 暗褐色土(07R3/3) やや軟、ローム混じり。細かなロームブロックあり、As-C5しき軽石少しあり。
- 7' 暗褐色土(07R3/3-3/2) 7層に比べやや灰色がかった土。カマドの粘土質の土混じり。焼土粒少しあり、ローム粒、ロームブロックあり。
- 8 暗褐色土(07R3/3-2/2) ローム粒少し混じる。ロームブロックが目立つ、やや軟。
- 9 褐色土(07R4/4) ローム暗褐色土混じり、ロームブロックを多く含む。土位は硬く区別が下位はやや軟。
- 10 暗褐色土(07R3/4) ローム混じり、ロームブロックを多く含む。
- 11 暗褐色土(07R3/6-4/6) 地山(As-C61、ハードローム)のロームを主とする。暗褐色土少し混じる。

B-B'・C-C'

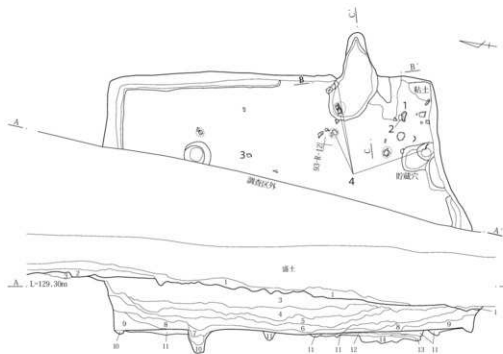
- 1 暗褐色土(07R3/3-2/2) As-C軽石を含む。明瞭の強い土。
- 1' 暗褐色土(07R3/4) 1層に近いややローム混じり。
- 2 暗褐色土(07R3/4) ローム粒、ロームブロック少し混じる。焼土粒混じり、灰色がかった粘土ブロックに少し混じる。As-C軽石少しあり。
- 3 暗褐色土(07R3/3-3/4) ローム粒、ロームブロック、焼土粒、粘土を含むが2層より少ない。As-C軽石あり。
- 3' 暗褐色土(07R3/3-3/4) 3層に近い土だが粘土はなし。焼土粒は僅かにあり。
- 4 暗褐色土(07R3/4-4/2) 焼土粒、ローム粒あり。粘土質の土を多く含む。
- 4' 暗褐色土(07R3/4-4/2) 焼土粒、ローム粒を含む。粘土質の土は4層より少ない。
- 5 赤褐色土(07R4/4) 粘土ブロックの塊。暗褐色土混じり。
- 6 暗褐色土(07R3/3-3/2) やや暗灰色がかって見える灰を含むと思われる。焼土粒、粘土ブロックあり。ロームブロック少しあり。
- 6' 暗褐色土(07R3/3) 6層のように灰を含むが、ローム粒も多く含む。
- 7 暗褐色土(07R3/3) ローム、粘土質の土混じり。カマド跡部を作っていた土の塊と思われる。
- 7' 暗褐色土(07R3/3-2/2) ローム粒、ロームブロック混じり。
- 8 暗褐色土(07R4/4-3/4) 暗褐色土ローム混じり。ロームブロックを多く含む。土面はしまりよし、下位はやや軟。
- 9 褐色土(07R4/4-4/4) ローム土体の土塊。暗褐色土わずかに混じる。
- 10 黒褐色土(07R3/1-2/1) 周囲に比べ灰色色に見え、粘土のブロック。
- 11 褐色土(07R4/4) ローム暗褐色土混じり、白い軽石あり。カマドを作っている土。
- 11' 暗赤褐色土(07R3/6-4/6) 11層の焼土化が顕在した。



第162図 17号住居

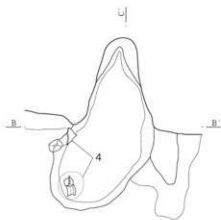


第163図 17号住居出土遺物

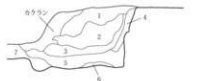


A-A'

- 1 黒褐色砂質土 遺土直前までの耕作土。
- 2 1層にロームが軸状に混入。
- 3 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。弾力のある細粒土。ローム、ローム断片等の1~2cm大塊あり。均質、密。
- 4 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。弾力のある細粒土。3層に見られた塊状少なく、3、5層よりも重い。均質、密。
- 5 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。弾力のある細粒土。大粒のロームがまばらに混入。均質、密。
- 6 褐色砂質土 弾力のある細粒土。As-C、ローム粒を全体に含み、人為的な層状かと思われる。均質、密。
- 7 6層に最大3cmのロームが塊状に混入し、中央部、床面近くのみ分布する。
- 8 黒褐色砂質土 As-C、ローム粒を全体に含み、6層と同様な層状と思われる。
- 9 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。8層よりも黒くロームが大粒。
- 10 9層に黄褐色ロームが混入。
- 11 黄褐色ローム 14層より小粒。黒褐色砂質土やローム断片等を混入。厚膜、粘床材。
- 12 黄褐色ローム 混入物が1層より少ない。ロームブロックが14層より小粒。厚膜。
- 13 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。
- 14 黄褐色ローム 履き起したものを圧した様で3~5cm大ブロック状。厚膜。



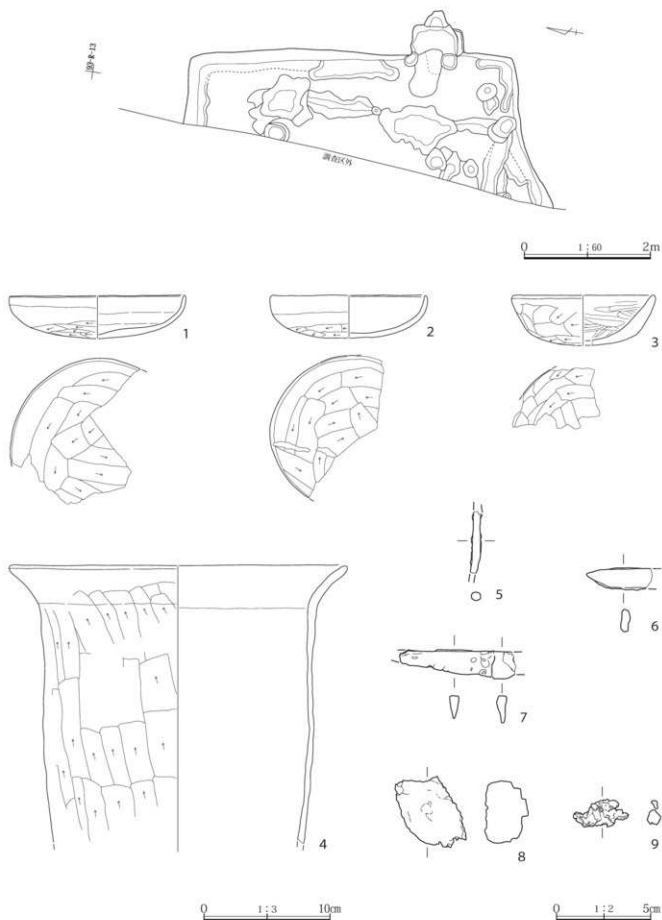
B-B' C-C'



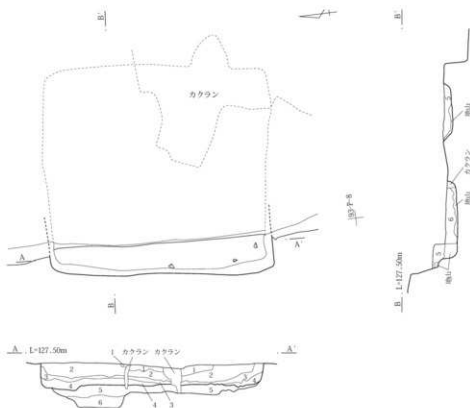
B-B' C-C'

- 1 褐色砂質土 灰色粘土と黒褐色粘土の複層土。ローム粒、粘土粒を全体に含む。均質、密。
- 2 黒褐色粘土 薄粘性。密、硬。
- 3 2層と灰色粘土との硬泥土。
- 4 2層に多量の灰を含む。
- 5 3層と同質。3層よりも灰色粘土が多く、大粒の粘土も混入。
- 6 3層にローム粒混入。ロームは最大2cmで壁からの剥落混入。
- 7 褐色砂質土 1層と同質。1層よりも粘土が多い。
- 8 1層と粘土の混土。壁面の前面で粘土は大粒で厚膜堆積。

第164図 21号住居(1)

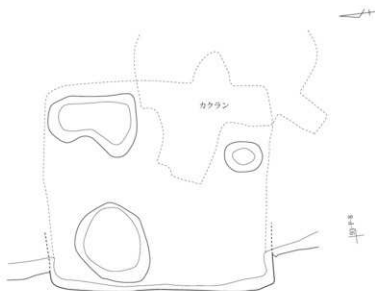


第165図 21号住居(2)



A-A・B-B

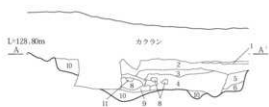
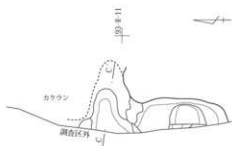
- 1 暗褐色土(00R3)③ 6c礫石を含む。場所により多少のムラあり。ローム状。ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土(00R2)④-④ 6c礫石を含む。ローム状。ロームブロックを含む。1層よりロームが多い。
- 3 暗褐色土(00R2)③-③ 6c礫石を含む。栗味の強い土。ローム状。ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土(00R3)④ ローム状。ロームブロック混じり。6c礫石多量混じる。
- 5 褐色土(00R4)④ 地山に暗褐色土が少し混じった雑な土。床下の土と思われる。
- 6 暗褐色土(00R3)④-④ 地山のローム。暗色帯などの混じり。ロームブロック。白い細かい礫石あり。床下土混入。



0 1:60 2m

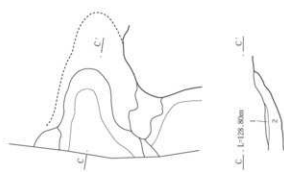
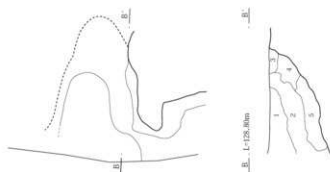
第166図 22号住居

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物



- A-A'
- 1 褐色砂質土
  - 2 層と回溝、ローム粒の混入ほとんど無い。
  - 2 褐色砂質土
  - 3 A-Cとローム粒を混拌して全体に混入。
  - 3 褐色砂質土
  - 4 A-Cとローム粒を全体に混入。炭粒もあり。
  - 4 褐色砂質土
  - 5 層にカマドから流出した焼土が混入。
  - 5 褐色砂質土
  - 6 A-Cとローム粒が混入。
  - 6 に近い黄褐色砂質土
  - 7 4層と層の混土。均質。所、焼土がレンズ状に集中。
  - 8 黒褐色粘質土
  - 9 強い粘性。
  - 9 注記なし
  - 10 褐色砂質土
  - 11 注記なし

0 1:60 2m



- B-B'
- 1 褐色砂質土
  - 2 褐色~黒褐色粘質土
  - 3 強い褐色砂質土
  - 4 焼土
  - 5 層に2~30cmのロームと焼土を多量に混入。

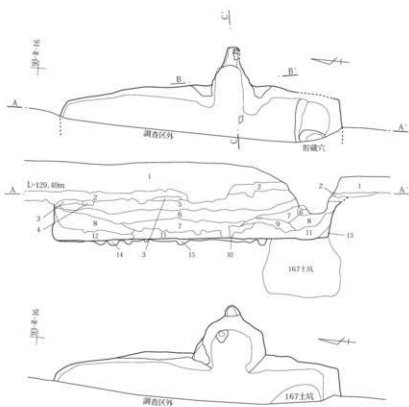
0 1:30 1m

- C-C'
- 1 焼土
  - 2 褐色砂質土
  - 3 黒褐色粘質土



0 1:3 10cm

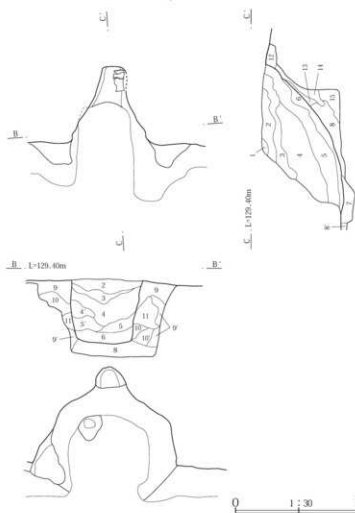
第167図 24号住居



A-A'

- 1 跡土 市造宅造による。
- 2 暗褐色砂質土 軽石、熟砂粒多量。細粒土、厚膜。宅造前の耕作土。
- 3 1層と同質 1層より深い。
- 4 ロームブロック カマドの胎着跡にも使用されるソフトローム相当。
- 5 暗褐色砂質土 弾力のある細粒土。As<を全体に混。3~5cm以上の薄い黄褐色砂質土が混入。赤、硬。
- 6 5層と同質 5層より深い黄褐色砂質土が多い。
- 7 濃い黄褐色砂質土 ローム層群様の弾力のある細粒土。カマドから流出した粘土や焼土少量。均質。赤、硬。
- 8 7層と同質 7層より焼土、ローム粒が多い。
- 9 靑灰色粘質土 細粒。赤、焼土あり。
- 10 7層と9層同率の混土。
- 11 7層と黒褐色砂質土の混成土 均質。赤。
- 12 11層と同質 11層より黒褐色砂質土が多い。
- 13 As<混黒褐色砂質土 厚膜のみにあるブロックで粘付した黄土土か。
- 14 暗褐色土(010R4/4-4/0) ローム粒混じり。ロームブロックを含む。上面は硬くする。下ははや軟。
- 15 褐色土(010R4/0) 暗褐色土、ローム混じり。ローム主体。

0 1:60 2m



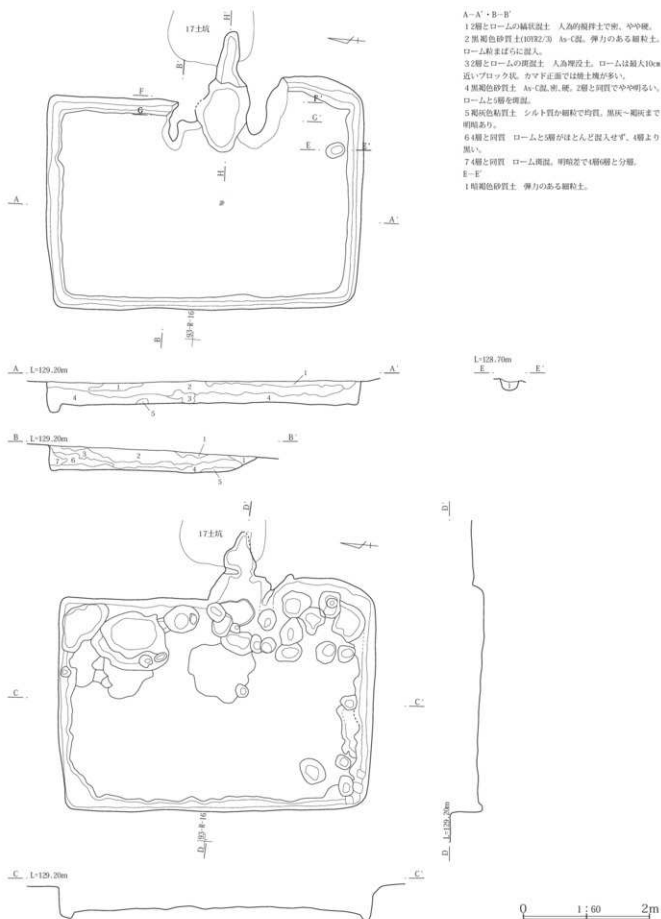
B-B'・C-C'

- 1 黒褐色土(010R2/3) ローム粒、ロームブロック少し混じる。As<らしい軽石を含む。
- 2 暗褐色土(010R3/3-4/3) ローム粒、ロームブロック混じり。As<らしい軽石あり。焼土粒少しあり。
- 3 灰黄褐色土(010R4/2-3/2) 青灰色に見える粘土質の土を多く含む。ローム粒ロームブロックあり。焼土粒あり。As<らしい軽石わずかにあり。
- 4 暗褐色土(010R3/4-4/0) ローム粒、ロームブロックを含む。As<らしい軽石あり。焼土粒少しあり。2階に近いがロームブロックは2階ほどは確認が見えない。
- 4' 暗褐色土(010R2/3) As<混。ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒少しあり。
- 5 暗褐色土(010R3/0) ローム粒、ロームブロック混じり。4階に比しAs<軽石はわずか。赤膜が強い。焼土粒、焼土ブロックあり。粘土質の土ブロック状に少し混じる。
- 5' 褐色土(010R4/4-3/0) 5階に比しローム分を多く含む。
- 6 黒褐色土(010R3/2-3/0) 灰を含有し。焼土ブロック、焼土粒あり。ローム粒、ロームブロック少し混じる。
- 7 黒褐色土(010R3/2) 灰膜の強い土。灰混じり。焼土粒を含む。
- 8 暗褐色土(010R3/0) ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒。焼土ブロック混じる。
- 8' 暗褐色土(010R3/3-3/2) 7階に近いがローム分を少なく含む。
- 9 褐色土(010R4/4-3/0) 暗褐色土。ローム混じり。ロームブロック少しあるが比較的よく混じっている。白い軽石あり(カマドの構築のため混入した)。
- 9' 褐色土(010R4/4-3/0) 8階に近いがロームブロック、軽石ほとんど無し。やや軟。
- 10 暗褐色土(010R3/0) 暗褐色土中に粘土のブロックを多く含む。焼土粒。焼土ブロックあり。
- 10' 暗褐色土(010R3/0) 粘土ブロックほとんど無し。焼土粒少しあり。
- 11 濃い赤褐色土(010R4/4-3/0) 焼土土が混入した。元はローム暗褐色土混じりの土と思われる。粘土のブロックあり。白い軽い軽石あり。焼土ブロック、ロームブロック小さいものが少しあり。
- 12 暗褐色土(010R3/3) ローム粒混じり。焼土粒。焼土ブロック少しあり。
- 13 濃い赤褐色土(010R4/4-3/0) 焼土の集り中。
- 14 濃い黄褐色土 粘土を主体とする。暗褐色土。ローム少し混じる。
- 15 褐色土(010R4/0) ローム、暗褐色土混じり。焼土粒わずかに混じる。

0 1:30 1m

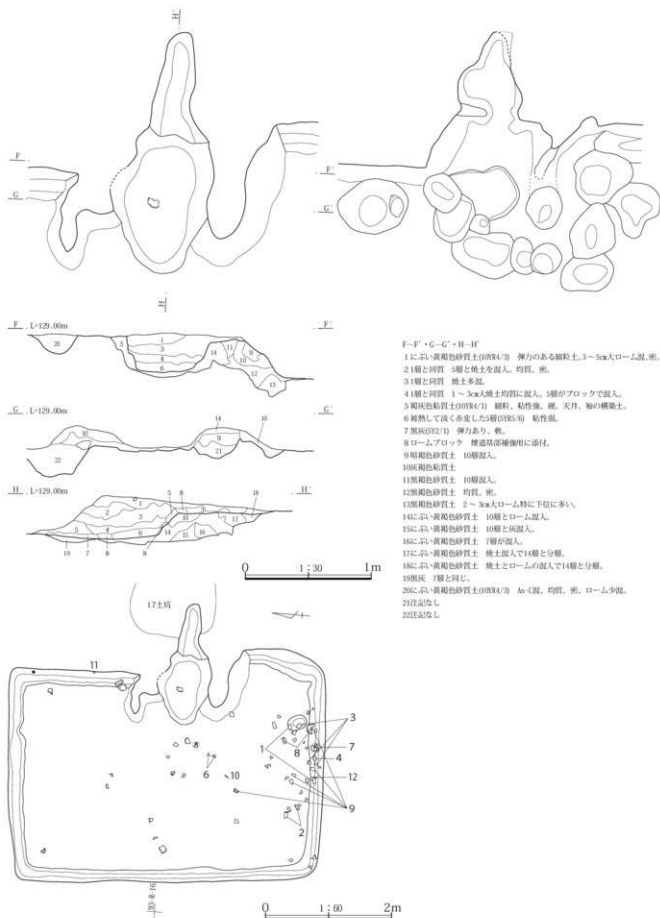
0 1:3 10cm

第168図 26号住居



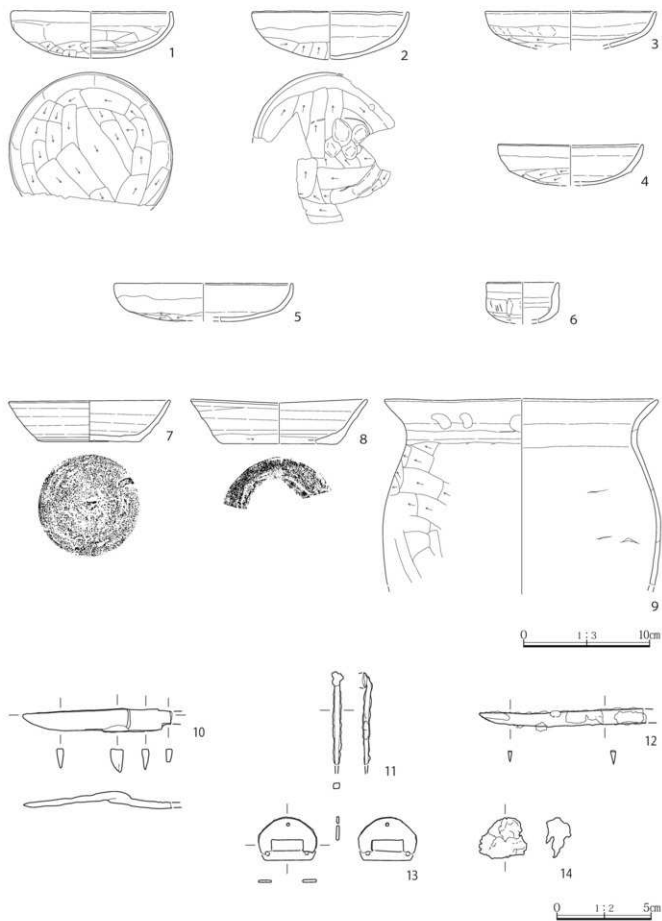
第169図 27号住居(1)



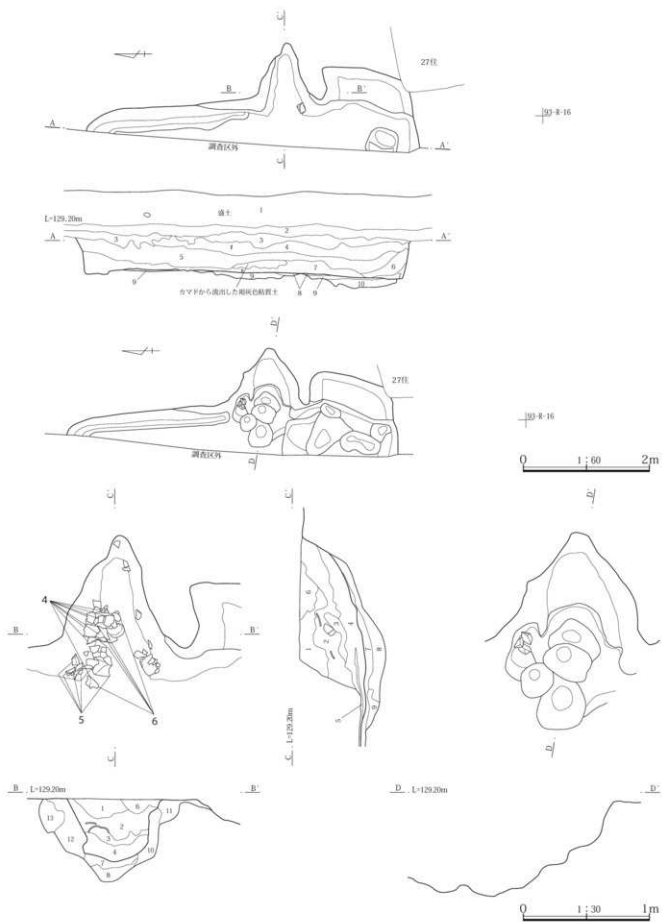


F-F'・G-G'・H-H'

- 1 灰・黄褐色砂質土(03R4/3) 弾力のある細粒土。3~5cm大ローム混。密。
- 2 1層と同質 3層と粘土を混入。均質。密。
- 3 1層と同質 粘土多混。
- 4 1層と同質 1~3cm大粘土均質に混入。5層がブロックで混入。
- 5 褐色粘質土(03R4/1) 細粒。粘性強。軟。天井。軸の礫混土。
- 6 焼熱して淡く赤化した3層(03R5/3) 粘性強。
- 7 黒灰(52/1) 弾力あり。軟。
- 8 ロームブロック 壁造基部補強用に添付。
- 9 暗褐色砂質土 10層混入。
- 10 灰褐色粘質土 10層混入。
- 11 灰褐色砂質土 10層混入。
- 12 黒褐色砂質土 均質。密。
- 13 黒褐色砂質土 2~3cm大ローム特に下位に多い。
- 14 灰・黄褐色砂質土 10層とローム混入。
- 15 灰・黄褐色砂質土 10層と灰混入。
- 16 灰・黄褐色砂質土 7層が混入。
- 17 灰・黄褐色砂質土 粘土混入で14層と分離。
- 18 灰・黄褐色砂質土 粘土とロームの混入で14層と分離。
- 19 黒灰 7層と同じ。
- 20 灰・黄褐色砂質土(03R4/3) Av-C混。均質。密。ローム少混。
- 21 土記なし
- 22 土記なし



第171図 27号住居出土遺物



第172図 28号住居

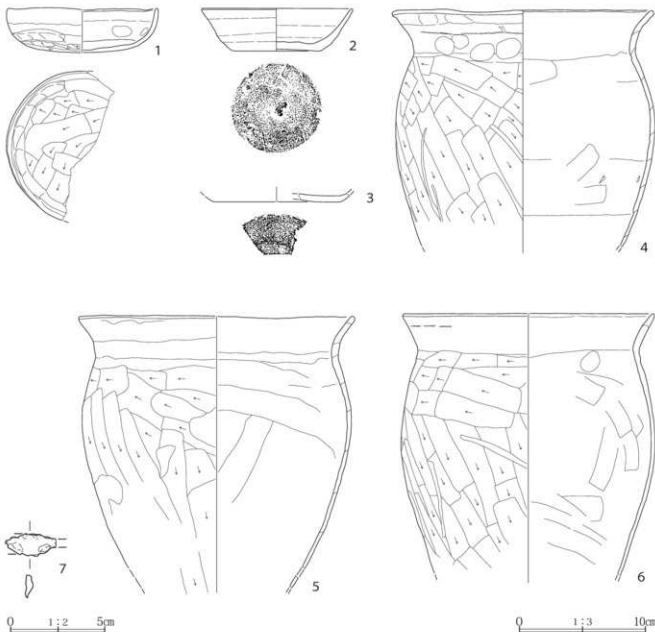
## 第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

A-A'

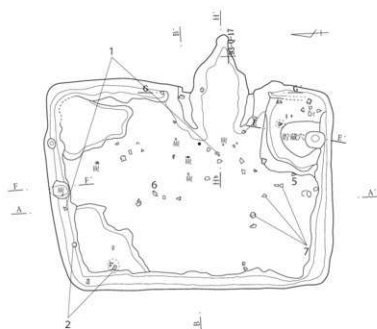
- 1 盛土 市道と宅造による。
- 2 暗褐色砂質土 軽石、微砂粒多量、細粒、密、厚膜、宅造前の耕作土。
- 3 濃い黄褐色砂質土(109K3) 弾力のある細粒土。密、硬。As-C、ソフトローム全体を記入。
- 4 3層と同質 3層より細かい。3層で特徴的だったロームをほとんど記入しない。
- 5 暗褐色砂質土 黄褐色砂質土の痕跡あり、均質、密、硬。
- 6 黒褐色砂質土(109K3) As-C混、均質、密、弾力のある細粒土。
- 7 濃い黄褐色粘質土(109K3) 均質、密、弾力のある細粒土。
- 8 黒褐色粘質土と黒色灰層の互層。
- 9 ロームを主とする濃い黄褐色砂質土(109K3)との混土 腐植材、厚膜。
- 10 灰黄褐色砂質土(109K4) 弾力のある細粒土。均質、密、硬、ローム少量。

B-B'・C-C'

- 1 濃い黄褐色砂質土 弾力のある細粒土。1~3mmのローム粒多量。密。
- 2 暗褐色粘質土 白~灰白、黄褐色まで混混。しまり強い。天井部からの腐風土。
- 3 3層の中で純度の高い粘質土のブロック状、やや収縮。
- 4 濃い黄褐色砂質土 塊土、粘質土多量。密。中央部粘土が多く、硬際に粘質土多い。
- 5 黒灰層 粘質土混入。
- 6 As-砂混暗褐色砂質土 As-砂は腐植が混みザラつく程度で観察される。しまり強い。
- 7 塊土(109K3) 濃い赤褐色、中位に灰白色の横縞。
- 8 黒褐色砂質土(109K3) 弾力のある細粒土。均質、密。
- 9 黒褐色粘質土(109K2) 8層と同質。灰を多く含む軟らかい。
- 10 暗褐色粘質土 灰白色粘質土を混入。密、硬。
- 11 10層と同質 灰白色粘質土10層より多く、部分的に縞状で地山のロームをくるむむ様に混付。密、硬。
- 12 灰色粘質土 密、硬。
- 13 12層と暗褐色粘質土の混土 卵石を芯にして壁に混付。

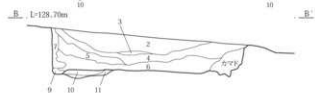
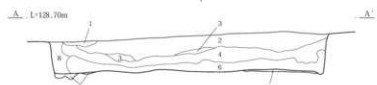


第173図 28号住居出土遺物

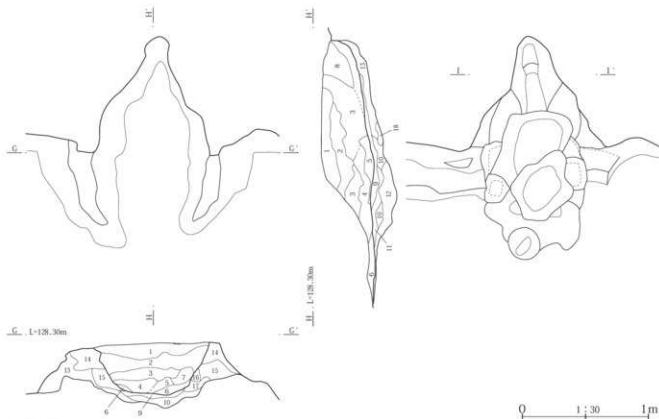


A-A'・B-B'

- 1 黒褐色砂質土 As-C区、弾力のある細粒土、しまり強い。
  - 2 濃い黄褐色砂質土 弾力のある細粒土、1~3cm大ロームを含む。
  - 3 黒灰色粘質土 泥、硬。
  - 4 黒褐色砂質土 As-C区、弾力のある細粒土、1層より黒い、ロームと3層をばらに混入。
  - 5 4層と同質 4層よりも明るい。
  - 6 4層と同質 4層より黒く、As-Cが多い、均質、密。
  - 7 4層と同質 6層も黒く、ローム濃集層混入。
  - 8 4層と同質 7層より濃い黄褐色砂質土(ローム濃集層)少ない、均質、密。
  - 9 ロームを主とする濃い黄褐色砂質土との混土
  - 10 ロームを主とする黒褐色砂質土との混土
  - 11 10層と同質 10層よりローム多く動き歪した状態に近い、泥、硬。
- E-E'
- 1 黒褐色砂質土 黒灰色粘質土、ロームとの混土、密、均質。
  - 2 1層中の5cm以下のロームが多い部分、密。
- F-F'
- 1 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土、As-C、ローム粒少量、均質、密。
  - 2 1層に1cmまでのローム30%混入、しまり強い、軟。
  - 3 1層に1cmまでのローム30%混入。
  - 4 1層に1~3cm大ローム30%以上混入。



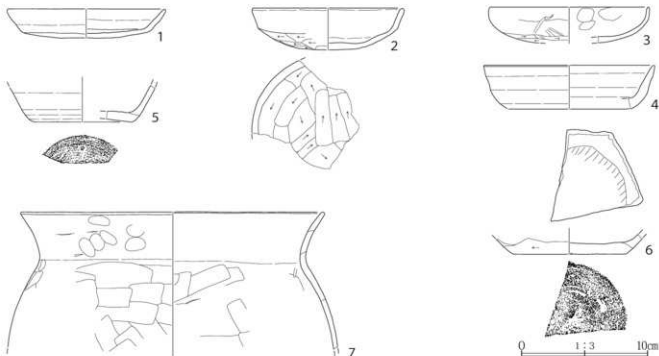
第174図 29号住居(1)



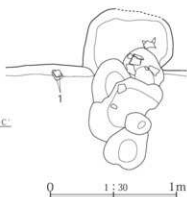
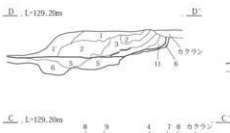
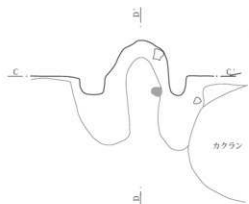
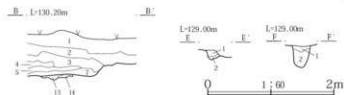
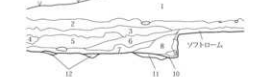
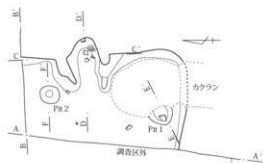
G-C'・H-H'

- 1 濃い黄褐色砂質土
- 2 1層に、多い方から7層、3層、焼土の順に混入。
- 3 黒灰色粘質土 崩壊した天井部
- 4 1層に焼土多量
- 5 黒褐色砂質土 2層に類似、焼土が2層よりも多い。
- 6 黒灰 弾力があり、3層、7層混入。
- 7 灰白色粘質土 天井部の右側から崩壊、密、硬。
- 8 注記なし。
- 9 濃い黄褐色砂質土(010K4/3) ローム10%、焼土混入。

- 10 黒褐色砂質土と9層の混泥土 ローム80%混入。
- 11 灰(010K3/1) 粘土、焼土混入。
- 12 濃い黄褐色砂質土(010K4/3) 1cm以内の焼土、ローム10%混入。均質、密、硬。
- 13 黒褐色砂質土と9層の混泥土、密。
- 14 C-濃い黄褐色砂質土 焼土、15層まばらに混入。
- 15 黒褐色粘質土(010K3/1) 3層と同質、密、硬。
- 16 灰白色粘質土(010K7/1) 7層と同質。
- 17 黒褐色砂質土(010K3/2) ローム10%混入。均質、密。
- 18 ロームブロック



第175図 29号住居(2)



- C-C'・D-D'
- 1 順灰色土(00R3/0) ローム粒、ロームブロック混じり、焼土、焼土ブロックあり、粘土のブロックあり、As<らしい軽石少しあり。
  - 1' 順灰色土(00R3/3) 1層に近いが焼土、焼土ブロック、ローム分はやや少ない。
  - 2 灰褐色土(00R4/2) 粘土質の土を主とする。ローム、順灰色土少し混じる。ロームブロック、焼土粒少しあり。
  - 3 順灰色土(00R3/3) 灰らしい土を含む。ローム粒、ロームブロック少しあり、焼土粒、焼土ブロックあり。
  - 4 灰褐色土(00R4/2) 粘土質の土を主とする。2層に近いがローム、焼土の混じりは少ない。
  - 5 順灰色土(00R3/3) 順灰色土、灰混じりの土、粘土質の土、粘土質ブロックを含む。焼土粒、焼土ブロック少しあり、ローム粒、小さいロームブロック少しあり。
  - 5' 順灰色土(00R3/3) 灰混じり、粘土質の土、焼土粒、焼土ブロックを含む。ローム粒、ロームブロック少しあり。5層に近いが粘土質の土は少ない。
  - 6 順灰色土(00R4/3-0) 順灰色土、ローム混じり、ロームブロックも多く含む。下位はやや軟。
  - 6' 順灰色土(00R4/4-0) 6層に近いがロームブロックが少なく、順灰色土分が多い。As<らき軽石少しあり。
  - 7 順灰色土(00R3/2-0) 粘土質の土混じり、しまり混し。As<らき軽石少しあり。
  - 8 順灰色土(00R3/4-0) ローム粒、ロームブロック混じり、粘土質の土少し混じる。As<らき軽石少しあり。
  - 9 におい、順灰色土(00R3/3-0) 粘土質の土を主とする。順灰色土少し混じる。焼土粒少しあり。カマド使用蓋よりは焼土化、赤味が強い。
  - 10 順灰色土(00R2/3) As<らき軽石少しあり。ローム粒、ロームブロック少しあり。粘土質の土少し混じる。
  - 10' 順灰色土(00R2/3-3) 10層に近いがロームブロックがやや多く含まれる。
  - 11 順灰色土(00R3/3-2) 順色の強い土、焼土粒、焼土ブロックあり、粘土質の土、ロームを少し含む。灰混じり。

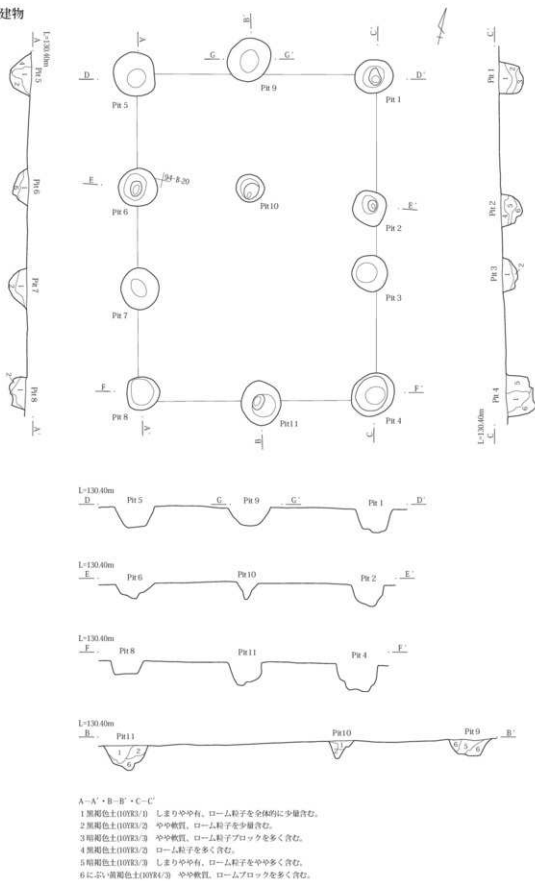
- A-A'・B-B'
- 1 燻土、市産と生産による。
  - 2 順灰色砂質土 軽石、微砂多混。細粒、卑細、生産前の耕作土。
  - 3 におい、順灰色砂質土(00R4/2) 最大1cmまでのローム粒を10%混入。均質、密。
  - 4 As<混順灰色砂質土 最大1cmまでのローム粒多混。均質、密。
  - 5 3層と4層の順混土 A-A'とB-B'交点近くはローム多い。均質、密。
  - 6 5層と同質の順混土 カマドの順灰色粘土と焼土が混入。
  - 7 5層と同質の順混土 中央で4層が多く、両りで3層が多くなる。6層とは順灰色粘土との無層で分離。
  - 8 順灰色砂質土 7層寄りにローム、順灰色粘土土少混。弾力のある順混土。均質、密。
  - 9 8層と同質 8層より稍く、ロームより少ない。
  - 10 8層と同質 ローム多混。
  - 11 順灰色ロームと順灰色砂質土の順混土 3~5cm大のブロックで崩壊したのを直に反している様にも見える。
  - 12 順灰色ロームと灰白色粘土土の混土 ロームが主で80%以上。
  - 13 11層と同質 ローム、順灰色砂質土ともに11層より小粒。均質、密。
  - 14 11層と同質 順灰色砂質土が主体。

- E-E'
- 1 順灰色土(00R3/3-2) ローム粒、ロームブロック少し混じる。As<らしい軽石少しあり。焼土少しあり。
  - 2 順灰色土(00R3/4-0) ローム粒、ロームブロック混じり。1層よりローム分多く含む。

- F-F'
- 1 順灰色土(00R2/3-3) As<軽石を含む。順灰色土、ローム粒少し混じる。
  - 2 順灰色土(00R3/3) ローム粒少し混じる。As<らしい軽石は1層に比べ少ない。やや軟質。

第176図 30号住居

1号掘立柱建物



0 1:60 2m

第177図 1号掘立柱建物



遺構・遺物

2号掘立柱建物

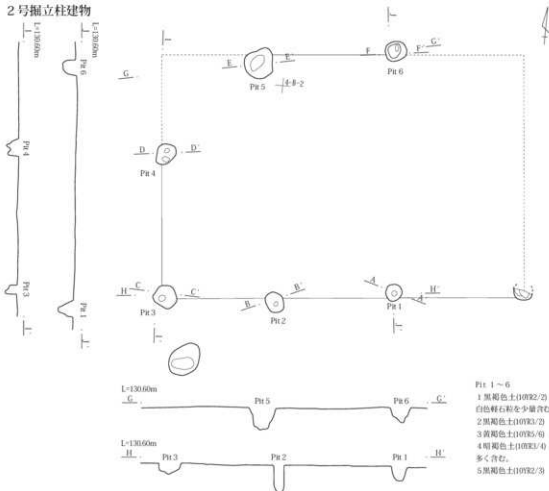
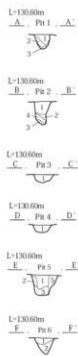


Fig 1~6

- 1 黒褐色土(0092/2) ローム粒子をやや多く含む、白色軽石粒を少量含む。
- 2 黒褐色土(0093/2) ローム粒子を微量含む。
- 3 黄褐色土(0095/0) 軟質、ローム粒子を多く含む。
- 4 明褐色土(0093/0) やや軟質、ローム粒子をやや多く含む。
- 5 黒褐色土(0092/3) ローム粒子をやや多く含む。



4号掘立柱建物

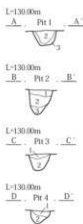
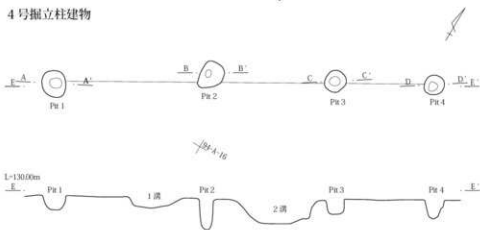


Fig 1~4

- 1 暗褐色土(0093/0) しまりやや弱、黄白色軽石粒を微量含む。
- 2 黒褐色土(0092/2) 軟質、ロームブロックを少量含む。
- 3 にふい黄褐色土(0094/3) ローム粒子を主体とする。

7号掘立柱建物

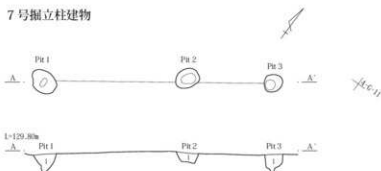


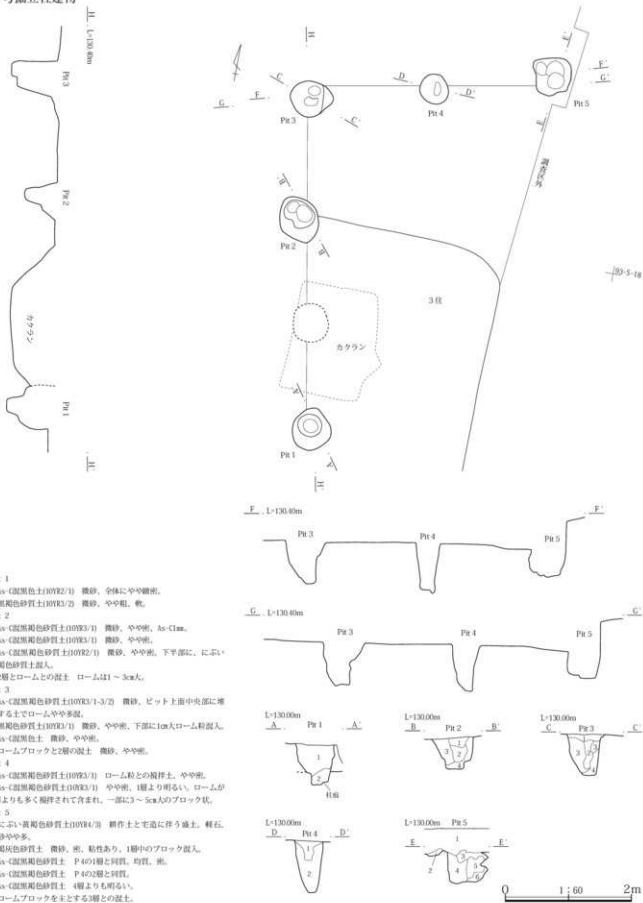
Fig 1~3

- 1 黒褐色土(0095/2) しまり、粘性やや有、ロームブロックが少量混在する。



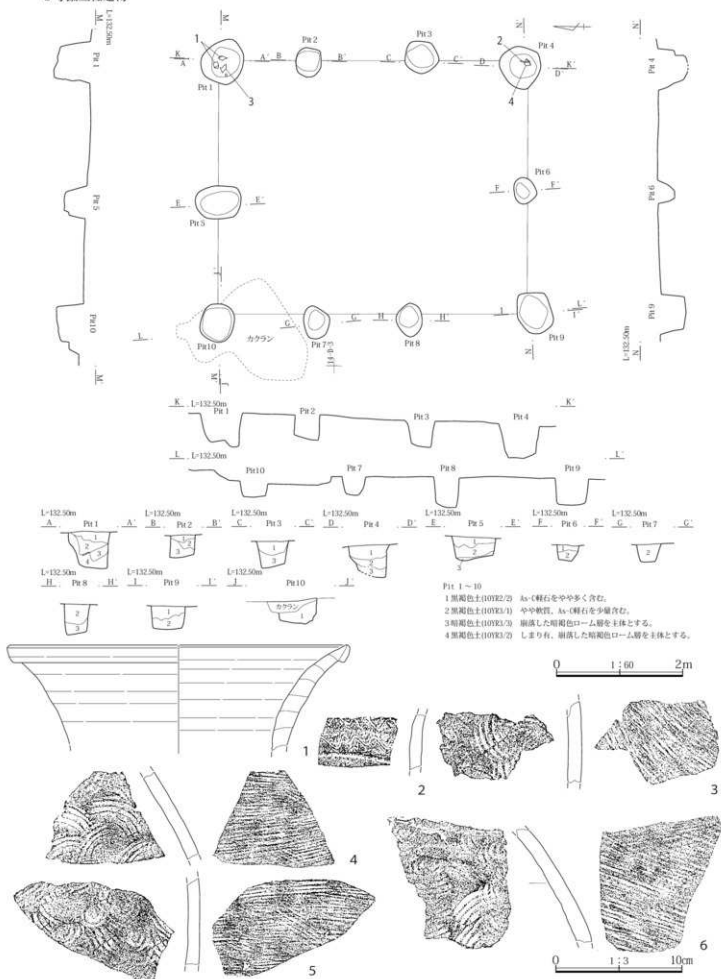
第178図 2号・4号・7号掘立柱建物

3号掘立柱建物



第199図 3号掘立柱建物

8号掘立柱建物



第180図 8号掘立柱建物

9号掘立柱建物

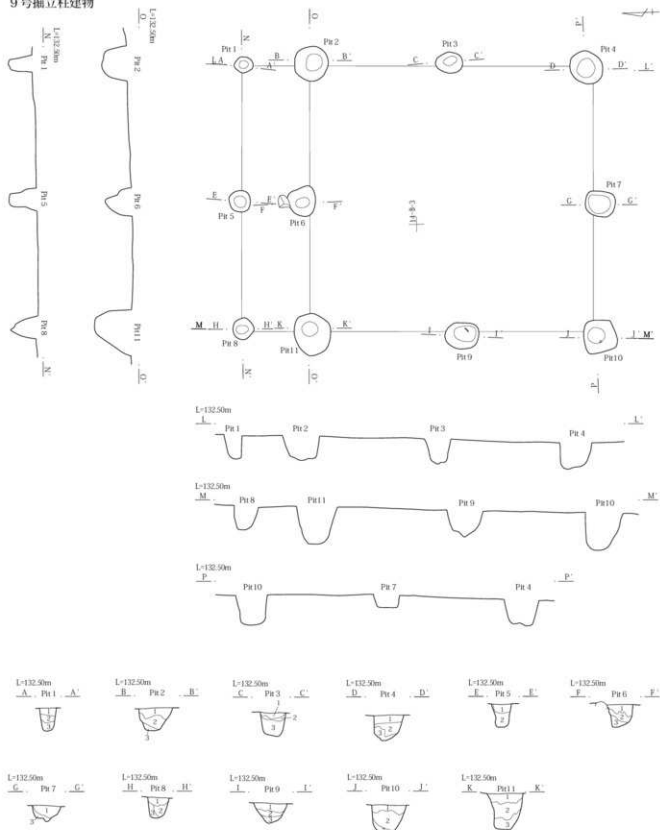


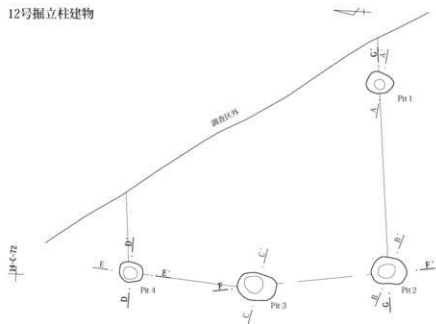
Fig. 1-11

- 1 黒褐色土(010R2/2) 少量の石灰石少量、ローム粒子少量を含む。
- 2 暗褐色土(010R3/3) 数個のローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土(010R4/4) ロームブロック、ローム粒子を多く含む。

0 1:60 2m

第181図 9号掘立柱建物

12号掘立柱建物



遺構・遺物

L=132.70m  
A-A, Pr1, A-A'



L=132.70m  
B-B, Pr2, B-B'



L=132.70m  
C-C, Pr3, C-C'



L=132.70m  
D-D, Pr4, D-D'



Fig 1~4

- 1 黒褐色土(00R2/2) As-C軽石少量、ローム粒子微量を含む。
- 2 黒褐色土(00R3/2) 砂や軟質、As-C軽石微量を含む。
- 3 黒褐色土(00R3/2) 軟質、ローム粒子少量含む。
- 4 暗褐色土(00R3/3) 崩壊したロームブロック粒子をやや多く含む。

L=132.70m  
E-E, Pr4, E-E'



L=132.70m  
F-F, Pr3, F-F'



14号掘立柱建物

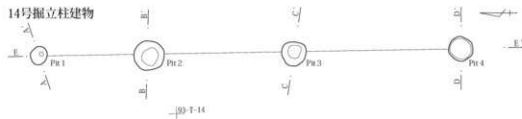


Fig 1

- 1 暗褐色土(00R3/4) ローム粒まじり、As-Cを含む。

Fig 2

- 1 黒褐色土(00R2/3-3/3) ローム粒まじりの暗褐色土少し混じる、As-Cを含む。
- 2 暗褐色土(00R3/3) 1層の黒褐色土とローム粒、ロームブロックまじり、As-C少しあり。
- 3 暗褐色土(00R4/4) ローム主体、暗褐色土少し混じる。

Fig 3

- 1 暗褐色土(00R3/3) As-C、ローム粒含む、小さなロームブロック少しあり。
- 2 暗褐色土(00R3/3) 1層よりローム分がやや多く、As-C軽石は少ない。
- 3 ローム主体、暗褐色土少し混じる。

Fig 4

- 1 F2の層と同質
- 2 暗褐色土(00R3/3) ローム粒含む、As-Cを含むが1層より少ない。
- 3 暗褐色土(00R4/4) ローム、暗褐色土まじり。

L=129.50m  
A-A, Pr1, A-A'



L=129.50m  
B-B, Pr2, B-B'



L=129.50m  
C-C, Pr3, C-C'



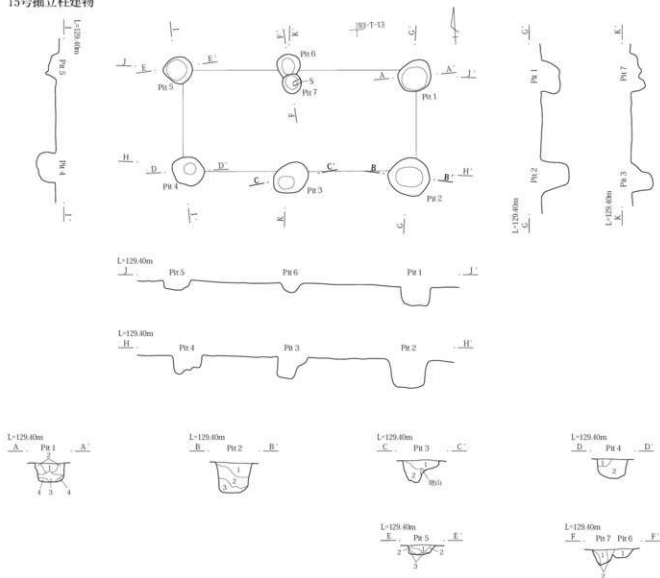
L=129.50m  
D-D, Pr4, D-D'



0 1:60 2m

第182図 12号・14号掘立柱建物

15号掘立柱建物



Pit 1

- 1 暗褐色土(109K3/4)と黒褐～暗褐色土(109K2/3-3/3)の混土。暗褐色土を粒からブロック状に含む。
- 2 暗褐色土(109K3/4) 褐色土を粒からブロック状に少量含む。
- 3 黒褐～暗褐色土(109K2/3-3/3) As-Cを均一に含む。西側に暗褐色土またハードロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土(109K3/3)主体で暗褐色土(109K3/4)が混じる。

Pit 2

- 1 黒褐色土(109K2/3-3/3) As-C(軽石を多く含む、ローム粒、ロームブロック混じり)。
- 2 暗褐色土(109K2/3-3/3) As-Cを含む。ローム粒少し混じる。
- 3 暗褐色土(109K3/3-3/4) ローム粒混じり、ロームブロック少しあり。

Pit 3

- 1 黒褐色土(109K2/3-3/3) As-Cを含む。ローム粒まじりの暗褐色土少し混じる。
- 2 暗褐色土(109K3/3) ローム粒まじり、ロームブロック少しあり。As-Cわずかにあり。

Pit 4

- 1 暗褐色土(109K3/3) ローム粒、ロームブロック混じり、As-Cを含む。
- 2 暗褐色土(109K3/3) 1層に比しAs-C(少なく、ロームブロックもなし)。

Pit 5

- 1 Fの1層と同質
- 2 暗褐色土(109K3/3) ローム粒まじり、ロームブロック少しあり、As-C軽石は極わずか。
- 3 暗褐色土(109K4/4-3/4) ローム、暗褐色土混じり。

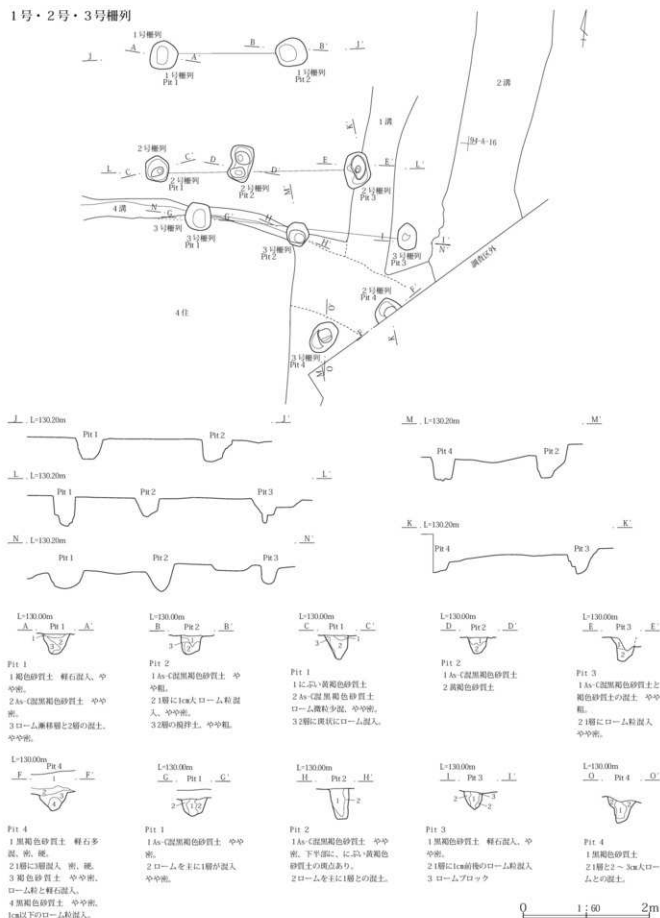
Pit 6・7

- 1 暗褐色土(109K3/4) As-C極少量含む。
- 2 暗褐色土(109K4/4) 土色に暗褐色土混じる。
- 3 2層に類似 暗褐色土の混じりが2層より少ない。

0 1:60 2m

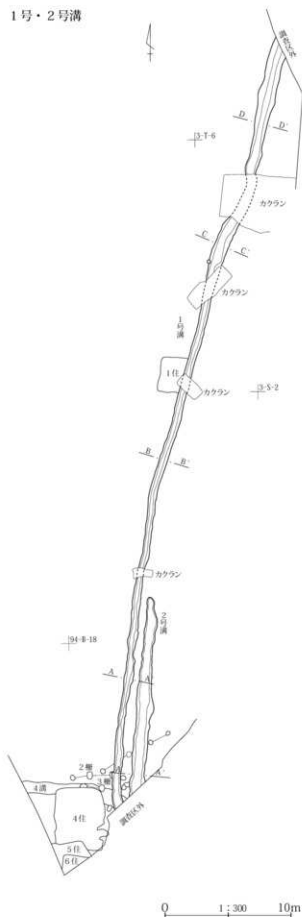
第183図 15号掘立柱建物

1号・2号・3号櫓列



第184図 1号・2号・3号櫓列

1号・2号溝



- B-B'
- 1 黒褐色土(09R3/3) ローム粒子や多く、褐色砂粒を微量に含む。
  - 2 黒褐色土(09R2/3) ローム粒子や多く、As<軽石微量に含む。



- C-C'
- 1 に近い黄褐色土(09R4/3) しまり強い、ローム粒子をやや多く含む。
  - 2 黒褐色土(09R2/3) ローム粒子を少量含む。
  - 3 黄褐色土(09R5/4) 軟質なロームブロックを主体とする。



- B-B'
- 1 黒褐色土(09R3/3) ローム粒子を少量含む。
  - 2 黒褐色土(09R2/3) ローム粒子や多く、炭化物微塵を含む。



- A-A'
- 1 黒褐色土(09R2/3) しまり強い、ローム粒子を微量含む。
  - 2 黒褐色土(09R3/3) しまり強い、ローム粒子を多く含む。
  - 3 黒褐色土(09R3/4) しまり強い、ローム粒子を少量含む。



- A-A'
- 1 に近い黄褐色土(09R3/3) ローム粒子や多く、白色砂粒をやや多く含む。
  - 2 に近い黄褐色土(09R3/3) しまり有、ローム粒子を少量含む。
  - 3 に近い黄褐色土(09R3/4) ローム粒子を多く含む、やや軟質。



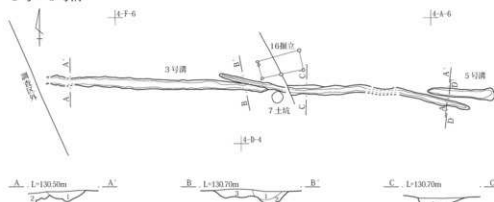
2号溝出土遺物



第185図 1号・2号溝



3号・5号溝



5号溝 A-A', L=130.70m

A-A'  
1 黒褐色砂質土(10YR2/3) ローム  
粘が多く、As-Cを少量含む。

A-A', L=130.50m

A-A'  
1 黒褐色砂質土 軽石混入、1~2cm大ローム粒混入。  
2 黒褐色砂質土 ローム層様層上  
面のしみ状部分。

B-B', L=130.70m

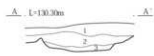
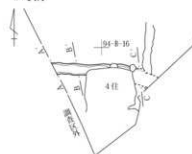
B-B'  
1 黒褐色砂質土(10YR6/3-5/1) 細粒、やや  
粗、軽石混入。  
2 1層と黄褐色砂質土の混土  
3 黒褐色砂質土 1層より粗、軽石やや多い。

C-C', L=130.70m

C-C'-B-B'  
1 黒褐色土(10YR3/3) ローム粒子やや多く、  
ロームブロック少量含む。

D-D', L=130.70m

4号溝



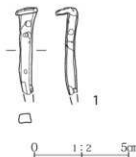
A-A'

1 淡黒褐色砂質土 軽石多量、やや粗。  
2 黒褐色砂質土 軽石多量、やや粗。  
3 2層に、にぶい黄褐色砂質土を混雑  
状態で含む、やや粗。



B-B'

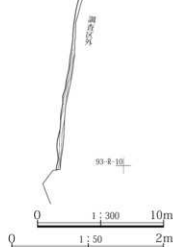
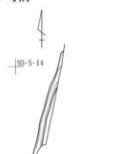
1 黒褐色砂質土 やや粗、軽石多量。  
2 にぶい黄褐色砂質土 細粒、やや  
粗、ローム層様土で地山か。



C-C'

1 黒褐色砂質土 軽石多量、ローム粒少量、  
やや粗。  
2 1層とロームの混土、粗。  
3 ブロック状のロームを基にした1層との  
混土、やや粗、ビット上面に分布。

7号溝



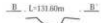
6号溝



A-A', L=131.60m

A-A'  
1 黒褐色砂質土(10YR2/3) ローム粒が多く、  
As-Cを少量含む。

B-B', L=131.60m



第186図 3号・4号・5号・6号・7号溝

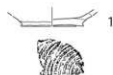
8号溝



A-A' L=128.00m

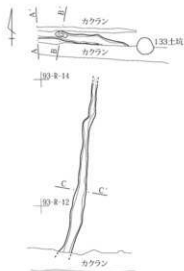


- A-A'
- 1 耕作土
  - 2 淡黄白色細砂層 水成層状、しまり強い、
  - 3 褐色砂質土 2層の細砂層が混入。



0 1:3 10m

9号溝



A-A' L=129.70m



- A-A'
- 1 黒褐色砂質土 4層耕作土、2層As-砂混黒褐色砂質土との混土、均孔、密。
  - 2 1層に、近い黄褐色砂質土混層 均孔、密で人為的混拌土と思われる。
  - 3 2層と同質 As-C混土が少量少ないので区別した。
  - 4 褐色砂質土 細粒、As-Aらしい灰白色粒少量、耕作土。

B-B' L=129.20m



- B-B'
- 1 B-B'の2層と同質
  - 2 ソフトロームのブロック しまり強い、
  - 3 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。

C-C' L=128.00m

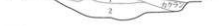


- C-C'
- 1 黒褐色砂質土 As-砂らしい細砂粒を混拌全体に含む、細粒、均孔。

10号溝



A-A' L=126.80m



- A-A'
- 1 2層にAs-砂らしい細砂混入
  - 2 As-C混黒褐色砂質土 弾力のある細粒土、ローム層砂層、ロームが1~3cm大の塊状に混入、密、やや硬。

B-B' L=126.80m

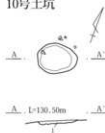


0 1:300 10m

0 1:50 2m

第187図 8号・9号・10号溝

10号土坑



10号土坑  
1 暗褐色粘質土(10YR3/3) 密、粘性強、  
1~5mm大灰白色砂粒混入。

40号土坑



40号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒をやや多く、As-C種  
石を微量含む。  
2 暗褐色土(10YR3/4) ロームを主体とし、硬質ロー  
ムブロックを多く含む。  
3 暗色土(10YR4/4) 土層が少量混入、やや硬質なロー  
ムを主体とする。

68号土坑



68号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/3) やや軟質、ローム  
粒子を微量含む。  
2 褐色土(10YR4/4) 軟質、崩壊したロー  
ム粒子を主体とする。

172号土坑



172号土坑  
1 に近い黄褐色砂質土(10YR4/3) 弾力のある細粒、均質、As-C混入。  
2 黒褐色粘質土(10YR3/2) As-Cのほかに焼土と灰混入。  
3 黒色砂質土(10YR2/2) 炭多量、焼土、ロームも多い、焼土は壁際に多い。  
4 褐色粘質土(10YR4/4) 弾力のある細粒、As-C混入。

0 1:60 2m



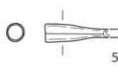
0 1:3 10m

0 1:60 2m

遺構外出土遺物



0 1:3 10cm



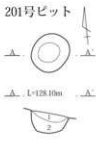
0 1:2 5cm

第188図 10号・40号・68号・172号土坑、遺構外出土遺物

200号ピット



201号ピット



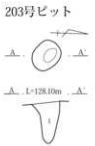
202号ピット



200～202号ピット

1 黒褐色土(010R2/3-3/3) As-C(軽石を多く含む、ローム粒少し混じる。  
2 暗褐色土(010R3/3) 1層よりローム分がやや多く、As-Cは検わらずか。  
3 暗褐色土(010R3/3-2/2) ローム粒まじり、2層よりやや黒味強くAs-C(軽石も多い、やや軟。

203号ピット



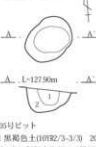
203号ピット

1 暗褐色土(010R3/4) As-C(軽石は検わらずか、ローム粒含むやや軟。

204号ピット



205号ピット



206号ピット



204号ピット

1 200号ピット1層と同質  
2 暗褐色土(010R3/4) ローム粒ロームブロック混じり、As-C(軽石わずかにあり。

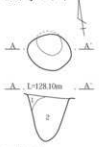
205号ピット

1 黒褐色土(010R2/3-3/3) 200号ピットに類似するがAs-C(軽石は少ない。  
2 204号ピット2層と同質。

206号ピット

1 200号ピット2層と同質  
2 暗褐色土(010R3/4) 1層に比べローム分多く明るい、As-C(軽石は少ない。

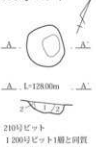
209号ピット



209号ピット

1 暗褐色土(010R3/3-2/3) ローム粒混じり、As-C(軽石あり。  
2 200号ピット1層と同質。

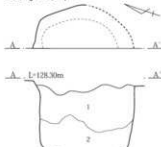
210号ピット



210号ピット

1 200号ピット1層と同質  
2 暗褐色土(010R3/4) ローム混じり、ロームブロックあり。

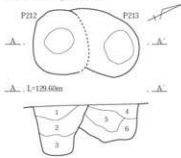
211号ピット



211号ピット

1 暗褐色土(010R3/3-2/3) As-Cを多く含む、ローム粒少し混じり、小さなロームブロック少し有。  
2 黒褐色土(010R2/3) As-Cを多く含む、ローム粒少し混じりが1層より少なく混じり。  
3 暗褐色土(010R3/4) ローム粒、ロームブロック混じり。

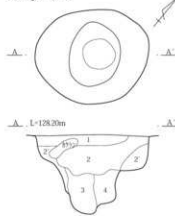
212・213号ピット



212・213号ピット

1 黒褐色土(010R2/3-3/3) As-Cとローム粒を含む、暗褐色土混じり。  
2 暗褐色土(010R3/3-2/3) As-Cを含むが1層より少なく、1層より暗褐色土が多い、少し黒味があり、ロームブロックあり。  
3 暗褐色土(010R3/3-2/3) 2層に近いがAs-Cはほとんどなし。  
4 暗褐色土(010R3/3) As-Cを含む、輪郭の跡(ロームブロックあり。  
5 暗褐色土(010R3/4) As-C少しあり、ローム粒小さなロームブロックあり。  
6 暗褐色土(010R3/4) As-Cほとんど無し、3層に比べローム粒ロームブロック少ない、やや軟。

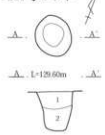
207号ピット



207号ピット

1 黒褐色土(010R2/3-3/3) As-CとAs-Faらしき軽石を含む、ローム粒もくは火山灰を少し含む。  
2 暗褐色土(010R2/3) 1層よりやや黒味が強い、As-Cらしき軽石が混じる、ローム粒少しあり。  
2' 黒褐色土(010R3/3) 2層に近いが軽石がほとんどなく、黒味が少しローム混じり。  
3 黒褐色土(010R2/3-3/3) As-Cらしき軽石はわずか、下位はほとんど無し、下位はローム粒やや目立つ、軟質。  
4 黒褐色土(010R2/3-3/3) As-C(軽石あり、ローム粒ロームブロックあり、しまり良。

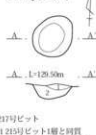
215号ピット



215号ピット

1 黒褐色土(010R2/3-3/3) As-Cを含む、ローム粒混じりの暗褐色土少し混じる。  
2 暗褐色土(010R3/4) ローム粒混じり、As-Cほとんど無し。

217号ピット



217号ピット

1 215号ピット1層と同質  
2 暗褐色土(010R3/3) ローム粒混じり、ロームブロック少しあり、As-Cあり。

0 1:30 1m

218・219号ビット



218・219号ビット

- 1 215号ビット1層と同質  
2 暗褐色土(009K3/3) ローム粒ロームブロック混じり、As<少しあり。  
3 褐色土(009K4/4) ローム暗褐色土混じり、ロームブロックを多く含む。  
4 暗褐色土(009K3/3) ローム粒混じり、小さなロームブロックあり、As<ほとんど無し。  
5 暗褐色土(009K4/4) ローム粒ロームブロック混じり、(4)よりロームブロック多く含む。

225号ビット



225号ビット

- 1 215号ビット1層と同質  
2 暗褐色土(009K3/3) As<とローム粒を含む。  
3 褐色土(009K4/4) ローム暗褐色土混じり。

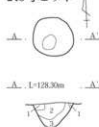
230号ビット



230号ビット

- 1 215号ビット1層と同質  
2 225号ビット2層と同質  
3 暗褐色土(009K4/4) ローム粒混じり、As<ほとんど無し。

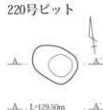
240号ビット



240号ビット

- 1 暗褐色土(009K3/4-4) ローム混じり、ロームブロックを含む。  
2 暗褐色土(009K3/2-3) ローム粒少し混じる、As<少しあり。  
3 暗褐色土(009K3/3-4) ローム粒混じり、ロームブロック小さいもの少し有、As<少し暗褐色土有。

220号ビット



220号ビット

- 1 暗褐色土(009K3/3) ローム粒混じり、As<少し暗褐色土有。  
2 215号ビット1層と同質  
3 暗褐色土(009K4/3-4) ローム暗褐色土混じり、小さなロームブロックあり。

218号・221号ビット出土遺物



221号ビット



221号ビット

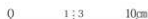
- 1 暗褐色土(009K3/3) ローム粒混じり、ロームブロック少しあり、As<暗褐色土有。  
2 暗褐色土(009K3/3-4) 1層に近いがややローム分多く、As<暗褐色土少ない。

223号ビット

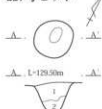


223号ビット

- 1 215号ビット1層と同質  
2 暗褐色土(009K3/3) As<暗褐色土を含む、2層よりローム分を多く含む、ロームブロックもあり。  
3 暗褐色土(009K3/4) ローム混じり、ロームブロック少しあり、As<暗褐色土ほとんど無し。



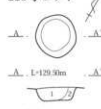
227号ビット



227号ビット

- 1 暗褐色土(009K2/3-3/3) As<暗褐色土を多く含む、ローム粒、ロームブロック混じり。  
2 暗褐色土(009K3/4-4/4) ローム粒混じり。

228号ビット



228号ビット

- 1 215号ビット1層と同質  
2 暗褐色土(009K3/4-4/4) ローム粒混じり。

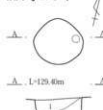
229号ビット



229号ビット

- 1 215号ビット1層と同質  
2 225号ビット1層と同質  
3 暗褐色土(009K3/4-4/4) ローム粒混じり。

234号ビット



234号ビット

- 1 暗褐色土(009K3/3) ローム粒混じり、As<少しあり。  
2 暗褐色土(009K3/4-3/3) 1層に比べローム分やや多く、As<ほとんど無し。

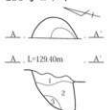
235号ビット



235号ビット

- 1 227号ビット1層と同質  
2 暗褐色土(009K2/3-3/3) 1層に比べロームブロックは多く、As<暗褐色土少ない、やや軟。

236号ビット



236号ビット

- 1 227号ビット1層と同質  
2 215号ビット1層と同質  
3 褐色土(009K4/3-4/4) ローム暗褐色土混じり。

241号ビット



241号ビット

- 1 暗褐色土(009K3/3) 白色軽石粒を極少量含む、下部は褐色土混じり。  
2 暗褐色土(009K3/3)と褐色土(009K4/4)の混土。  
3 黄褐色土-褐色土の間(009E5/6-4/6)混じり混土。



## 第6章 時代不明の遺構

時代不明の遺構として扱ったものは、発掘調査において人為的に掘削された遺構と判断されたものである。

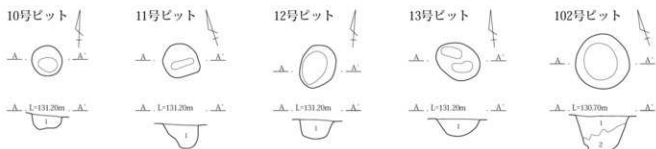
遺構はすべてピットであった。遺物の出土がないため、帰属する時代は判然としないものの、覆土の状態から見て縄文時代以外で奈良時代以降に帰属する可能性が推測される。

しかし、最終的に判断すると、10号・11号・121号ピットのように掘削深度の浅いピットは、人為的な遺構の可能性は低いといえる。また、114号ピットのように土層注記のないものは、遺構認定の根拠に欠けるので人為的な遺構としての判断を保留しておきたい。

第34表 時代不明遺構一覧

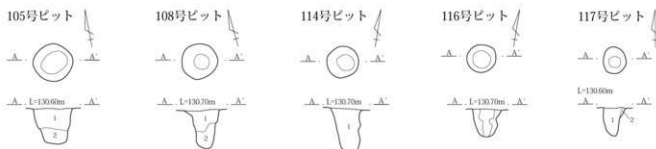
No	遺構名	調査区	中グリッド	グリッドX	グリッドY	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	10号ピット	A	4	H	14	25	25	10
2	11号ピット	A	4	H	14	30	25	20
3	12号ピット	A	4	H	14	35	25	15
4	13号ピット	A	4	H	14	35	25	15
5	102号ピット	A	4	B	15	40	40	35
6	105号ピット	A	4	A	14	30	30	30
7	108号ピット	A	4	B	12	30	30	30
8	114号ピット	A	3	T	10	25	25	35
9	116号ピット	A	3	T	10	20	20	25
10	117号ピット	A	3	T	9	20	15	20
11	119号ピット	A	4	A	9	20	20	15
12	121号ピット	A	4	A	10	25	25	15
13	124号ピット	A	4	B	12	35	30	20
14	129号ピット	A	4	C	13	25	20	25
15	130号ピット	A	4	C	13	25	20	30
16	135号ピット	A	4	C	11	25	20	25
17	244号ピット	A	4	D	4	30	25	50
18	245号ピット	A	4	C	4	20	20	20
19	253号ピット	A	4	F	8	35	30	30
20	254号ピット	A	4	F	8	25	20	20
21	257号ピット	A	4	D	6	30	25	25
22	259号ピット	A	4	B	6	65	60	40
23	260号ピット	A	4	C	7	35	35	20
24	266号ピット	A	4	B	7	30	20	30
25	267号ピット	A	3	T	6	25	25	30
26	268号ピット	A	3	T	6	25	25	40
27	271号ピット	A	3	S	4	30	25	25
28	272号ピット	A	4	A	6	20	20	15
29	273号ピット	A	4	A	6	20	15	25
30	277号ピット	A	4	A	7	25	25	25
31	278号ピット	A	4	B	7	25	25	20
32	283号ピット	A	4	A	7	35	30	10
33	284号ピット	A	4	A	7	20	20	15

時代不明の遺構



10～13号ピット  
1 黒褐色土(10YR3/3) しまりややわ、粘性なし。ローム粒微量含む。

102号ピット  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) As-群  
ほか微砂粒多量、穿蝕。  
2 黄褐色砂質土



105号ピット  
1 にのみ、黄褐色砂質土  
2 黄褐色砂質土

108号ピット  
1 黒褐色砂質土とにのみ、黄褐色砂質土  
の塊状土 穿蝕。  
2 にのみ、黄褐色～黒褐色の砂質土

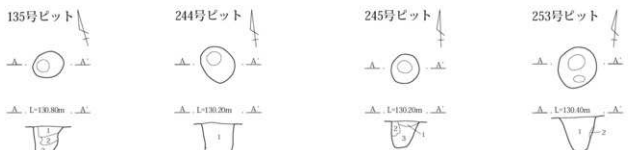


114・116・117・119・121号ピット  
土層注意区画なし

124号ピット  
1 ロームブロック  
2 黄褐色砂質土 紫。

129号ピット  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 黄褐色砂  
質土塊状、穿蝕。  
2 黄褐色砂質土

130号ピット  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)  
黄褐色砂質土塊状、穿蝕。

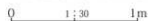


135号ピット  
1 黒褐色砂質土 1mm以下の炭粒散  
在、穿蝕。  
2 にのみ、黄褐色砂質土  
3 黄褐色砂質土

244号ピット  
1 褐色土(10YR4/6) 白色粒子を  
少量、黄白色粒子を極少量含む。

245号ピット  
1 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体土。  
2 黄褐色土(10YR5/6) ハードローム、  
ブロック。  
3 244号ピット1層に類似するがAs-1P  
は認められない。

253号ピット  
1 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土  
(10YR5/6)が塊状に入る。白色粒石稜  
を上位に含む。塊くままる。  
2 黄褐色土(10YR5/6) しまりややわ。

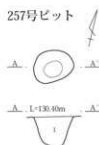


第191図 時代不明の遺構(1)

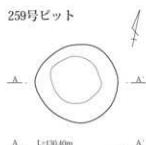
第6章 時代不明の遺構



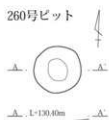
254号ピット  
1 黄褐色土(10YR5/6)と暗褐色土(10YR3/4)の混土 白色粒子を少量含む。



257号ピット  
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土は全体的に腐敗に認められる。しまりやや弱。



259号ピット  
1 褐色土(10YR4/0) 黄褐色土(10YR5/6)が腐敗に入っている。白色粒子均一に少量含む。固くしまる。  
2 黄褐色土(10YR5/6) ややしり弱。



260号ピット  
1 褐色土(10YR4/0) 黄褐色土(10YR5/6)が腐敗に入っている。白色粒子を少量含む。固くしまる。  
2 黄褐色土(10YR5/6)主体で褐色土(10YR4/0)混じり 白色粒子を極少量含む。



266号ピット  
1 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土の割合が多く、やや黄色味あり。  
2 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/0)が腐敗に入っている。白色～黄白色粒を均一に少量含む。



267・268号ピット  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 褐色砂質土(10YR4/6)の混成あり。厚膜。  
2 1層と同質 褐色砂質土が多い。



271号ピット  
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/6)が腐敗に入っている。白色～黄白色粒を少量含む。  
2 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土(10YR3/3)を少量混じる。



272号ピット  
1 褐色土(10YR4/0) 黄褐色土(10YR5/6)が腐敗に入っている。白色～黄白色粒を少量均一に含む。炭化物粒状に少量含む。固くしまる。



273号ピット  
1 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/6)が腐敗に入っている。黄白色粒を極少量含む。



277号ピット  
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/6)が腐敗に入っている。白色～黄白色粒を少量含む。



278号ピット  
1 260号ピット1層に類似するが黄褐色土は腐敗でなく、湿じった状態で認められる。白色粒子を極少量含む。しまりやや弱。  
2 黄褐色土(10YR5/6) 1層の土混じり。



283号ピット  
1 黄褐色土(10YR5/6)と暗褐色土(10YR3/3)の混土 白色～黄白色粒を極少量含む。  
2 1層に類似するがしまりやや弱い。粗粒混入。  
3 1層に類似するが黄褐色土主体で黄色味強びる。



284号ピット  
1 黄褐色土(10YR5/6)と褐色土(10YR4/6)の混土 白色粒子はほとんど認められない。



第192図 時代不明の遺構(2)



## 第7章 自然科学分析

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査において、自然科学分析を実施した。分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。分析結果および分析に関するコメントは、次の第1節、第2節、第3節に報告した通りである。

### 第1節 上泉唐ノ堀遺跡から出土した炭化種実

#### 1. 試料と方法

炭化種実の分析は、17号土坑・18号土坑・89号土坑（いずれも縄文時代）から検出された3試料について行った。同定・計数は、肉眼および体顕微鏡下で行った。

#### 2. 結果

出土した炭化種実の一覧を第35表に示した。以下に、各試料の炭化種実を記載する。

##### ① 17号土坑

オニグルミ炭化核の破片が10点とクリ炭化子葉の破片が12点であった。オニグルミは、径5～15mm程度の破片であり、全体で完形1～2個分に相当する。クリは、径5～20mm弱の破片であり、全体で完形2個分程度に相当する。

##### ② 18号土坑

オニグルミ炭化核の破片が3点と不明炭化子葉の破片が5点であった。オニグルミは、全体でも1/2個分未満である。

##### ③ 89号土坑

トチノキ炭化子葉の破片が8点であった。すべて径5～10mm程度の破片であり、全体で完形1～2個分に相当する。

#### 3. 考察

検討した結果、同定されたのは、オニグルミ、クリ、トチノキといった有用植物であった。不明としたものもおそらく有用植物の炭化子葉と思われるが、同定には至らなかった。

オニグルミ炭化核の破片は、利用後の残滓の可能性が考えられる。クリ、トチノキは、果皮や種皮ではなく、

食用部分の子葉であった。

土坑の性格については、食用部位が出土しているとはいえ、まとまった産状を示さないのが、貯蔵穴のような可能性は低く、ごみ穴のような類ではないだろうか。

#### 4. 形態記載

① オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 炭化核

核壁は緻密で堅く、表面には筋が入り、割れ口の断面には、空隙(穴)が見られることがある。炭化状態が良いと、割れ口にはしばしば光沢が見られる。

② クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉

いずれも破片であった。小さな破片は多数あったが、緻密には同定には至らない。ある程度大きな破片を見ると、表面の状態、大きさ、曲率などからクリないしトチノキの可能性が高く、コナラ属ではないことがわかる。1つの大きな破片(長径20mm弱、短径10mm程度)は、平坦な面を持ち、表面にやや疎で深い皺がある。これは、縁辺の曲率からしてもクリの可能性が高いので全ての破片をクリとした。

③ トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化子葉

いずれも破片であった。小さい破片は、緻密には同定が困難であるが、いずれも表面は不規則な緩やかな起伏がある程度で明瞭な皺はない。10mm程度の大きな破片を見ると、表面の曲率から、元は球形に近い形状であると推定される。内部(断面)は厚く、コナラ属のような平坦な面はなく、複雑に割れている。以上のことから、この破片はトチノキの可能性が高いので、全ての破片をトチノキとした。

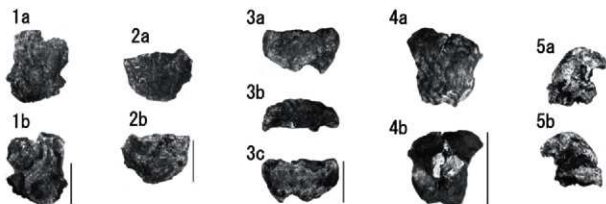
④ 不明 炭化子葉

小破片と大破片が含まれる。1つの大型の破片は、完形に近いのではないかとと思われる。元は、20mm前後の歪な球形かと思われ、表面は状態が悪いが、皺はなく滑

第35表 炭化種実分析一覧

調査区	遺構名	時代	試料名	試料数	オニグルミ 炭化核	クリ 炭化子葉	トチノキ 炭化子葉	不明 炭化子葉
A	17号土坑	縄文	覆土の炭	1	(10)	(12)		
A	18号土坑	縄文	覆土の炭	1	(3)			(5)
A	80号土坑	縄文	ドングリか?	1			(8)	

\*分類群の試料数の数字は個数、○内は半分ないし破片の数を示す



1.オニグルミ、炭化核、A区18号土坑覆土の炭 2.オニグルミ、炭化核、A区17号土坑覆土の炭 3.クリ、炭化子葉、A区17号土坑覆土の炭  
4.トチノキ、炭化子葉、80号土坑 5.不明、炭化子葉、A区18号土坑覆土の炭 (写真右横スケールは1cm)

第193図 出土した炭化種実

らかである。

割れ口は、複雑であり、平坦な面を持たないので、コナラ属以外と思われる。

## 第2節 上泉唐ノ堀遺跡から出土した炭化材の樹種同定

### 1. はじめに

ここでは、7号住居（縄文時代）、12号住居（奈良時代）、32号土坑・44号土坑・47号土坑・57号土坑（いずれも縄文時代）から出土した炭化材9試料の、樹種同定結果を報告する。

### 2. 試料と方法

取上げられていた試料から、形状や大きさの異なる炭化材を選び、樹種同定試料とした。同定は、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向(横断面・接線断面・放射断面)の断面を複製し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日

本電子顕微鏡 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

### 3. 結果

住居・土坑共に、クリが多く検出された。クリ以外では、47号土坑からヤマグワ?が検出された。

#### 樹種記載

① クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科  
第194図2 a-2 c (57号土坑)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し徐々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は加工がやや困難であるが、狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。

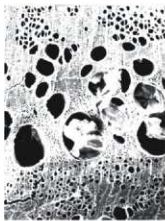
② ヤマグワ *Morus australis* Poir. クワ科  
第194図3 a-3 c (47号土坑)

1年輪がない破片で、晩材部に近い破片のようである。小型と非常に小型の大きさの不揃いな管孔が集合し、斜

第36表 炭化材の樹種同定結果一覧

調査区	遺構名	時代	試料名	樹種	主な破片の横断面サイズ(cm)*	おおよその年輪幅(mm)	備考
A	7号住居	縄文	覆土の炭	クリ			節部
A	12号住居	奈良	炭No12	クリ	1.3×2.7cm	4～5mm	
A	12号住居	奈良	炭No13	クリ	4.0×3.0cm	3～6mm	樹芯部破片、6年輪有り
A	12号住居	奈良	炭No14	クリ		5mm以上	節部?
A	12号住居	奈良	炭No15	クリ			破片
A	44号土坑	縄文	覆土の炭	クリ		4～5mm	
A	44号土坑	縄文	覆土の炭	クリ		10mm	
A	57号土坑	縄文	炭No55	クリ	2.5×1.5cm	2～3mm	芯持ち丸木破片2a、2b、2c
A	32号土坑	縄文	覆土の炭	クリ	3.0×7.0cm		
A	47号土坑	縄文	覆土の炭	ヤマグワ?	0.4×0.8cm		1年輪無い破片3a、3b、3c
A	47号土坑	縄文	覆土の炭	クリ	1.0×1.0cm		破片

\*放射方向の長さ×接線方向の長さ

2a クリ(横断面)  
57号土坑 bar: 0.5mm2b クリ(接線断面)  
57号土坑 bar: 0.1mm2c クリ(放射断面)  
57号土坑 bar: 0.1mm3a ヤマグワ?(横断面)  
47号土坑 bar: 0.5mm3b ヤマグワ?(接線断面)  
47号土坑 bar: 0.1mm3c ヤマグワ?(放射断面)  
47号土坑 bar: 0.1mm

第194図 炭化材組織の走査顕微鏡写真

状・波状に配列している。道管の壁孔はやや大きくて交互状、穿孔は単穿孔である。

放射組織は異性、1～5細胞幅の紡錘形で上下端に方形細胞がある。小道管のらせん肥厚も未確認であるが、ヤマグワの年輪後半部ではないかと思われる。

クワ属は落葉高木または低木で、温帯から亜熱帯の山中に広く分布するヤマグワと、和歌山県・中国地方・四国・九州の暖帯の山中にまれにあるケグワがある。果実は食用となり、材は重硬・強靱で心材は特に保存性が高い有用材である。縄文時代の遺跡からクリと同様に出土頻度が高い樹種である。

### 第3節 分析結果について

#### 1. 炭化種実

17号土坑・18号土坑・89号土坑から検出された炭化物について分析を行った。分析の結果、オニグルミ、クリ、トチノキに同定された。

今回分析を行った土坑は、いずれも縄文時代前期の黒浜式期から諸磯b式期に構築されたものと考えられる。

分析試料は、いずれも土坑の覆土中から土器や石器とともに出土した炭化物である。分析試料の出土状態に関しては、詳細な出土位置を示す図面や写真がないため、土坑内からの出土という調査所見のみである。詳細は不明であるものの、後世の混入物の可能性は低いと考えられ、縄文時代前期黒浜式期から諸磯b式期の遺跡形成時の炭化物と判断した。

また、17号土坑と18号土坑は互いに重複し、17号土坑は円形・皿状、18号土坑は円形・円筒状であった。89号土坑は円形・円筒状で48号土坑と重複する。いずれの土坑も炭化物はまとまった出土状態ではなかったため、貯蔵穴の可能性は推測されるものの、土坑の用途の特定までは明確にできない。しかし、18号土坑に関しては土坑底面近くに炭化物が多かったという調査所見があり、この炭化物が土坑内に貯蔵した種実の痕跡であると積極的に評価すれば、18号土坑は貯蔵穴であった可能性は高まるという。

#### 2. 炭化材の樹種同定

7号住居、12号住居、32号土坑、44号土坑、47号土坑、57号土坑から検出された炭化物について、同定を行った。

同定の結果、縄文時代前期の遺構から検出された炭化物の樹種は、ほとんどがクリに同定された。ほかにヤマグワの可能性が指摘された。

各遺構の時期は、12号住居が奈良時代で、他は縄文時代前期の黒浜式期から諸磯b式期である。7号住居検出の炭化物は、7号住居が8号住居・15号住居と重複するため、いずれかの住居検出であることは間違いがないが厳密に本来の帰属住居を決定することは困難である。

また、検出された炭化材が当時の建築部材であるのか、自然木材であるのかの判断は困難で、炭化材の由来は不明といわざるをえない。しかしながら、炭化物は覆土中から出土した土器とともに採取されたものであることから、他の時代の混入物の可能性は低いと判断した。

#### 3. まとめ

分析の結果、炭化種実はオニグルミ、トチノキ、クリであることが判明した。炭化材はほとんどがクリに同定され、残りはヤマグワの可能性が指摘された。

分析によって、部分的にはあるが、上泉唐ノ堀遺跡における縄文時代前期の植物質食糧資源、集落を取り巻く景観、木材資源の利用の様相を復元できる可能性を持つわずかな痕跡が得られたといえる。しかし、分析結果を今後有効活用していくには、分析試料が確実にその遺構に伴ったものであることを明確にしておくことが前提である。この点をまず解決しておかないと活用は困難である。

今回の分析試料に関しては、図や写真記録が欠けていたものの調査所見から遺構に伴う可能性が高いと結論した。しかしながら、分析データの幅広い活用のためには、分析結果公開後にも試料の由来を検証できるように、発掘調査段階において試料の由来・出土状態を吟味し、調査所見・図面・写真類を詳細に記録保存しておくことが大切であることを改めて指摘しておきたい。

## 第8章 総括

本章では、上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査によって判明した調査成果のうち、本報告書の記載内容の主体を占めた縄文時代に関する調査成果について整理し、次の第1節、第2節に若干の考察を加えて総括した。

### 第1節 上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代前期の石器群

#### 1. はじめに

上泉唐ノ堀遺跡では、縄文時代の主な遺構として竪穴住居16軒と土坑208基が検出された。これらの遺構や縄文包含層から縄文土器や石器、石製品などの遺物が大量に出土した。

縄文時代の土器については、早期や中期、後期のものもわずかに認められたが、大部分が前期の黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式のものであった。このうち、諸磯b式が最も多かった。竪穴住居の時期は、土器の出土状態を型式別に検討した結果、黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期であることが判明した（第2節参照）。

一方、竪穴住居や縄文包含層からは、剥片系石器や礫石器などの石器群も前期の土器に共伴して大量に出土した。石器群はこれらの土器と共伴して出土したことから、石器群の帰属時期も土器と同じ黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期、諸磯c式期の範囲内の時期に形成されたことは確実といえる。

上泉唐ノ堀遺跡から出土した縄文時代の石器群は、他の時期の石器の混在がとてまもなく、黒浜式期から諸磯a式期、諸磯b式期、諸磯c式期までの前期後半の時間幅の中に形成された一括遺物であり、縄文時代前期後半の時期の石器群の様相を良好に保持した石器群といえる。したがって、上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代前期後半の石器群について、石器組成や石器石材などの分析データを抽出して基礎データを示しておくことは、今後赤城山南麓地域における縄文時代前期後半の石器群の実態や特徴を考察し、狩猟採集生活の一端を解明していくうえで重要といえる。

そこで、縄文時代の石器群について、器種組成や石器石材組成、器種ごとの属性について様相をまとめておくこととした。なお、集計に際しては縄文時代の竪穴住居

第37表 石器類の出土量

	縄文遺構	遺構外	総計
剥片系石器	3,360	3,579	6,939
	56,357	56,719	113,076
礫石器	144	97	241
	139,073	106,883	245,956
石製品	7	3	10
	142	383	525
礫	682	853	1,535
	420,370	44,289	464,659
数量合計	4,193	4,532	8,725
重量合計 (g)	615,942	208,274	824,216

や土坑、縄文包含層、表土など遺構ごとに区別せず、すべて一括して扱った。

#### 2. 石器類の分類と出土数量

##### (1) 石製遺物の分類

上泉唐ノ堀遺跡では、まず石を素材とした遺物を石製遺物として一括し次に石器類、石製品、礫の三種に大別した。石器類は、剥片系石器と礫石器に分類した。剥片系石器は石鏃、石匙、石槍、石錐、削器、石核、使用痕ある剥片、加工痕ある剥片、剥片（砕片も含む）などに分類した。打製石斧や磨製石斧も剥片系石器に含めた。

礫石器には、敲打痕や擦痕・研磨痕、凹み痕など人為的な使用によって形成されたと考えられる痕跡（使用痕）が認められた礫を認定した。敲石、磨石、凹石、多孔石、石皿、台石、砥石に器種分類した。また、石製の玦状耳飾りや垂飾などを石製品とした。

礫は、何らかの用途により人為的に遺跡内に運搬されてきたと判断したものである。焼礫も礫に含めた。なお、回収された礫の点数は計1,535点のみであるが、発掘調査ではこの点数をはるかに上回る量の礫が出土している。

##### (2) 出土数量

上泉唐ノ堀遺跡から出土した石製遺物は、総計8,725

点、総重量約824kgである。このうち、縄文時代遺構からの出土数量は4,193点、遺構外からの出土数量は4,532点である。

### 3. 剥片系石器

剥片系石器は、総数6,939点、総重量113,076gが出土した。

剥片系石器は器種別に、石鏃、石槍、石錐、石匙、楔形石器、削器、スタンプ形石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、打製石斧、磨製石斧、剥片（砕片含む）に分類した。各器種の数量・重量は第39表に記載した通りである。剥片系石器の数量のうち、約82%と圧倒的に大部分を占めているのが剥片で、このほか石鏃79点、打製石斧215点、磨製石斧25点が検出された。

### 4. 石器石材（剥片系石器）

剥片系石器について石器石材別に分類を行った。その結果、31種類に分類された。詳細は第38表に記載した通りであるが、20点以下の数量しかない石器石材については、その他に一括した。その他の石器石材には、緑色片岩、黒色片岩、変質安山岩、雲母石英片岩、砂質頁岩、点紋頁岩、ひん岩、硬質頁岩、変質蛇紋岩、輝緑岩、赤碧玉、蛇紋岩、溶結凝灰岩、デイサイト、閃緑岩、ガラス質安山岩、糖晶状チャート、凝灰質砂岩がある。

数量では、黒色頁岩が3,785点で最も多く、剥片系石器全体の54.5%を占める。次いで、黒色安山岩が1,508点で21.7%、チャートが924点で13.3%である。黒色頁岩、黒色安山岩、チャートの3種類の石器石材で剥片系石器全体の約90%を占めていた。一方、黒曜石はわずか161点・2.3%しかなかった。

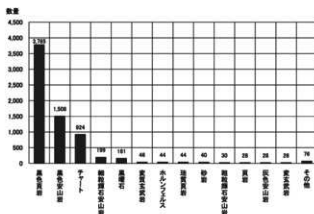
上泉唐ノ堀遺跡における剥片系石器の石器石材は、主に黒色頁岩、黒色安山岩、チャートの3種類で構成されていることが判明した。

また、器種ごとに石器石材の利用に偏りが見られた。石鏃ではチャート、打製石斧では黒色頁岩、磨製石斧では変質武岩をそれぞれ主体的に利用していた。

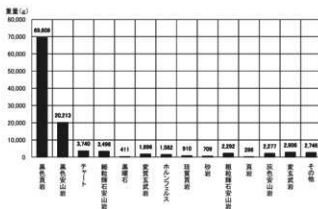
ところで、群馬県における縄文時代前期の諸磯b式期、諸磯c式期の遺跡では、例えば安中市中野谷松原遺跡や高崎市神保橋松遺跡、伊勢崎市大上遺跡のように黒曜石を大量に出土する遺跡があり、黒曜石の大量利用が

第38表 石器石材別組成（剥片系石器）

	数量	%	重量 (g)	%
黒色頁岩	3,785	54.5%	69,609	61.6%
黒色安山岩	1,508	21.7%	20,214	17.9%
チャート	924	13.3%	3,739	3.3%
細粒輝石安山岩	199	2.9%	3,496	3.1%
黒曜石	161	2.3%	410	0.4%
変質玄武岩	46	0.7%	1,896	1.7%
ホルンフェルス	44	0.6%	1,582	1.4%
珪質頁岩	44	0.6%	911	0.8%
砂岩	40	0.6%	709	0.6%
粗粒輝石安山岩	30	0.4%	2,292	2.0%
頁岩	28	0.4%	286	0.3%
灰色安山岩	28	0.4%	2,277	2.0%
変質武岩	26	0.4%	2,907	2.6%
その他	76	1.1%	2,748	2.4%
合計	6,939	100%	113,076	100%



第195図 石器石材別数量（剥片系石器）



第196図 石器石材別重量（剥片系石器）

## 第1節 上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代前期の石器群

第39表 石器組成（剥片系石器）

	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	楕円石器	削器	スタンプ 形石器	加工痕あ る剥片	使用痕あ る剥片	石核	打製石片	磨製石片	剥片	剥片	統計
黒色頁岩	12	1	9	7	3	123		221	126	52	132		3,049	30	3,785
	17	30	82	83	47	6,190		10,083	4,512	9,955	9,994		27,765	51	69,609
黒色安山岩	18		3	3	1	11		35	5	76	1		1,350	5	1,508
	44		10	45	11	612		897	121	10,088	15		8,363	8	20,214
チャート	38	1	12	7	6	2		46	12	26			687	87	924
	79	3	43	61	48	12		386	177	484			2,331	115	3,739
粗粒輝石安山岩				1		1		7			16		174		199
				2		5		212			908		2,369		3,496
黒曜石	11					2		7	7	11			123		161
	5					11		21	43	138			392		410
安賢玄武岩						2		11	2			1	30		46
						92		875	52			59	818		1,896
柱状頁岩		1	1			1		5	3		5	1	27		44
		12	20			64		80	52		471	9	203		911
ホルンフェルス								1		1	5		37		44
								99		397	317		769		1,582
砂岩						2		1	2		1		34		40
						12		24	248		82		343		709
粗粒輝石安山岩							1	1			5		23		30
							535	23			1,555		179		2,292
灰色安山岩				2		11		1					14		28
				92		878		19			1,288				2,277
頁岩										1			27		28
										53			233		286
安玄武岩						1		1	1			17	6		26
						332		197	75			2,296	7		2,907
緑色片岩								1			5	1	7		14
								66			369	6	29		470
黒色片岩											6		6		12
											426		28		454
安賢安山岩								1			1		8		10
								182			125		71		378
雲母石英片岩									1		4	2			7
									29		481	69			579
砂質頁岩													6		6
													71		71
点紋頁岩													5		5
													172		172
安賢蛇紋岩												2	1		3
												24	10		34
ひん岩											1	2			3
												243	20		263
硬質頁岩		1							1	1					3
		5							8	188					201
赤緑玉													2		2
													22		22
その他													9	2	11
													302	2	304
数量合計	79	4	25	18	10	147	1	349	161	168	215	25	5,613	124	6,939
質量合計 (g)	145	50	155	191	106	7,422	535	14,823	5,336	21,303	16,031	2,706	44,097	176	113,076

この時期における群馬県域の石器石材利用の特徴といえる。しかし、上泉唐ノ堀遺跡では黒曜石の利用がとても少ないことが判明した。この黒曜石利用の少なさが上泉唐ノ堀遺跡の石器石材の様相を特徴づけている。

## 5. 石鏃

石鏃は計79点が出土した。

形態はバリエーションが豊富である。有茎鏃、無茎鏃があり、さらに無茎鏃には基部が平基なものや脚部をもつものが認められた。

石器石材別では、チャートが38点で約半分を占めていた。他は黒色安山岩が18点、黒色頁岩が12点、黒曜石が11点であった。割片系石器全体では黒色頁岩は54.5%を占めていたものの、石鏃では15.2%を占めるにすぎなかった。また、黒曜石の占める割合は13.9%と低かった。

大きさについては、破損品や未成品と考えられるものを除き、すべて長さが1cmから4cmであった。黒曜石では長さ1cmから2cmのものがほとんどで、他の石器石材のものに比べて小型のものが多く、

上泉唐ノ堀遺跡では石鏃の石器石材として主にチャートが利用され、ほかに黒色安山岩、黒色頁岩が利用されていた。また、黒曜石の利用は少ないことが判明した。

## 6. 打製石斧

打製石斧は計215点が出土した。

形態は、短冊形と楕円形が主体を占めていた。楕円形は側縁中央部を緩やかに狭くしたものが認められた。

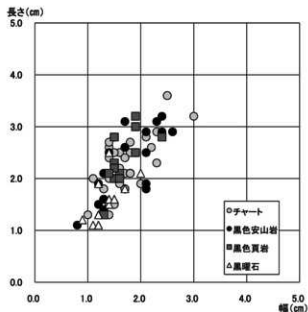
石器石材は計12種類に分類された。このうち、黒色頁岩が152点で最も多く約71%を占めていた。次いで細粒輝石安山岩が16点7.4%、灰色安山岩が14点6.5%で、他の石器石材については10点以下であった。黒色安山岩は割片系石器全体で1,508点・21.7%を占めていたが、打製石斧ではわずか1点しかなかった。反対に、灰色安山岩は割片系石器でわずか28点・0.4%でしかなかったが、このうち打製石斧が14点・50%を占めていた。

打製石斧の石器石材を見ると、黒色頁岩が2/3以上を占めていた。上泉唐ノ堀遺跡では、打製石斧の製作においては黒色頁岩の利用頻度が高かったといえる。

次に、完形品と破損品を一括して、長さ別に数量を見ると、6～8cmが58点で最も多く、次いで4～6cm52点、

第40表 石鏃石器石材別組成

	数量	%	重量 (g)	%
チャート	38	48.1%	78.8	54.7%
黒色安山岩	18	22.8%	43.5	30.2%
黒色頁岩	12	15.2%	16.6	11.5%
黒曜石	11	13.9%	5.1	3.6%
合計	79	100%	144.1	100%



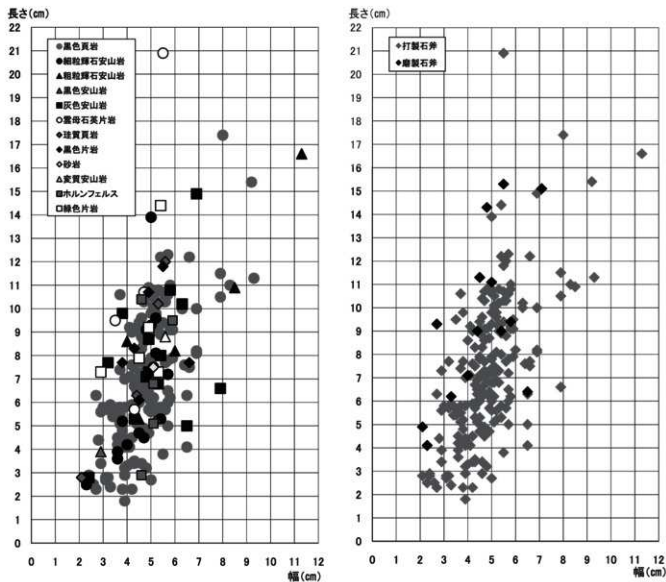
第197図 石鏃長幅別散布図

第41表 打製石斧石器石材別組成

	数量	%	重量 (g)	%
黒色頁岩	152	70.7%	9,994	62.3%
灰色安山岩	14	6.5%	1,288	8.0%
黒色安山岩	1	0.5%	15	0.1%
細粒輝石安山岩	16	7.4%	908	5.7%
粗粒輝石安山岩	5	2.3%	1,555	9.7%
変質安山岩	1	0.5%	125	0.8%
ホルンフェルス	5	2.3%	317	2.0%
費母石英片岩	4	1.9%	481	3.0%
珪質頁岩	5	2.3%	471	2.9%
黒色片岩	6	2.8%	426	2.7%
緑色片岩	5	2.3%	369	2.3%
砂岩	1	0.5%	82	0.5%
合計	215	100%	16,030	100%

8～10cmが37点であった。14cm以上の大型品も6点確認された。一方、4cm以下の小型品も29点確認されたが、これらには破損品も含まれている。





第198図 打製石斧・磨製石斧長幅別散布図

上泉唐ノ堀遺跡では、打製石斧は長さ6～8cm前後のものが主体を占めていることがわかった。ここに示した打製石斧の長さは、最終的な廃棄時点での大きさである。打製石斧は製作後の使用や破損に伴い刃部再生や側縁調整などの再生加工を経て製作当初の大きさよりも小型化しているはずである。上泉唐ノ堀遺跡では、概ね6～8cm程度にまで小型化した打製石斧の廃棄頻度が高い。製作当初の大きさに比べて、この程度の大きさにまで小型化すると、それ以上の再生加工は行われず廃棄される頻度が高かったといえる。

## 7. 磨製石斧

磨製石斧は計25点が出土した。形状は短冊形を主体と

第42表 磨製石斧石器石材別組成

	数量	%	重量 (g)	%
変玄武岩	17	68.0%	2,296	84.9%
雲母石英片岩	2	8.0%	69	2.6%
変質蛇紋岩	2	8.0%	24	0.9%
ひん岩	1	4.0%	243	9.0%
変質玄武岩	1	4.0%	59	2.2%
珪質頁岩	1	4.0%	9	0.3%
緑色片岩	1	4.0%	6	0.2%
合 計	25	100%	2,706	100%

している。

石器石材でみると、変玄武岩が17点68%で約2/3を占めていた。他に雲母石英片岩、変質蛇紋岩、ひん岩など

## 第8章 総括

が少数認められた。打製石斧では黒色頁岩が主体であったが、磨製石斧では黒色頁岩はなかった。このことから上泉唐ノ堀遺跡では、磨製石斧と打製石斧は石器石材を明確に使い分けて製作されていたことがわかる。

大きさは最大で長さ15.3cm、最小で長さ4.1cmであった。長さ9cm～12cmのものが6点認められた。

### 8. 石核

石核は計168点が出土した。個々の石核の大きさは計測していないが、重量についてはすべて計測した。

石核には、剥片剥離によって形成された稜線上の緑辺部が潰れているものが認められた。この痕跡は、緑辺部を敲打したり、押しつぶしたり、押し引いたりした作業によって形成されたものと推測される。また、剥片剥離の途中で形成されたものではなく、剥片剥離終了後に緑辺部に形成されたものである。したがって、緑辺部の潰れが剥片剥離技術の痕跡である可能性は低い。

このことから緑辺部の潰れという痕跡を持つ石核は剥片剥離が終了した後に、石核から敲打具に転用されたと考えられる。ただし、敲打具への転用といっても剥片剥離の結果生じた鋭利な緑辺部を機能部位を選んで作業しているので、曲面で丸みを持つ円礫端部を機能部位とする敲石とは異なる用途に利用されたことは確実である。

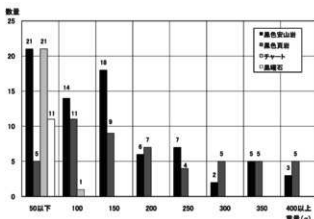
石核の石器石材についてみると、黒色安山岩が76点45.2%で石核全体の約半分を占めている。次いで、黒色頁岩が52点31.0%、チャートが26点15.5%であった。黒曜石は11点6.5%であった。黒色安山岩、黒色頁岩、チャートの3種類の石器石材で石核全体の90%以上になる。この3種類が石器石材構成比の大部分を占めている点は剥片系石器の構成比と同じであるが、黒色安山岩と黒色頁岩を比較した場合においては、石核では黒色安山岩の構成比が黒色頁岩よりも大きくなっている。

石核の重量についてみると、黒曜石ではすべて50g以下、チャートでは22点中21点が50g以下であった。一方、黒色安山岩や黒色頁岩では150g以下が主体であるものの150gを超えるものも多く認められた。

重量は大きさに比例しているため、黒色安山岩や黒色頁岩の石核では、大型から小型まで多種多様な大きさであることを示し、それに比べてチャートや黒曜石の石核では小型が主体であることがわかる（第199図）。

第43表 石器石材別組成（石核）

	数量	%	重量 (g)	%
黒色安山岩	76	45.2%	10,088	47.4%
黒色頁岩	52	31.0%	9,955	46.7%
チャート	26	15.5%	484	2.3%
黒曜石	11	6.5%	138	0.6%
ホルンフェルス	1	0.6%	397	1.9%
硬質頁岩	1	0.6%	188	0.9%
頁岩	1	0.6%	53	0.2%
合計	168	100%	21,303	100%



第199図 石核の重量別数量図（石器石材別）

これは、黒色安山岩や黒色頁岩では大型から小型まで多様な大きさの原石が石核に利用されていたことを示し、反対にチャートや黒曜石では小型の原石が石核に利用されていたことを示している。また、黒色安山岩や黒色頁岩では多様な大きさの石核から多様な大きさの剥片を剥離し、そして様々な大きさの剥片を素材として、小型の石鏃、石錐、石匙から大型の削器や打製石斧など多様な大きさの器種が製作されたことを反映し、反対にチャートや黒曜石では石鏃や石錐や石匙など小型の器種のみが製作されたことを反映したものと見える。

### 9. 礫石器

礫石器は総計241点、総重量約246kgが出土した。磨石、凹石、敲石、多孔石、石皿、台石、砥石に器種分類した。詳細は第44表に記載した。

素材は円礫で、磨石や凹石では扁平な円礫あるいは楕円形礫、敲石では棒状礫あるいは長楕円形礫を主に利用していた。多孔石や石皿では大型礫を利用していた。

礫石器の石器石材は25種類に分類された。このうち粗

第44表 石器組成 (礫石器)

	磨石	砂石	礫石	台石	多孔石	石皿	礫石	総計
粗粒輝石安山岩	52	57	6	8	14	12	1	150
	21,720	25,109	1,708	35,220	52,345	17,862	5,585	159,549
細粒輝石安山岩	3	1	2		6	1		13
	1,140	340	315		42,176	10,820		54,791
石英閃緑岩	5	3	3	1				12
	2,234	1,771	1,083	2,050				7,138
黒色頁岩			11					11
			2,086					2,086
牛沢砂岩							7	7
							634	634
ひん岩	2	1	3					6
	594	398	1,801					2,793
黒色安山岩			5					5
			882					882
湖相凝灰岩	2		2					4
	721		197					918
砂岩	1		3					4
	210		331					541
緑色片岩						4		4
						1,812		1,812
花崗岩	1			1	1			3
	440			6,777	1,298			8,515
灰色安山岩	1		2					3
	82		841					923
変質玄武岩			3					3
			760					760
変質安山岩			3					3
			724					724
F作(小)質凝灰岩	1	1						2
	174	294						468
珪質頁岩			2					2
			817					817
流紋岩	1							1
	646							646
霞石石英片岩			1					1
			179					179
文象頁岩		1						1
		316						316
閃緑岩		1						1
		298						298
ホルンフェルス			1					1
			282					282
輝緑岩	1							1
	226							226
石英			1					1
			276					276
変輝緑岩		1						1
		305						305
砂質頁岩			1					1
			77					77
数量合計	70	66	49	10	21	17	8	241
重量合計 (g)	28,187	28,831	12,359	44,047	95,819	30,494	6,219	245,956

粗粒輝石安山岩が150点で約62%を占めていた。他に、細粒輝石安山岩が13点、石英閃緑岩が12点、黒色頁岩が11点であった。これら以外の石器石材はすべて7点以下と少数であった。

磨石では70点のうち52点が、凹石では66点のうち57点が粗粒輝石安山岩であった。また、敲石では49点のうち黒色頁岩が11点で、粗粒輝石安山岩（6点）よりも利用頻度が高かった。砥石では8点のうち7点が牛伏砂岩であった。

礫石器には粗粒輝石安山岩が利用される頻度がとても高いことが判明した。肉眼観察ではあるが、この粗粒輝石安山岩は赤城山の山体を構成する安山岩と同一のものと考えられる。安山岩は赤城山麓を刻む河川や流れ山の露頭などに一般的に見られる岩石で、上京唐ノ堀遺跡近辺の河川でも採取可能な岩石である。

粗粒輝石安山岩は計150点、総重量約160kgにも達する膨大な量が遺跡内に持ち込まれた。磨石や凹石の大きさを見ると、概ね長さは7cmから16cm、幅は5cmから12cm程度の扁平な円形礫あるいは楕円形礫を利用していた。

こうした形状から磨石や凹石の素材礫は河川礫であることは確実で、遺跡近辺の河川から手頃な大きさの礫を選択し採取してきたものと考えられる。一方、礫には10kg以上の大型の垂角礫を利用しているものも少数見られたので、河川だけでなく露頭からの採取も考えられる。

以上、礫石器の石器石材の分析から抽出された粗粒輝石安山岩の多用という現象は、礫石器の素材礫はもっぱら遺跡近辺の赤城山麓流下の河川から採取されていたことを示し、集落から短距離の日常的な行動圏内での採取行動の痕跡を示したものと見える。

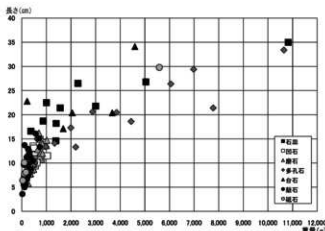
礫石器の素材礫の運搬は重量があるため、ある程度の労働力を必要とするものの集落から近距離採取であったことから、採取地への移動、探索と採取、そして集落までの運搬に係わる労働力はそれほど多くはなかったことが推測される。

一方、剥片系石器に多用された黒色頁岩や黒色安山岩は、礫石器の素材礫の採取地に推定した遺跡近辺の河川では採取できない。

黒色頁岩や黒色安山岩の採取地は利根川の可能性が高く、これらの採取には礫石器の素材礫採取地よりも遠距離の移動を要したと推測される。ただし、採取地を日利

第45表 石器石材組成（礫石器）

	数量	%	重量 (g)	%
粗粒輝石安山岩	150	62.2%	159,549	64.9%
細粒輝石安山岩	13	5.4%	54,791	22.3%
石英閃緑岩	12	5.0%	7,138	2.9%
黒色頁岩	11	4.6%	2,086	0.8%
牛伏砂岩	7	2.9%	634	0.3%
ひん岩	6	2.5%	2,793	1.1%
黒色安山岩	5	2.1%	882	0.4%
溶結凝灰岩	4	1.7%	918	0.4%
砂岩	4	1.7%	541	0.2%
緑色片岩	4	1.7%	1,812	0.7%
花崗岩	3	1.2%	8,515	3.5%
灰色安山岩	3	1.2%	923	0.4%
変質玄武岩	3	1.2%	760	0.3%
変質安山岩	3	1.2%	724	0.3%
デイヤ什凝灰岩	2	0.8%	468	0.2%
珪質頁岩	2	0.8%	817	0.3%
流紋岩	1	0.4%	646	0.3%
雲母石英片岩	1	0.4%	179	0.1%
文象斑岩	1	0.4%	316	0.1%
閃緑岩	1	0.4%	298	0.1%
ホルンフェルス	1	0.4%	282	0.1%
輝緑岩	1	0.4%	226	0.1%
石英	1	0.4%	276	0.1%
変輝緑岩	1	0.4%	305	0.1%
砂質頁岩	1	0.4%	77	0.0%
合計	241	100%	245,956	100%



第200図 礫石器長さ重量別散布図

根川の広瀬川低地帯と推定した場合でも5km圏内と日常的な行動圏内といえるから、黒色頁岩や黒色安山岩の採取に要した労働力も少なく済んだと考えられる。

## 第2節 上泉唐ノ堀遺跡における縄文時代前期の集落

### 1. はじめに

上泉唐ノ堀遺跡の発掘調査によって、縄文時代の遺跡が検出された。遺構は、竪穴住居が計16軒、土坑が計208基検出された。他に掘立柱建物・柵列が検出された。

検出された縄文時代の遺跡は、前期の黒浜式期から諸磯a式期、諸磯b式期の竪穴住居や土坑が累積して形成された集落跡で、諸磯b式期に最盛期を迎えた集落跡であることが判明し、大きな調査成果をあげることができた。ただし、調査範囲は寺沢川に注ぐ小支谷と荻窪川(兼師川)に画された丘陵性台地の東端部を南北に縦断した範囲に限定されたもので、当時の集落の一部分を調査したに過ぎず、集落の全容解明にまでは至っていない。

### 2. 出土土器

出土土器は、遺構覆土および縄文包含層からの出土遺物を含めて型式分類した。この結果、早期・前期・中期・後期のもので、このうち前期が大部分を占めていた。

前期の土器は、黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式に分類され、このうち諸磯b式が最も多いことが判明した。諸磯b式には茶屋類型に細分されるものも確認された。また、浮島式、興津式もわずかに確認された。

### 3. 遺構の時期

縄文時代の遺跡からは、竪穴住居や土坑などの遺構が多数検出された(第4章参照)。

竪穴住居は、計16軒が検出された。各住居の時期決定は、床面位置や覆土中など型式別に出土状態を検討して行った。特に、埋裏炉を伴う竪穴住居については、炉体土器の型式がその竪穴住居の時期を明確に示す材料になると判断し時期決定の根拠とした(第4章参照)。

検討の結果、黒浜式期1軒、黒浜式期もしくは諸磯a式期1軒、諸磯a式期1軒、諸磯b式期12軒、加曾利E3式期1軒となり(第46表)、竪穴住居は諸磯b式期のものが主体であることが判明した。

土坑は、計208基が検出された。土坑の出土土器を一括して見ると、黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、浮島・興津式で、このうち諸磯b式が最も多かった。これは竪穴



31号住居出土の諸磯a式土器



諸磯b式期の竪穴住居・土坑から出土した諸磯b式土器



諸磯b式期の竪穴住居覆土から出土した諸磯c式土器

第201図 主な出土土器

住居の傾向と同じである。なお、諸磯c式を出土した土坑は確認できなかった。また、個々の土坑からの出土土器を見ると、複数の土器型式が混在していた。このため竪穴住居と違って、個々の土坑について明確に時期決定することは困難であった。しかし、出土土器の主体が諸磯b式であること、土坑は諸磯b式期の竪穴住居周辺部に分布し竪穴住居の構築時期と一致する可能性が高いことから、検出された土坑の大部分は諸磯b式期に構築されたものと考えられる。

検出された縄文時代の遺構群は、前期の黒浜式期から諸磯a式期、そして諸磯b式期にわたって累積して構築されたものであった。前期以外の遺構は、中期後半の加曾利E3式の竪穴住居が1軒のみで、他の時期の遺構は検出されなかった。

前期の遺構は、諸磯b式期に構築されたものが大部分

を占めていることが判明したが、諸磯c式期の遺構は確認できなかった。しかし、諸磯c式土器は諸磯b式期の竪穴住居(19号住居)覆土から出土しているため、諸磯c式期の集落は周辺部に存在している可能性が推測される。今回の調査範囲に限定した場合には、諸磯c式期になり集落は断絶しているように見えるが、断絶したというよりも、諸磯c式期の集落は別の場所に移動したと考えられるべきであろう。諸磯c式土器が諸磯b式期の竪穴住居に廃棄されていることを考慮すると、諸磯c式期の集落は今回の調査範囲から比較的近距离の場所に移動して形成された可能性が想定される。

#### 4. 集落の変遷過程

検出された縄文時代の遺跡は、黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期に継続して営まれた縄文時代前期の集落跡であることがわかった。

今回の調査範囲では、前前期葉に相当する関山式土器は出土していないので、集落形成は前期中葉の黒浜式期からはじまったといえる。その後、集落は前期後葉の諸磯a式期・諸磯b式期へと継続して営まれた。

黒浜式期から諸磯a式期の段階では、竪穴住居は計3軒(7号・8号・31号住居)であるから、集落規模は小規模であったことが推測される(ただし集落主体が調査区外に存在する可能性も想定しておく必要がある)。

諸磯b式期の段階になると、竪穴住居や土坑が多数構築され、集落規模は前段階に比較して拡大した。この段階で集落形成は最盛期を迎えたといえる。また、諸磯b式期の竪穴住居の分布から見て調査区外西側にもこの段階の集落が広がっている可能性が高い。

諸磯c式期の段階になると、諸磯b式期に急激に拡大し最盛期を迎えた集落はその直後の諸磯c式期段階になって別の場所に移動したと考えられる。

諸磯c式期より後の前期中葉や中期初頭段階に相当する型式の土器は出土していないので、諸磯c式期を境界としてそれ以後の段階になって上泉唐ノ堀遺跡では集落は消滅したものと考えられる。

その後、縄文時代の集落が再び形成されるのは中期後半の加曾利E3式期の段階であるが、竪穴住居は1軒のみで土器の出土量も少ないことから小規模な集落であったと推測される。後期の土器はわずかに出土しているも

第46表 縄文時代住居の時期

	時期	埋蔵9号体土器	備考
3号住居	諸磯式	2基とも諸磯b式	
7号住居	黒浜式か諸磯a式	検出されなかった	8号・15号と重複
8号住居	黒浜式	検出されなかった	7号・15号と重複
9号住居	諸磯b式	検出されなかった	
10号住居	諸磯b式	検出されなかった	
11号住居	諸磯b式	検出されなかった	
13号住居	諸磯b式	諸磯b式	
14号住居	諸磯b式	検出されなかった	15号と一部重複
15号住居	諸磯b式	検出されなかった	7号・8号と重複
16号住居	加曾利E3式	検出されなかった	
18号住居	諸磯b式	検出されなかった	
19号住居	諸磯b式	検出されなかった	
20号住居	諸磯b式	検出されなかった	
23号住居	諸磯b式	検出されなかった	
25号住居	諸磯b式	2基とも諸磯b式	
31号住居	諸磯a式	諸磯a式	

の遺構はないので、この竪穴住居が今回の調査範囲で検出した縄文時代最後の集落の痕跡といえる。

以上のように、検出された縄文時代の集落跡は、縄文時代前期中葉の黒浜式期から前期後葉の諸磯b式期の時期にかけて形成され、諸磯b式期に最も拡大した集落跡であることが判明した。縄文時代が終わり、その後上泉唐ノ堀遺跡に再び集落が形成されたのは、ようやく奈良時代になってからのことである。

#### 5. まとめと今後の課題

上泉唐ノ堀遺跡の発掘調査によって、縄文時代前期の集落跡が検出された。集落は、黒浜式期から形成されはじめ、諸磯a式期に継続し、そして諸磯b式期になって多数の竪穴住居や土坑が構築されて集落の規模は最も拡大し最盛期を迎えた。その後、諸磯c式期になると今回の調査範囲には竪穴住居は見られなくなるが、これは諸磯c式期の集落は、諸磯b式期に最も拡大した集落とは別の場所に移動したためと推測した。

上泉唐ノ堀遺跡における今回の調査成果は、縄文時代前期に形成された集落の全容を示す訳ではなく、当時の集落の一部分に過ぎない。したがって、集落の変遷過程を今後より詳細に復元していくためには、上泉唐ノ堀遺跡が立地する台地全体あるいは赤城山麓地域の様相を俯瞰し総合的に考察していくことが必要不可欠である。

# 遺物觀察表

1. 縄文時代土器觀察表
2. 縄文時代石器觀察表
3. 奈良時代以降土器觀察表
4. 奈良時代以降鉄製品觀察表
5. 奈良時代以降石製品觀察表

第47表 縄文時代土器観察表(1)

No.	遺構名	図面No.	遺物No.	凡	型式	素材	出土位置	部位	胎土	色相	質感	文様の特徴
1	3号住居	16	1	39	縄輪土	深溝・床土11	口縁～胴下 部3/4	縦	白色粘、輝石、 内包	に包み肌	かつ	横溝口縁径2.0m、縦溝幅径2.0m、口径11～12の横溝付。横溝先部の縦溝付。深溝による横溝付。口縁部に内包肌、深溝部間に深溝付の深溝を施す。深溝部、口縁部間に深溝を施す。
2	3号住居	16	2	39	縄輪土	深溝・床土11	口縁～胴下 部2/3	縦	白色粘、輝石、 内包	赤黒	良好	横溝口縁径2.0m、縦溝幅径2.0m、縦溝口縁付。縦溝先部は縦溝付の深溝を施す。深溝部間に深溝を施す。
3	3号住居	16	3	39	縄輪土	深溝・床土	胴部2/3	縦	白色粘、輝石	に包み肌	かつ	口縁に深溝を施す。
4	3号住居	16	4	39	縄輪土	深溝	胴部前部	縦	白色粘、輝石	縦	かつ	深溝による横溝付。深溝の部分は縦溝付内面による。
5	3号住居	16	5	39	縄輪土	床土5	胴部前部	横	白色粘、輝石、 少	に包み肌	かつ	深溝による横溝付。地文に只し横溝付。
6	3号住居	16	6	39	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石	縦	かつ	平行深溝により横溝を形成する。横溝に只し横溝付。
7	3号住居	16	7	39	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、輝石	互換肌	かつ	深溝による横溝付。深溝部に縦溝キープを施す。横溝に只し横溝付。
8	3号住居	16	8	39	縄輪土	床土14・床土15	胴部前部	横	白色粘、石、 内包	縦	かつ	深溝する部分。集合深溝による横溝付。深溝部に縦溝の集合深溝。文字状の平行深溝を施す。横溝に只し横溝付。
9	3号住居	16	9	39	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 内包	に包み肌	かつ	集合深溝による横溝付。深溝部に縦溝キープを施す。
10	3号住居	16	10	39	縄輪土	床土11	胴部前部	横	白色粘、石、 内包	縦	かつ	深溝5.0cm、集合深溝による横溝付。
11	3号住居	16	11	39	縄輪土	深溝・床土、 床土10	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石、 雲母	に包み肌	かつ	外周縁部のナツ。
12	3号住居	16	12	39	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 内包	に包み肌	かつ	口縁に深溝を施す。
13	3号住居	16	13	39	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 雲母	互換肌	かつ	外周縁部のナツ。
14	7号住居	24	1	40	縄輪土	深溝・床土55	口縁～胴下 部1/2	縦	白色粘、石、 内包	縦	良好	口縁径2.0m、縦溝幅径2.0m、口径11～12の横溝付。横溝先部の縦溝付。深溝による横溝付。口縁部に内包肌、深溝部間に深溝を施す。深溝部間に深溝付の深溝を施す。深溝部間に深溝を施す。
15	7号住居	24	2	40	縄輪土	床土10・床土11	口縁～胴下 部	縦	白色粘、雲母、 少	に包み肌	かつ	口縁径2.5cm、縦溝幅径2.0cmで10.4cmで10.4cm。深溝が閉らみ、口縁が内包する部分。全面に只し横溝を施す。
16	7号住居	24	3	40	縄輪土	深溝・床土8	口縁部前部	横	白色粘、石、 雲母	縦	かつ	横溝口縁径2.6m、口縁径の文字に外周し、深溝部下に内包を施す。胴下に包み肌を施す。
17	7号住居	24	4	40	縄輪土	深溝	口縁部前部	横	白色粘、石、 輝石	に包み肌	かつ	口縁径の文字に内包する部分。深溝による横溝付。深溝の部分は縦溝付内面による。内面に深溝によるキープを施す。
18	7号住居	24	5	40	縄輪土	床土7	口縁部前部	横	白色粘、石、 輝石	に包み肌	かつ	口縁径の文字に内包する部分。深溝による横溝付。横溝に只し横溝付。
19	7号住居	24	6	40	縄輪土	床土12	口縁部前部	横	白色粘、輝石、 少	に包み肌	かつ	外周縁部のナツ。口縁に小段付を付す。深溝に深溝を2条のみで、以下、只し横溝付。
20	7号住居	24	7	40	縄輪土	床土25	胴部前部	横	白色粘、輝石	縦	かつ	深溝による横溝付。深溝部に縦溝キープを施す。
21	7号住居	24	8	40	縄輪土	床土18・床土24	胴部前部	横	白色粘、内包	に包み肌	かつ	深溝による横溝付。深溝の部分は縦溝付内面による。横溝に只し横溝付。
22	7号住居	24	9	40	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石	縦	かつ	深溝による横溝付。横溝に只し横溝付。
23	7号住居	24	10	40	縄輪土	床土25	胴部前部	横	白色粘、輝石	縦	かつ	深溝による横溝付。深溝部に縦溝キープを施す。横溝に只し横溝付。
24	7号住居	24	11	40	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石、 雲母	に包み肌	良好	横溝幅径2.0cm、口径11。深溝のみで、深溝部間に深溝を施す。
25	7号住居	24	12	40	縄輪土	床土11・床土24	口縁部前部	横	白色粘、輝石	に包み肌	良好	口縁径の内面に深溝を施す。集合深溝による横溝付。深溝部間に深溝の集合深溝を施す。
26	7号住居	24	13	40	縄輪土	深溝	口縁部前部	横	白色粘、石、 輝石	に包み肌	良好	横溝幅径の口縁径。平行深溝による横溝付。平行深溝を施した。深溝部に縦溝の集合深溝を施す。深溝部間に深溝を施す。深溝部間に深溝を施す。
27	7号住居	24	14	40	縄輪土	深溝	口縁部前部	横	白色粘、輝石	縦	かつ	口縁下に横溝。縦溝幅径の集合深溝を施す。横溝に只し横溝付。
28	7号住居	25	15	40	縄輪土	床土17・床土24	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石、 雲母	互換肌	かつ	粘土同一面体で深溝付下部の縦溝。横溝は互換肌。
29	7号住居	25	16	40	縄輪土	深溝・床土	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石、 雲母	に包み肌	かつ	平行深溝を施す。深溝に縦溝を施す。深溝部間に深溝を施す。
30	7号住居	25	17	40	縄輪土	床土15・床土24	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石、 雲母	に包み肌	良好	平行深溝を施す。横溝に施す。
31	7号住居	25	18	40	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘	縦	かつ	深溝する部分。3条の集合深溝による横溝付。深溝部上に文字状の平行深溝を施す。横溝に只し横溝付。
32	7号住居	25	19	40	縄輪土	床土10	胴部前部	横	白色粘、輝石	に包み肌	良好	集合深溝による横溝付。縦溝に施す。
33	7号住居	25	20	40	縄輪土	床土44	胴部前部	横	白色粘、輝石	に包み肌	かつ	集合深溝による横溝付。横溝に只し横溝付。
34	7号住居	25	21	40	縄輪土	床土7	胴部前部	横	白色粘、輝石	互換肌	かつ	口の字状に縦溝の内包する部分。深溝部上に横溝の集合深溝。下に横溝に只し横溝付。
35	7号住居	25	22	40	縄輪土	深溝	胴部前部	横	白色粘、石、 輝石	縦	良好	深溝11.0cm、横溝幅径を施す。深溝部間に縦溝を施す。



第48表 縄文時代土器観察表(2)

No	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	素材	出土位置	層位	胎土	色調	装束	文様の特徴等
36	7号住居	25	23	40	雑織巾	灰緑	床土11・床土24	口縁→胴部	灰・白色紀、輝石	にじい・黄緑	灰印	器底下部の中心部、口縁の外側を飾る帯状。縄目集合文様を施して文様帯を区画。文様帯内に幾何学文様による帯状モチーフを配置。区画の下部は貝目文様を施す。区画下部は貝目縁出施す。
37	7号住居	25	24	41	雑織巾	灰緑	床土19	胴部縁部	灰・白色紀、輝石	にじい・黄緑	灰印	縁く内側を飾る。縄目集合文様で区画し、縁部の文様帯内に幾何学文様による帯状を施した幾何学モチーフを施す。
38	7号住居	25	25	41	雑織巾	灰緑	床土41	口縁部縁部	灰・白色紀、石炭、片岩	黄	とっつ	無彫。ハネ縁出施す。内面研磨。
39	7号住居	25	26	41	雑織巾	灰緑	床土	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	赤黒	灰印	区画しを縁出施す。
40	7号住居	26	27	41	雑織巾	灰緑	床土・床土27	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、片岩	黄	灰印	貝目を縁出施す。
41	7号住居	26	28	41	雑織巾	灰緑	覆土	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄緑	とっつ	附加糸織文を縁出施す。
42	7号住居	26	29	41	雑織巾	灰緑	床土21・床土34	胴部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	とっつ	無彫。ハネ縁出施す。内面研磨のノリテ。
43	7号住居	26	30	41	雑織巾	灰緑	床土22	底面縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄	灰印	貝目を縁出施す。
44	7号住居	26	31	41	雑織巾	灰緑	床土6・床土17・床土12	底面縁部	灰・白色紀、輝石、片岩	黄緑	とっつ	帯状文様1.0x。貝目を縁出施す。
45	7号住居	26	32	41	雑織巾	灰緑	床土→床土12	底面縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄	とっつ	帯状文様1.0x。無彫。ハネ縁出施す。
46	7号住居	26	33	41	雑織巾	灰緑	床土→床土17・床土26	底面縁部	灰・白色紀、片岩	黄赤黒	灰印	帯状文様1.0x。区画貝目を縁出施す。
47	7号住居	26	34	41	雑織巾	灰緑	床土31・床土45	口縁部縁部	灰・白色紀、片岩	にじい・黄緑	灰印	口縁部が若干厚く、貝目の先端縁部を縁出帯部に施す。口縁部に刺付を付す。内面研磨。
48	7号住居	26	35	41	雑織巾	灰緑	床土→床土38	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	灰印	床土に口縁部を厚く、口縁に沿って連続的刺付を4.5。以下、附加糸織文を縁出施す。内面研磨。
49	7号住居	26	36	41	雑織巾	灰緑	床土12・床土13・床土17	胴部縁部	灰・白色紀、輝石、片岩	黄	灰印	附加糸織文を縁出施す。
50	7号住居	26	37	41	灰・赤	灰緑	覆土	胴部縁部	灰・白色紀、片岩	にじい・黄緑	とっつ	縁部のノリテにより、地盤縁部まで縁出帯部を施す。
51	7号住居	26	38	41	黄赤	灰緑	覆土	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石、輝石	黄赤黒	とっつ	貝目を縁出施す。内面研磨。
52	7号住居	26	39	41	黄赤	灰緑	床土30	口縁部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄赤黒	とっつ	連続的刺付を縁出。刺付を付す。内面研磨。
53	7号住居	26	40	41	黄赤	灰緑	床土26	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	とっつ	くの字状に区画する縁部。刺付、しりによる帯状縁部。連続的刺付を施す。
54	7号住居	26	41	41	黄赤	灰緑	床土	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	とっつ	縁く内側を飾る。貝目を縁出施す。
55	7号住居	26	42	41	黄赤	灰緑	床土	胴部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	とっつ	くの字状に区画する縁部。貝目を縁出施す。
56	7号住居	26	43	41	黄赤	灰緑	床土34	胴部縁部	灰・白色紀、輝石、輝石	黄	とっつ	44と同一個体。
57	7号住居	26	44	41	黄赤	灰緑	床土22	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄	とっつ	平行文様を縁出帯部に施す。
58	8号住居	30	1	42	雑織巾	灰緑	床土19	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄	灰印	器底を飾る縁部。浮線による幾何学縁部。一部の浮線には大きく器底縁部の刺付を付す。特装に貝目縁出施す。
59	8号住居	30	2	42	雑織巾	灰緑	床土22	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	にじい・黄緑	灰印	刺付に平行文様を施す。
60	8号住居	30	3	42	雑織巾	灰緑	床土27	胴部縁部	灰・白色紀、片岩	黄	とっつ	刺付で区画を施す。
61	8号住居	30	4	42	雑織巾	灰緑	床土19	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石、片岩	黄	とっつ	口縁部内側を飾る。集合文様より幾何学モチーフを施す。
62	8号住居	30	5	42	雑織巾	灰緑	床土16	胴部縁部	灰・白色紀、輝石、片岩	にじい・黄緑	灰印	縁部、刺付の集合文様を施す。
63	8号住居	30	6	42	雑織巾	灰緑	床土29	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄	とっつ	集合文様より幾何学モチーフを施す。
64	8号住居	30	7	42	雑織巾	灰緑	床土	胴部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄	灰印	集合文様による幾何学文様縁部に施すモチーフを施す。
65	8号住居	30	8	42	雑織巾	灰緑	床土18	胴部縁部	灰・白色紀、片岩	黄	とっつ	しりを縁出施す。
66	8号住居	30	9	42	雑織巾	灰緑	床土131・床土157	胴部縁部	灰・白色紀、黄赤黒	黄赤黒	灰印	貝目を縁出施す。
67	8号住居	30	10	42	雑織巾	灰緑	覆土	胴部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	灰印	附加糸織文を縁出施す。
68	8号住居	30	11	42	黄赤	灰緑	覆土	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石、輝石	黄赤黒	とっつ	しり、しりによる区画文様。
69	8号住居	30	12	42	黄赤	灰緑	床土125	口縁部縁部	灰・白色紀、石炭、輝石	黄赤黒	とっつ	貝目を縁出施す。内面研磨。
70	8号住居	30	13	42	黄赤	灰緑	覆土	口縁部縁部	灰・白色紀、輝石	黄赤黒	とっつ	しりを縁出施す。口縁部に連続的刺付を2高めから。

第49表 縄文時代土器観察表(3)

№	遺構名	図面No.	遺物No.	凡	型式	種類	出土位置	層位	胎土	色相	構成	文様の特徴
71	8号住居	30	14	42	黒丸	深鉢	床土36	新築層内	褐色白色、黒石、 緑石	褐色	ろつつ	平行波線文を刻施する。地文に只し、緑色地文、内面磨光。
72	8号住居	30	15	42	黒丸	深鉢	床土15	新築層内	褐色白色、黒石、 緑石、緑石	明褐色	ろつつ	折込縦文を刻施した文。
73	8号住居	30	16	42	黒丸	深鉢	床土11	新築層内	褐色白色、黒石、 緑石、緑石	褐色	ろつつ	波線付内文による刻字文を施す。地文に只し、L字を刻施した文。
74	8号住居	30	17	42	黒丸	深鉢	床土9	新築層内	褐色白色、黒石、 緑石、緑石	明褐色	ろつつ	只し、L字の折込縦文を施し、波線付内文を横線文とする。
75	8号住居	30	18	42	黒丸	深鉢	覆土	新築層内	褐色白色、黒石、 緑石	にがい赤褐色	ろつつ	横線付平行波線、コシバ文を施す。
76	10号住居	35	1	42	緑丸	深鉢	床高→床土11	口縁→床下1 層1/3	褐色白色、 緑石	褐色	良好	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻、口縁部に4単位に並ぶ字状の周帯を有す。集合次第による磨擦構成で、口縁部に斜位、長状の集合次第を施す。地文に無刻し、緑色地文。
77	10号住居	35	2	42	緑丸	深鉢	床高→床土9	口縁→床下1 層1/2	褐色白色、 緑石	褐色	良好	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻、口縁部に4単位に並ぶ字状の周帯を有す。集合次第による磨擦構成で、波線付下内面刻字文並正三角状に3行付。集合次第による磨擦構成で、波線付内面磨光、長型刻字の集合次第を施す。
78	10号住居	35	3	43	緑丸	深鉢	床土16→床土30	口縁→新築	褐色白色、 黒石、 緑石	にがい赤褐色	良好	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻で波状口縁、集合次第による磨擦構成。口縁部に波線状、幅縁部集合次第を施す。地文に只し、緑色地文、横線あり。
79	10号住居	35	4	43	緑丸	深鉢	床土16→床土30	口縁部新築	褐色白色、 黒石	にがい赤褐色	良好	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻で、口縁部にC字状の周帯を有す。浮線による磨擦構成。口縁部に斜位長状の浮線を刻施した文を施す。地文に只し、緑色地文。
80	10号住居	35	5	43	緑丸	深鉢	床高→床土41	口縁部新築	褐色白色、 黒石	明赤褐色	良好	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻。集合次第による磨擦構成。口縁部に斜位、幅縁部集合次第を施す。地文に只し、緑色地文。
81	10号住居	35	6	43	緑丸	深鉢	床土11→床土19	口縁→床下1 層	褐色白色、 黒石、 赤鉄	にがい赤褐色	ろつつ	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻。集合次第による磨擦構成で、波線付内面磨光の集合次第を有す。1層目の幅縁部には縦行付目紋。幅縁部の工具による1層目までである。
82	10号住居	35	7	43	緑丸	深鉢	床高→床土21	底新築内	褐色白色、 緑石	にがい赤褐色	ろつつ	波線付L字。集合次第による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
83	10号住居	35	8	43	緑丸	深鉢	床土17	底新築内	褐色白色、 黒石	にがい赤褐色	良好	波線付L字。浮線による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
84	10号住居	36	9	43	緑丸	深鉢	床土→床土18 →床土30	口縁部新築	褐色白色、 黒石、 赤鉄	にがい赤褐色	良好	キャリパー状の彫刻。波線付波線磨光で、インジンの周帯部を有す。幅縁部で磨光した内面に刻字付の刻字付目紋がある。集合次第による磨擦構成で、口縁部に波線によるC字付の彫刻を有す。地文に只し、緑色地文。
85	10号住居	36	10	43	緑丸	深鉢	床高→床土13	口縁部新築	褐色白色、 黒石	にがい赤褐色	ろつつ	キャリパー状の彫刻で波状口縁。浮線による磨擦構成。口縁部に縦行付目紋を有す。
86	10号住居	36	11	43	緑丸	深鉢	床土31	口縁部新築	褐色白色、 黒石、 赤鉄	にがい赤褐色	良好	波状口縁で口縁の内側を浮線。浮線によるモチーフを有す。地文に只し、緑色地文、幅縁部磨光。
87	10号住居	36	12	43	緑丸	深鉢	覆土	口縁部新築				同一個体。
88	10号住居	36	13	43	緑丸	深鉢	床高	口縁部新築	褐色白色、 黒石、 緑石	にがい赤褐色	ろつつ	波状口縁、波線付下に折込刻字文を有し、浮線によるモチーフを有す。
89	10号住居	36	14	43	緑丸	深鉢	覆土	底新築内	褐色白色、 緑石	にがい赤褐色	良好	波線付L字。浮線による磨擦構成。波線磨光に内面付目紋、幅縁部モチーフを有す。波線付内面付目紋を有す。幅縁部に刻字付目紋がある。集合次第による磨擦構成で、波線付内面磨光の集合次第を有す。
90	10号住居	36	15	43	緑丸	深鉢	床土21→床土30	新築層内	褐色白色、 黒石、 赤鉄	褐色	良好	浮線による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
91	10号住居	36	16	43	緑丸	深鉢	床高	新築層内	褐色白色、 黒石	にがい赤褐色	良好	浮線による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
92	10号住居	36	17	43	緑丸	深鉢	床土16	新築層内	褐色白色、 黒石、 緑石、 赤鉄	にがい赤褐色	良好	浮線による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。浮線は只し、胎土を用いる。
93	10号住居	36	18	43	緑丸	深鉢	床土7→床土30	底新築内	褐色白色、 黒石、 緑石	にがい赤褐色	良好	浮線による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
94	10号住居	36	19	43	緑丸	深鉢	床土11→床土30	底新築内	褐色白色、 緑石	にがい赤褐色	良好	波線付L字。浮線による磨擦構成。波線磨光に内面付目紋、幅縁部モチーフを有す。
95	10号住居	36	20	43	緑丸	深鉢	床土31	底新築内	褐色白色、 黒石、 赤鉄	にがい赤褐色	ろつつ	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻。集合次第による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
96	10号住居	36	21	43	緑丸	深鉢	床土7	底新築内	褐色白色、 黒石、 緑石	にがい赤褐色	ろつつ	横線付波線、幅縁部磨光。キャリパー状の彫刻。集合次第による磨擦構成。地文に只し、緑色地文。
97	10号住居	37	22	43	緑丸	深鉢	床土18→床土30	口縁部新築				同一個体。
98	10号住居	37	23	43	緑丸	深鉢	床土24	口縁部新築	褐色白色、 黒石、 緑石	にがい赤褐色	良好	波状口縁でキャリパー状の彫刻。集合次第による磨擦構成で、波線付下に磨光したモチーフを有す。地文に無刻し、緑色地文。
99	10号住居	37	24	43	緑丸	深鉢	床土22→床土27 →床土30	口縁部新築	褐色白色、 緑石	にがい赤褐色	ろつつ	キャリパー状の彫刻。集合次第による磨擦構成。口縁部に斜位モチーフを施す。地文に只し、緑色地文。口縁部に斜位刻字の付目紋がある。
100	10号住居	37	25	43	緑丸	深鉢	床高→床土29	口縁部新築				同一個体。
101	10号住居	37	26	44	緑丸	深鉢	床土38	口縁部新築	褐色白色、 黒石、 緑石	にがい赤褐色	良好	キャリパー状の彫刻。集合次第をめぐらせて幅縁部の文様磨光。波線磨光に折込帯の集合次第を施す。同時に平行波線による磨擦文を有す。
102	10号住居	37	27	44	緑丸	深鉢	床高→床土29	口縁部新築	褐色白色、 緑石	にがい赤褐色	良好	キャリパー状の彫刻で波線付波線口縁。横線付集合次第をめぐらせて波線付、波線磨光に折込帯の集合次第を施す。地文に無刻し、緑色地文。
103	10号住居	37	28	44	緑丸	深鉢	床土54	口縁部新築				同一個体。
104	10号住居	37	29	44	緑丸	深鉢	床高→床土41	口縁部新築	褐色白色、 黒石、 緑石	明赤褐色	良好	キャリパー状の彫刻。縦い波状口縁を呈し、波線付下に折込刻字文を有す。集合次第による磨擦構成。口縁部に波線状、幅縁部の集合次第を施す。地文に只し、緑色地文。
105	10号住居	37	30	44	緑丸	深鉢	覆土	口縁部新築				同一個体。

第50表 縄文時代土器観察表(4)

編	遺構名	図記号	遺物No.	凡	型式	群類	出土位置	層位	胎土	色相	図式	文様の特徴等
106	10号住居	38	31	44	薩摩土	深溝	裏新緑片		焼: 白色地、輝石、 輝石	に濃い赤褐色	放射	集合土層による横溝構成。地文に只し横位流文。
107	10号住居	38	32	44	薩摩土	深溝→床土15	裏新緑片		焼: 白色地、輝石、 輝石	に濃い赤褐色	放射	逆溝する表示。集合土層による横溝構成。土層間部に幾何学モチーフを描く。地文に放射状の横位流文。内面磨光。
108	10号住居	38	33	44	薩摩土	深溝→床土15	裏新緑片					41と同一個体。
109	10号住居	38	34	44	薩摩土	深溝→床土41	裏新緑片					5と同一個体。
110	10号住居	38	35	44	薩摩土	深溝→床土46	裏新緑片					23と同一個体。
111	10号住居	38	36	44	薩摩土	壘土	裏新緑片					49と同一個体。
112	10号住居	38	37	44	薩摩土	壘土	裏新緑片					49と同一個体。
113	10号住居	38	38	44	薩摩土	深溝上11・深溝上13・深溝上21	裏新緑片					23と同一個体。
114	10号住居	38	39	44	薩摩土	壘土	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	青褐色	放射	集合土層による横溝構成。地文に放射状に磨光し、横位流文。
115	10号住居	38	40	44	深溝	深溝	裏新緑片					63と同一個体。
116	10号住居	39	41	44	薩摩土	深溝→床土13・床土16	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	暗褐色	放射	集合土層をめぐらして口縁部文様帯を区画。文様帯内に集合土層による要形文を施す。裏面放射状に平行土層による斜位流文を施す。
117	10号住居	39	42	44	薩摩土	深溝	裏新緑片		焼: 白色地、輝石、 内磨	に濃い赤褐色	放射	集合土層による横溝構成。土層間部に対する逆状文を施す。地文に只し横位流文。
118	10号住居	39	43	44	薩摩土	深溝→床土14	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	集合土層を横位、斜位に施す。内面磨光。
119	10号住居	39	44	44	薩摩土	深溝→床土38	裏新緑片		焼: 白色地、石英	に濃い黄褐色	まつう	集合土層による横溝構成。地文に放射状の横位流文。
120	10号住居	39	45	44	薩摩土	深溝→床土13	裏新緑片					49と同一個体。
121	10号住居	39	46	44	薩摩土	深溝→床土15・床土16	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 内磨	に濃い赤褐色	放射	集合土層による横溝構成。
122	10号住居	39	47	44	薩摩土	深溝→床土10	口縁部破片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	集合土層により横位、斜位、逆溝状モチーフを描く。
123	10号住居	39	48	44	薩摩土	深溝→床土16	口縁部破片					49と同一個体。
124	10号住居	39	49	45	薩摩土	深溝→床土19→床土26	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	横位集合土層をめぐらして口縁部文様帯を区画。文様帯内に斜位、横位の集合土層を施す。文様帯下に放射状横文を横位流文。
125	10号住居	39	50	45	薩摩土	深溝	口縁部破片		焼: 白色地、石英、 輝石、内磨	暗	まつう	逆状口縁で、逆溝部に対応する小突起を付す。放射状横文を横位流文とする。
126	10号住居	39	51	45	薩摩土	深溝→床土19	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 内磨	暗	まつう	只しを横位流文とし、平行土層を施す。
127	10号住居	39	52	45	薩摩土	深溝	裏新緑片		焼: 白色地、石英	に濃い赤褐色	放射	裏面に磨光のみ、外反する表示。只しを横位流文とする。
128	10号住居	39	53	45	薩摩土	深溝→床土21	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 内磨	青褐色	放射	外反する横文を横位流文とする。
129	10号住居	40	54	45	薩摩土	深溝→床土15	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	まつう	放射状を横位流文とする。
130	10号住居	40	55	45	薩摩土	深溝→床土21	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	まつう	逆状逆溝4.0cm。短形部は無文。
131	10号住居	40	56	45	薩摩土	深溝→床土6→床土29	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	まつう	無斜位を横位流文とする。
132	10号住居	40	57	45	薩摩土	壘土	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	逆状逆溝10.5cm。無斜位を横位流文とする。
133	10号住居	40	58	45	薩摩土	深溝→床土22	裏新緑片					23と同一個体。
134	10号住居	40	59	45	薩摩土	深溝→床土10	裏新緑片		焼: 白色地、石英、 内磨	に濃い赤褐色	放射	平行土層による幾何学モチーフを描く。土層間に汎用文を区画流文。
135	10号住居	40	60	45	深溝	深溝→床土17	口縁部破片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	口縁下に放射状汎用文。平行土層によるモチーフを描く。内側に放射状の口縁部外縁に列装をめぐらす。内面磨光。
136	10号住居	40	61	45	深溝	深溝	口縁部破片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	逆状口縁。口縁に沿って有斜位汎用文を2条施す。平行土層によるモチーフを描く。口縁部に列装を付す。
137	10号住居	40	62	45	深溝	深溝→床土20	口縁部破片		焼: 白色地、石英、 輝石	に濃い赤褐色	放射	逆状口縁。口縁に沿って要形汎用文1条施す。平行土層による要形文と幾何学モチーフを描く。
138	10号住居	40	63	45	深溝	壘土	口縁部破片		焼: 白色地、石英	に濃い赤褐色	放射	要形汎用文。集合土層を施し、裏下中に有斜位汎用文を施す。内面磨光。
139	10号住居	40	64	45	深溝	深溝→床土9	口縁部破片		焼: 白色地、石英	に濃い赤褐色	放射	口縁部を要形施す。裏面に半截竹内径による斜位の列装をめぐらす。裏面裏下中要形汎用文。斜位の列装を施す。内面磨光。
140	10号住居	40	65	45	深溝	深溝→床土38	裏新緑片					63と同一個体。

第51表 縄文時代土器観察表(5)

編	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	分類	出土位置	層位	胎土	色調	質感	文様の特徴
541	10号住居	40	66	45	深角	深角	床土36・床土39	新築破片				6土同一個体。
542	10号住居	40	67	45	深角	深角	深溝	口縁破断片	黒・白色紀、石炭	にひい-縞	段好	2.8土1単位の間隔文を斜位多量に有す。口縁部に斜位を有す。内面磨光。
543	10号住居	41	68	45	深角	深角	床土9・床土9	新築破片	黒・白色紀、石炭	にひい-縞	まつう	裏面凹文、三角文、ローリングを有す。
544	10号住居	41	69	45	深角	深角	床土13	新築破片				6土同一個体。
545	10号住居	41	70	45	深角	深角	覆土	新築破片				6土同一個体。
546	10号住居	41	71	45	深角	深角	床土23	新築破片				6土同一個体。
547	10号住居	41	72	45	深角	深角	覆土	新築破片				6土同一個体。
548	10号住居	41	73	45	瓶+壺	深角	床土17・床土19・床土25	口縁破断片				7土同一個体。
549	10号住居	41	74	45	瓶+壺	深角	床土17・床土19・床土25	口縁破断片	黒・白色紀、石炭	にひい-縞	段好	縁く外反しながら口縁が短く内湾する断片。縁位のナリにより、数層縁状に高まりを複数多量に有す。
550	10号住居	41	75	45	瓶+壺	深角	床土17・床土19・床土25	口縁破断片				7土同一個体。
551	10号住居	41	76	45	瓶+壺	深角	床土17・床土19・床土25	新築破片				7土同一個体。
552	10号住居	41	77	45	甕	深角	深溝	新築破片	黒・白色紀、石炭、輝石、燧石	にひい-縞	まつう	縁位集合文、コシ凹文を有す。縁位あり。
553	10号住居	41	78	45	前期深角	鉢	床土6	口縁破断片	黒・白色紀、輝石	にひい-縞	段好	裏面凹文2.5cm、無文。
554	11号住居	43	1	46	罐破片	深角	穴内	口縁～直線3/4	黒・白色紀、石炭	明赤縞	段好	口縁15.3cm、直径7.4cm、厚さ23.4cm。胴位が膨らみ、口縁が縁く外反する断片。口を縁位破断文とする。
555	11号住居	47	1	46	罐破片	深角	深溝	口縁～直下短3/2	黒・白色紀、石炭、輝石	縞	段好	裏面凹文2.5cm、厚溝高2.0cm、口を縁位破断文とする。
556	11号住居	47	2	46	甕	深角	床溝～床土17	新築破片	黒・白色紀、輝石、燧石	にひい-縞	まつう	裏面する断片。口を金盞破断するが、断面部にはみだりな凹文を有し、半面割内湾による斜位を有す。
557	11号住居	47	3	46	罐破片	深角	床土40	口縁破断片	黒・白色紀、石炭	明赤縞	段好	裏面凹文2.5cm、目を有す。口縁内面を把握させて平断面を有し、上縁による縁位を特徴とする断片。口縁下に円孔を有す。
558	11号住居	47	4	46	罐破片	深角	覆土	口縁破断片	黒・白色紀、石炭、輝石	赤縞	段好	口縁が縁く外反する断片。口縁下に斜位文字、凹に平行凹線による縁位文字モチーフを有す。さらに斜位凹文を有す。
559	11号住居	47	5	46	罐破片	深角	覆土	口縁破断片				4土同一個体。
560	11号住居	47	6	46	罐破片	深角	覆土	口縁破断片				4土同一個体。
561	11号住居	47	7	46	罐破片	深角	覆土	新築破片				4土同一個体。
562	11号住居	47	8	46	罐破片	深角	覆土	新築破片				4土同一個体。
563	11号住居	47	9	46	瓶+壺	深角	覆土	口縁破断片	黒・白色紀、石炭、輝石	縞	まつう	裏面凹文、縁位のナリにより、数層縁状に高まりを複数多量に有す。
564	11号住居	47	10	46	罐破片	深角	床土45	新築破片	黒・白色紀、石炭、輝石	明赤縞	段好	口を縁位破断文とする。
565	11号住居	47	11	46	甕	深角	床土17	新築破片	黒・白色紀、輝石、燧石	赤赤	まつう	裏面する断片。口を、口を有す引状破断文を地文とし、縁位凹文を縁位破断文とする。内面磨光あり。内面磨光。
566	11号住居	47	12	46	甕	深角	床土52	新築破片	黒・白色紀、輝石、燧石	にひい-縞	まつう	口を、口を有す。
567	11号住居	47	13	46	甕	深角	覆土	新築破片	黒・白色紀、石炭、輝石	明赤縞	まつう	口を縁位破断文とする。
568	14号住居	52	1	47	罐破片	深角	床土7・床土14	口縁～直下短3/4	黒・白色紀、輝石	縞	まつう	裏面凹文2.5cm、厚溝高2.0cm、キヤリバー状の縁位。縁～直下口縁で口縁が縁く外反。裏面凹文に各部位の凹文が入れ込まれる。厚溝による縁位破断文。口縁部に反斜モチーフを有す。裏面に縁位文字モチーフを有す。
569	14号住居	52	2	47	罐破片	深角	床溝～床土47	口縁～直線	黒・白色紀、石炭、輝石	縞	段好	裏面凹文2.5cm、厚溝高14.7cm、内反する断片。4単位厚溝口縁で、裏面部のみ内湾する。口を縁位破断文とする。
570	14号住居	52	3	47	罐破片	深角	床土0～床土30	口縁～直下短	黒・白色紀、輝石、燧石	にひい-縞	段好	裏面凹文17.0cm、厚溝高19.7cm、キヤリバー状の縁位。裏面凹文による縁位破断文、上縁部凹文や中縁部、口縁部に反斜モチーフの集合文を有す。地文に断面割し縁位破断文。
571	14号住居	52	4	47	罐破片	30深	覆土	新築破片	黒・白色紀、輝石	縞	段好	キヤリバー状の縁位。縁位による縁位破断文で、口縁部に斜位、反斜モチーフの縁位文字モチーフを有す。地文、縁位縁上部に口を縁位破断文。
572	14号住居	52	5	47	罐破片	30深	覆土	口縁破断片	黒・白色紀、石炭、輝石	にひい-縞	段好	口縁の内湾する断片。縁～直下口縁で、裏面部が短く内反し、裏面部下に円形凹文を有す。裏面凹文による縁位破断文。地文に口を縁位破断文。
573	14号住居	52	6	47	罐破片	深角	覆土	口縁破断片	黒・白色紀、輝石	にひい-縞	段好	キヤリバー状の縁位で縁～直下口縁。裏面部が短く内反し、裏面部下に円形凹文を有す。裏面凹文による縁位破断文。口縁部に入反斜の集合文を有す。
574	14号住居	52	7	47	罐破片	深角	覆土	新築破片	黒・白色紀、石炭	にひい-縞	段好	4土同一個体。
575	14号住居	52	8	47	罐破片	深角	床溝～床土6	新築破片	黒・白色紀、輝石	にひい-縞	段好	縁位平行凹線を有す。地文、文冠等下口を縁位破断文。

第52表 縄文時代土器観察表(6)

No	遺構名	図号No	遺物No	凡	型式	素材	出土位置	層位	胎土	色調	装束	文様の特徴等
176	14号住居	52	9	47	薩摩土	深緑	床土30	口縁部破片	焼白褐色、石炭、煤	にじみ装束	段折	キャリパー状の溝は、集合文様による横帯構成、口縁部は斜位、段折の集合文様を施す。地文に片貝、横位施文。
177	14号住居	52	10	47	薩摩土	深緑	床土44	口縁部破片	焼白褐色	にじみ装束	とつ	キャリパー状の溝は口縁部が内溝する。深折口縁。集合文様により溝帯文など横帯を若干欠き、地文に片貝、横位施文。
178	14号住居	53	11	47	薩摩土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	とつ	集合文様による横帯構成。地文に片貝、横位施文。
179	14号住居	53	12	47	薩摩土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	段折	横位、斜位の集合文様を施す。
180	14号住居	53	13	47	薩摩土	深緑	床土26	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	明赤帯	段折	横位、内溝する頸状モチーフを施す。器底面に平行文様による横帯文を先施す。
181	14号住居	53	14	47	薩摩土	深緑	床土、床土8	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	横	段折	横位集合文様、縦溝状、頸状の平行文様を施す。
182	14号住居	53	15	47	薩摩土	深緑	壘土	口縁部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	とつ	深溝の深折口縁。矢羽装束の集合文様を施す。地文に斜断片、横位施文。
183	14号住居	53	16	47	薩摩土	深緑	床土30	胴部破片	焼白褐色、煤	横	段折	内溝する胎土。片貝を横位施文する。
184	14号住居	53	17	47	薩摩土	深緑	床土20・床土18	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	にじみ装束	段折	斜位横溝文を横位施文する。
185	14号住居	53	18	47	薩摩土	深緑	床土10	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	横	段折	深溝1.6cm、片貝を横位施文する。
186	14号住居	53	19	47	薩摩土	深緑	床土	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	にじみ装束	段折	深溝1.6cm、片貝を横位施文する。
187	14号住居	53	20	47	薩摩土	深緑	床土16	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	明赤帯	段折	深溝1.6cm、片貝を横位施文する。
188	14号住居	53	21	47	薩摩土	深緑	床土36	胴部破片	焼白褐色、石炭、内野	明赤帯	段折	深溝1.6cm、器底面は横文。
189	14号住居	53	22	47	薩摩土	深緑	床土25	胴部破片	焼白褐色、石炭	にじみ装束	とつ	平行文様による木文帯を施す。笠縁部に連続片折文を先施す。
190	14号住居	53	23	47	薩摩土	深緑	床土12・床土12	胴部破片	焼白褐色、石炭	明赤帯	段折	片貝を横位施文する。
191	14号住居	53	24	47	黒土	深緑	床土	口縁部破片	焼白褐色、石炭、煤	横溝	とつ	深く内溝する胎土。片貝を横位施文し、口縁下に平行文様を施す。内面研磨。
192	14号住居	53	25	47	黒土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	明赤帯	とつ	無彫片貝を横位施文する。内面研磨。
193	15号住居	57	1	48	薩摩土	深緑	床土	胴部破片	焼白褐色、煤	高圧	段折	深溝による横帯構成。地文に片貝、横位施文。
194	15号住居	57	2	48	薩摩土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	とつ	器下の斜位。横位集合文様を施す。地文、文様帯下に横彫片貝を横位施文する。
195	15号住居	57	3	48	薩摩土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	段折	片貝を横位施文する。
196	15号住居	57	4	48	薩摩土	深緑	床土114	胴部破片	焼白褐色、石炭、器底面	明赤帯	段折	片貝を横位施文する。
197	15号住居	57	5	48	薩摩土	深緑	床土17	胴部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	段折	片貝を横位施文する。内面研磨。
198	15号住居	57	6	48	黒土	深緑	床土148	口縁部破片	焼白褐色、石炭、煤	横溝	とつ	片貝、し目を斜位施文する。口唇部、内面研磨。
199	15号住居	57	7	48	黒土	深緑	床土114	口縁部破片	焼白褐色、煤	にじみ装束	とつ	斜位横溝文を横位施文する。口唇部、内面研磨。
200	15号住居	57	8	48	黒土	深緑	床土26・床土161	口縁部破片	焼白褐色、石炭、煤	にじみ装束	とつ	片貝を横位施文する。口唇部、内面研磨。
201	15号住居	57	9	48	黒土	深緑	床土126	胴部破片	焼白褐色、煤	明赤帯	とつ	片貝を横位施文し、連続片折文を器底から下す。内面研磨。
202	15号住居	57	10	48	黒土	深緑	床土151・床土153・床土161	胴部破片	焼白褐色、煤	横溝	とつ	片貝を横位施文する。
203	15号住居	57	11	48	黒土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	にじみ装束	とつ	この字状に基調する斜位。片貝、し目を斜位施文する。内面研磨。
204	15号住居	57	12	48	黒土	深緑	床土10	胴部破片	焼白褐色、石炭、煤	高圧	とつ	片貝、し目を斜位施文する。
205	16号住居	59	1	49	加賀利土	304	床土	胴部一割部	焼白褐色、石炭、煤	横	段折	キャリパー状の溝は、4単位位の突起を付す。口縁部斜位研磨。胴部横溝文を施す。片貝先施文。
206	16号住居	59	2	49	赤土	深緑	床土20	胴部破片	焼白褐色、石炭	にじみ装束	とつ	コップ文を施す。
207	16号住居	63	1	49	薩摩土	深緑	床土36	胴部破片	焼白褐色、煤	横	段折	器底する横溝。深溝による横帯構成。器底面に斜位。十字状。深溝頸部に頸状モチーフを施す。地文に片貝、横位施文。
208	16号住居	63	2	49	薩摩土	深緑	壘土	胴部破片	焼白褐色	横	とつ	器底面一帯。
209	16号住居	63	3	49	薩摩土	深緑	床土10・床土34	胴部破片	焼白褐色、石炭、内野	明赤帯	段折	深溝による横帯構成。地文に片貝、横位施文。
210	16号住居	63	4	49	薩摩土	深緑	壘土	胴部一割部	焼白褐色、石炭、内野	横	とつ	深溝による横帯構成。器底面に文様帯を先施す。深溝の器底は半截竹筒内皮による。地文に片貝、横位施文。

第53表 縄文時代土器観察表(7)

編	遺構名	図面No.	遺物No.	凡	型式	分類	出土位置	層位	胎土	色調	装束	文様の特徴	
211	19号住居	63	5	49	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片				5と同一個体。	
212	19号住居	63	6	49	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	遺新破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	にひい-横	とつ	浮線による櫛形模文。地文に只し横線装文。	
213	19号住居	63	7	49	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片	黒・白色乾、煤石	横	段折	内面する器用。横文、斜位の集点状装文を主。内面浮線。	
214	19号住居	63	8	49	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	にひい-横	段折	平縁で小段状を行す。集合点線による横文。文様部下に斜位。レンジ状などの幾何学モチーフを施す。	
215	19号住居	63	9	49	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁-新築	黒・白色乾、煤石	にひい-横	段折	遺新破片で、器底中心でくびれた口縁が際立つ。くびれ上位に文様部をもつ。文様部は集合点線による幾何学をモチーフを施す。器底高位に平行斜線による横文を施す。文様部下に集合点線による櫛形模文。器下部は地文に只し横線装文。	
216	19号住居	63	10	49	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片				5と同一個体。	
217	19号住居	64	11	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	にひい-横	段折	只しを横線装文する。	
218	19号住居	64	12	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	明赤線	段折	短冊状を横線装文する。	
219	19号住居	64	13	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片				5と同一個体。	
220	19号住居	64	14	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片	黒・白色乾、石炭	明赤線	段折	只しを横線装文する。内面浮線。	
221	19号住居	64	15	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上11・甕土上2	遺新破片	黒・白色乾	赤線	段折	残存部は横文。
222	19号住居	64	16	50	薩摩Ⅱ	鉢	甕土上17・甕土上24	口縁-遺新	黒・白色乾、煤石	にひい-横	段折	横文口縁5.0cm。器底直径は3.0cm。器高7.6cm。小形の鉢。器下部が平らで、口縁が内面する曲線。横文。残存部では此の個体はなし。	
223	19号住居	64	17	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上20・甕土上11・甕土上31	遺新破片	黒・白色乾、石炭、 内腔	横	段折	器高11.8cm。器底径9.1cmを呈する。集合点線により横位区画し、区画的に集合点線によるレンジ状装文を施す。
224	19号住居	64	18	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片	黒・白色乾、煤石	横線	段折	遺新破片。口縁下に短冊状装文を施し、横文装束を呈し、平行斜線を、内面装束を、内面浮線。	
225	19号住居	64	19	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上27・甕土上12・甕土上31	遺新破片	黒・白色乾、石炭、 内腔、小煤	にひい-横	段折	粘土をめぐりあげる羽状を横位装束に施す。
226	19号住居	67	1	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	にひい-横	段折	口縁が内面する器用。浮線による横文。	
227	19号住居	67	2	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上19・甕土上6	遺新破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	明赤線	段折	口縁が内面する器用。口縁部に横線装文を行す。浮線による横文で器底下に短冊状装束のモチーフを施す。器に短位の浮線を施す。
228	19号住居	67	3	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上17	口縁新破片	黒・白色乾、石炭、 内腔	にひい-横	とつ	遺新破片で、口縁が内面する器用。浮線による横文。
229	19号住居	67	4	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上18・甕土上24	口縁新破片	黒・白色乾	にひい-横	段折	遺新破片。口縁部に斜交を施し短冊状を呈し、器下部に矢羽状の集合点装束を施す。地文に只し横線装文。
230	19号住居	67	5	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片	黒・白色乾、石炭、 内腔	明赤線	段折	遺新破片で口縁が内面し、器底のみ平足する器用。遺新部下に平行斜線を行す。浮線による横文で、器底下に遺存モチーフを施す。	
231	19号住居	67	6	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片				5と同一個体。	
232	19号住居	67	7	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上7	新築破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	横	段折	浮線による櫛形模文。浮線の辺りは半截竹葉状による。地文、一部浮線上に只し横線装文。
233	19号住居	67	8	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上25	遺新破片	黒・白色乾、片骨 多	明赤線	段折	器面する器用。浮線による櫛形模文。地文に只し横線装文。
234	19号住居	67	9	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上27	新築破片	黒・白色乾、石炭	横	段折	遺新部は内面による横文。横文、短冊モチーフを施す。横位片状装束に斜位の短冊装束を施す。
235	19号住居	67	10	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上36	口縁新破片	黒・白色乾、石炭、 内腔	にひい-横	段折	集合点線による櫛形模文。横位区画下に短冊状の集合点装束を施す。地文に只し横線装文。
236	19号住居	67	11	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	口縁新破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	にひい-横	とつ	遺新破片。集合点線による櫛形模文。	
237	19号住居	67	12	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上18・甕土上15	口縁-新築	黒・白色乾、煤石	明赤線	段折	平縁で小段状の小段状を行す。集合点線による横文で、文様部下に器用状装束を施す。器底に平行斜線による幾何学装束を施す。
238	19号住居	68	13	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上43	口縁新破片	黒・白色乾、煤石	にひい-横	段折	口縁下に短冊状装束を施し、附加幾何学装束を横線装文する。内面浮線。
239	19号住居	68	14	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上40・甕土上41	口縁新破片	黒・白色乾、石炭	にひい-横	とつ	外周にのみ口縁が際立つ内面する器用。口縁下に斜交をめぐらせ、附加幾何学装束を横線装文する。
240	19号住居	68	15	50	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	甕土上40・甕土上43	新築破片				5と同一個体。
241	19号住居	68	16	51	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	新築破片	黒・白色乾、煤石	にひい-横	段折	器下部の器用と区別し、附加幾何学装束を横線装文する。	
242	19号住居	68	17	51	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	遺新破片	黒・白色乾、石炭、 煤石	にひい-横	段折	横文器高13.5cm。残存部は横文。短位のモチーフが見られる。	
243	19号住居	68	18	51	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	遺新破片	黒・白色乾、石炭、 片骨	横	段折	横文器高13.0cm。残存部は横文。遺新部は短位のモチーフが認められる。	
244	19号住居	68	19	51	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	遺新破片	黒・白色乾、石炭	にひい-横	段折	平行斜線、羽状片状装束を横線装文し、レンジ装束を施す。片状装束に斜位の短冊装束を行す。内面浮線。	
245	19号住居	68	20	51	薩摩Ⅱ	深鉢	甕土	遺新破片	黒・白色乾、石炭	にひい-横	段折	器用片状装束を横線装文する。	

第54表 縄文時代土器観察表(8)

No	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	時期	出土位置	部位	胎土	色相	焼成	文様の特徴等
246	19号住居	65	21	31	前期後Ⅱ	前期	甕土	胴部破片	帯：白色粘、礫石	横	良好	縄文図形とし、上縁の結束印状横線を横位施文する。
247	19号住居	66	22	31	前期後Ⅱ	前期	甕土	胴部破片				口上同一個体。
248	19号住居	68	23	31	縄線c	後期	赤褐色～灰上25	口縁～胴下部3/4	帯：白色粘、礫石、片礫	明赤黄	良好	口径14.0cm、残存高さ5.6cm、直立する器身、縦位施文を帯状とし九角文様を全面に施す。下縁1/2の平行施文を有する。胴部に七角形の短行施文を有する。口縁下部に平行施文を施す。
249	19号住居	68	24	31	縄線c	後期	赤上7～灰上60	口縁～胴下部1/2	帯：白色粘、礫石	横	良好	口径14.0cm、胴部中央で縮径する器身、器底部に横位と縦位施文を施す。下縁は縦位施文を帯状に施す。口縁部、器下部に短行施文を有する。口縁内面に短行施文を施す。縦位の帯状施文を有する。縦位の帯状施文を有する。
250	20号住居	71	1	31	縄線b	後期	赤上17	器底面				口上同一個体、器底10.0cm。
251	20号住居	71	2	31	縄線b	後期	赤上10～赤上25	胴部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	暗赤	良好	器底する器身、無施文を横位施文する。
252	20号住居	71	3	31	縄線b	後期	赤上21～赤上25	胴部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	明赤黄	良好	無施文を横位、縦位施文する。
253	20号住居	71	4	31	縄線b	後期	甕土	胴部破片	帯：白色粘、礫石	江ノ川黄	良好	横位、縦位の平行施文を施す。横位に只し、縦位施文。
254	20号住居	71	5	31	縄線b	後期	赤上20	胴部破片				口上同一個体。
255	20号住居	71	6	31	縄線b	後期	赤上36	胴部破片	帯：白色粘、礫石	江ノ川黄	どう	深縁による横帯構成。横位に只し、縦位施文。
256	23号住居	76	1	32	縄線b	後期	赤上8～灰上4	口縁～胴部中央1/2	帯：白色粘、礫石	横	どう	横位口径14.0cm、残存高さ10.0cm、キリバー状の器身、横位施文の帯状に横位で、器底面に横位に短行施文を有する。深縁による横帯構成。深縁部下に短行施文のモチーフを有する。
257	23号住居	76	2	32	縄線b	後期	赤褐色～灰上17	口縁～胴下部3/4	帯：白色粘、石礫、礫石	横	どう	口径14.0cm、残存高さ12.4cm、4等分器口縁で縮径が有する。くびれ部下に縮径を有する。器口縁による横帯構成で、くびれ部に深縁。深縁部に短行の平行施文を有する。横位に只し、縦位施文。
258	23号住居	76	3	32	深縁	後期	赤褐色～灰上27	口縁～胴下部3/4	帯：白色粘、石礫	江ノ川黄	どう	口径14.0cm、残存高さ12.4cm、口縁部に管状外縁のような膨出の無い二層構造による器口縁を有する。器口縁の縮径を有する。口縁部に短行施文を有する。以下、横位施文を有する。
259	23号住居	76	4	32	縄線b	後期	赤上27～赤上31・赤上33	口縁部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	江ノ川黄	良好	横位口径14.0cm、キリバー状の器身、横位施文の帯状に横位で、口縁部に横位の帯状施文を有する。深縁部下に平行施文による器口縁を有する。横位に只し、縦位施文。
260	23号住居	76	5	32	縄線c	後期	赤褐色～灰上15	胴～器底	帯：白色粘、礫石	横	どう	器の器身から、器底面が出土する器身。胴部の文様部には縦位施文する集合器身を有する。文様部下は集合器身による。深縁部下に平行施文による器口縁を有する。横位に只し、縦位施文。
261	23号住居	77	6	32	縄線b	後期	赤上10～赤上21	口縁部破片	帯：白色粘、石礫	江ノ川黄	どう	口縁が縦位縮径する器身。深縁による横帯構成。横位に只し、縦位施文。
262	23号住居	77	7	32	縄線b	後期	赤上40～赤上23	口縁部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	江ノ川黄	どう	器口縁で口縁の内径が有する器身。深縁による横帯構成。器底面に横位に短行モチーフを有する。
263	23号住居	77	8	32	縄線b	後期	赤上8	口縁部破片	帯：白色粘、石礫	江ノ川黄	良好	器口縁で口縁が内径が有する器身。深縁による横帯構成。器底面に横位に短行モチーフを有する。
264	23号住居	77	9	32	縄線b	後期	赤上10～赤上30	胴部破片				口上同一個体。
265	23号住居	77	10	32	縄線b	後期	赤上20	胴部破片	帯：白色粘、礫石	江ノ川黄	どう	器口縁で口縁の内径が有する器身。深縁によるモチーフを有する。
266	23号住居	77	11	32	縄線b	後期	甕土	口縁部破片	帯：白色粘、石礫	江ノ川黄	どう	器口縁でキリバー状の器身。器底面下に短行施文を有する。深縁による横帯で、器口縁モチーフを有する。横位に只し、縦位施文。
267	23号住居	77	12	32	縄線b	後期	甕土	胴部破片	帯：白色粘、石礫	江ノ川黄	どう	口縁が内径が有する器身。深縁による横帯構成で横位、縦位のモチーフを有する。口縁部の深縁は短行のモチーフ、器底面下の深縁は上から横位を有する。横位に只し、縦位施文。
268	20号住居	77	13	31	縄線b	後期	甕土	胴部破片				口上同一個体。
269	20号住居	77	14	31	縄線b	後期	赤褐色～灰上23	胴部破片				口上同一個体。
270	20号住居	77	15	31	縄線b	後期	赤上17	胴部破片				口上同一個体。
271	20号住居	77	16	31	縄線b	後期	赤上18～赤上19	胴部破片	帯：白色粘、石礫、片礫多	江ノ川黄	どう	器口縁で縮径する器身。深縁による横帯構成で深縁部下に縮径の深縁を有する。深縁に斜位に短行施文を有する。深縁部下に短行施文を有する。横位に只し、縦位施文。
272	20号住居	77	17	31	縄線b	後期	赤褐色～灰上12	胴部破片				口上同一個体。
273	20号住居	77	18	31	縄線b	後期	赤褐色～灰上12	胴部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	横	どう	深縁による横帯構成。縦位に短行施文。又、深縁のモチーフが施される。
274	20号住居	78	19	31	縄線b	後期	赤上18～赤上14	胴部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	江ノ川黄	どう	横位縮径の深縁部で、口縁の内径が有する器身。深縁による横帯構成。器底面下に短行モチーフを有する。
275	20号住居	78	20	31	縄線b	後期	赤上18～赤上14	胴部破片				口上同一個体。
276	20号住居	78	21	31	縄線b	後期	赤上18～赤上14	胴部破片				口上同一個体。
277	20号住居	78	22	31	縄線b	後期	赤上46	胴部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	江ノ川黄	どう	横位、縦位の深縁を有する。
278	20号住居	78	23	31	縄線b	後期	赤上8～赤上23	胴部破片	帯：白色粘、石礫	暗赤	どう	深縁による横帯構成。
279	20号住居	78	24	31	縄線b	後期	赤上22	器底面	帯：白色粘、石礫、礫石	横	どう	横位口径14.0cm、深縁による横帯構成。
280	20号住居	78	25	31	縄線b	後期	赤上8～赤上21	口縁部破片	帯：白色粘、石礫、礫石	横	どう	器口縁で口縁の内径が有する器身。平行施文による横帯構成。

第55表 縄文時代土器観察表(9)

№	遺構名	図記号	遺物名	凡	型式	時期	出土位置	部位	胎土	色調	質感	文様の特徴等
281	25号住居	78	26	33	薩摩土	弥生	床土14	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石	にひい・ぬ	良好	平行波線による横溝で、横溝、垂れ筋のモチーフを施す。平行波線の上から斜交を施し、平行波線、文線間に斜交の刻みを施す。
282	25号住居	78	27	33	薩摩土	弥生	床土9	裏面底面	紫・白色地、輝石	ぬ	良好	平行波線による横溝を施す。地文に只し横位施文。
283	25号住居	78	28	33	薩摩土	弥生	床溝～床土21	口縁底面				只と同一個体。
284	25号住居	78	29	33	薩摩土	弥生	床溝	口縁底面	紫・白色地、輝石	ぬ	良好	口縁が緩く内折する。集合波線による横溝を施す。
285	25号住居	78	30	34	薩摩土	弥生	床土6	口縁底面	紫・白色地、石炭、輝石	ぬ	良好	垂れ筋の波状口縁。集合波線による横溝を施す。底部間に人形モチーフを施す。
286	25号住居	78	31	34	薩摩土	弥生	床溝～床土21	口縁底面	紫・白色地、石炭、輝石	ぬ赤黒	どう	波状口縁で口縁が緩く内折する。集合波線による横溝を施す。波線部下にワザに似たモチーフを施す。
287	25号住居	79	32	34	薩摩土	弥生	床土22	口縁底面	紫・白色地、石炭、輝石	ぬ	どう	垂れ筋の波状口縁。集合波線による横溝で、波線部下にワザに似たモチーフ、磁石モチーフを施す。地文に只し横位施文。
288	25号住居	79	33	34	薩摩土	弥生	床土10・床土17	裏面底面	紫・白色地、輝石	にひい・ぬ	どう	集合波線による横溝を施す。波線間間に内折斜交を先渡施文する。地文に只し横位施文。
289	25号住居	79	34	34	薩摩土	弥生	床土9・床土20	裏面底面	紫・白色地、輝石	ぬ赤黒	どう	集合波線による横溝を施す。地文に只し横位施文。
290	25号住居	79	35	34	薩摩土	弥生	床溝～床土11	裏面底面	紫・白色地、輝石	ぬ赤黒	どう	集合波線による横溝を施す。地文に只し横位施文。
291	25号住居	79	36	34	薩摩土	弥生	床土10	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石	ぬ	良好	集合波線による横溝を施す。波線間間に内折斜交を先渡施文する。地文に只し横位施文。
292	25号住居	79	37	34	薩摩土	弥生	床土27・床土31・床土33	裏面底面				4と同一個体。
293	25号住居	79	38	34	薩摩土	弥生	床土6～床土38	裏面底面	紫・白色地、輝石	ぬ	どう	集合波線による横溝を施す。波線間間に磁石モチーフを施す。下部中央、地文に只し横位施文。
294	25号住居	79	39	34	薩摩土	弥生	床土9・床土10・床土11	裏面底面	紫・白色地、輝石	ぬ赤黒	どう	下部中央の磁石。只しを横位施文する。
295	25号住居	79	40	34	薩摩土	弥生	床溝	裏面底面	紫・白色地、輝石、多	にひい・赤黒	どう	只を斜位施文する。
296	25号住居	80	41	34	薩摩土	弥生	床土25・床土50	裏面底面	紫・白色地、石炭	ぬ赤黒	良好	交互、只を横位施文する。
297	25号住居	80	42	34	薩摩土	弥生	床土17	裏面底面	紫・白色地、石炭、内粉	赤黒	良好	磁石の加飾施文を横位施文する。
298	25号住居	80	43	34	薩摩土	弥生	床土18・床土22	裏面底面	紫・白色地、輝石	ぬ赤黒	良好	残存部は文。内面磨光。
299	25号住居	80	44	34	紀州灰土	彌生	壺土	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石	ぬ赤黒	どう	横位施文を施し、只しを横位施文する。
300	25号住居	80	45	34	津島	弥生	壺土	口縁底面	紫・白色地、輝石	ぬ	良好	口縁下に短位波線加飾を伴い、交互の印文を施す。
301	25号住居	80	46	34	津島	弥生	壺土	裏面底面				4と同一個体。横位平行波線。交互の印文。斜位の刺交。コッキングを施す。
302	25号住居	80	47	34	津島	弥生	壺土	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石、輝石	にひい・ぬ	どう	只しを横位施文する。
303	25号住居	80	48	34	津島	弥生	壺土	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石	ぬ	どう	波線間間に横位施文する。地文に只し横位施文。
304	25号住居	80	49	34	津島	弥生	床土14	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石	赤黒	どう	只し、只角を互状施文する。
305	25号住居	80	50	34	津島	弥生	床溝	裏面底面	紫・白色地、石炭、輝石	にひい・赤黒	どう	只しを横位施文する。
306	25号住居	80	51	34	津島	弥生	床土33	裏面底面	紫・白色地、輝石、輝石	にひい・赤黒	どう	残存部は無文。内面磨光。
307	25号住居	85	1	35	薩摩土	弥生	床溝	裏面底面	紫・白色地、石炭、内粉	にひい・ぬ	良好	底面を磨光し、深溝による横溝を施す。地文に只し横位施文。
308	25号住居	85	2	35	薩摩土	弥生	床土13	裏面底面	紫・白色地、石炭	ぬ	どう	深溝による横溝を施す。地文に只し横位施文。
309	25号住居	85	3	35	薩摩土	弥生	床溝～床土14	第一波線	紫・白色地、石炭、輝石	にひい・ぬ	どう	底面は6cm、短位只を横位施文する。上端に横位平行波線が見られる。
310	25号住居	85	4	35	薩摩土	弥生	床土14・床土22	第一波線	紫・白色地、石炭、内粉	にひい・ぬ	良好	縦線互折の刻み。無文。横位のモチーフが見られる。口縁下に内角をめぐらす。
311	25号住居	85	5	35	薩摩土	弥生	床土12・床土18	口縁底面	紫・白色地、石炭、内粉	にひい・ぬ	良好	チェリバー状の刻み。縦の波状口縁で波線部下に磨光部が深位したような彫刻文を施す。深溝によるモチーフを施すが、磨光の痕跡は無し。
312	25号住居	85	6	35	薩摩土	弥生	床土6	口縁底面	紫・白色地、輝石	ぬ	どう	チェリバー状の刻み。3本の波状口縁で、波線部下に磨光部が深位したような彫刻文を施す。深溝によるモチーフを施すが、磨光の痕跡は無し。
313	25号住居	85	7	35	薩摩土	弥生	床溝・床土・床土6	裏面底面	紫・白色地、石炭	ぬ赤黒	良好	底面は9cm、深溝による横溝を施す。波線間間に横位の文様を伴い深溝による横溝モチーフを施す。
314	25号住居	85	8	35	薩摩土	弥生	壺土	口縁底面				3と同一個体。
315	25号住居	85	9	35	薩摩土	弥生	壺土	口縁底面	紫・白色地、石炭	にひい・赤黒	良好	波状口縁で口縁が緩く内折する。深溝による横溝で波線部下に磨光部モチーフを施す。地文に只し横位施文。



第56表 縄文時代土器観察表(10)

№	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	分類	出土位置	部位	胎土	色調	質感	文様の特徴等
316	25号住居	85	10	35	薩摩土	深鉢	甕土	口縁部破片				ほぼ同一個体。
317	25号住居	85	11	35	薩摩土	深鉢	床土6	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄緑	どう	深鉢口縁で口縁の内面を露出。深鉢による焼成構成。深鉢部に溝状モザーフを施しているようであるが、原因不明。
318	25号住居	85	12	35	薩摩土	深鉢	床土4	新形破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄緑	どう	口縁の内面を露出。深鉢による焼成構成。地文に只し焼成地文。
319	25号住居	85	13	35	薩摩土	深鉢	深直	新形破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	口縁の内面を露出。深鉢による焼成構成。地文に無刷し+焼成地文。
320	25号住居	85	14	35	薩摩土	深鉢	甕土	新形破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄緑	どう	深鉢による焼成構成。地文に只し焼成地文。
321	25号住居	85	15	35	薩摩土	深鉢	床土8+床土9	口縁部破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄緑	どう	深鉢による焼成構成。深鉢部に溝状モザーフを施す。
322	25号住居	85	16	35	薩摩土	深鉢	床土11+床土14	新形破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄	良好	深鉢による焼成構成。深鉢の内部が一部割壊状に大きく傷み出ている。地文に只し焼成地文。
323	25号住居	85	17	36	薩摩土	深鉢	床土18+床土19	新形破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄	良好	深鉢による焼成構成。地文に只し焼成地文。
324	25号住居	86	18	36	薩摩土	深鉢	床土11+床土14+床土16	新形破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	良好	外反する唇形。くびれ部下に附加赤線文を地文とし、唇位平行波線を施す。くびれ上は斜位のナ字線が見られる。
325	25号住居	86	19	36	薩摩土	深鉢	甕土	新形破片				ほぼ同一個体。
326	25号住居	86	20	36	薩摩土	深鉢	床土11	新形破片				ほぼ同一個体。
327	25号住居	86	21	36	薩摩土	深鉢	床土16	新形破片				ほぼ同一個体。
328	25号住居	86	22	36	薩摩土	深鉢	床土7+床土8	口縁部破片	褐色色粒、石炭、内刷	黄緑	良好	キャリバー状の唇形。深い溝状口縁で、深鉢部に溝を入れることによって2単位の子文様を形成する。唇位波線による胎土構成で、深鉢部はどうとす。胎土にナ字線を施す。地文に只し焼成地文。
329	25号住居	86	23	36	薩摩土	三つ土器	甕土	口縁部破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	どう	キャリバー状の唇形で深鉢口縁を6、平行波線による焼成構成。深鉢部に無刷、胎土にナ字線を施す。地文に只し焼成地文。
330	25号住居	86	24	36	薩摩土	深鉢	床土16	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄	どう	口縁が深く内反する。集合文様による焼成構成で、口縁部にレンズ状など特殊なナ字線を施す。地文に無刷し+焼成地文。
331	25号住居	86	25	36	薩摩土	深鉢	床土18	口縁部破片				床土同一個体。
332	25号住居	86	26	36	薩摩土	深鉢	深直	新形破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	どう	集合文様による焼成構成。地文に只し焼成地文。
333	25号住居	86	27	36	薩摩土	深鉢	床土14+床土16	新形破片	褐色色粒、石炭、煤白	に濃い黄	良好	集合文様による焼成構成。
334	25号住居	86	28	36	薩摩土	深鉢	床土9	新形破片				27と同一個体。
335	25号住居	86	29	36	薩摩土	深鉢	床土17+床土19	新形破片				27と同一個体。
336	25号住居	86	30	36	薩摩土	深鉢	床土8	新形破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	どう	焼成集合文様を施す。地文に只し焼成地文。
337	25号住居	86	31	36	薩摩土	深鉢	床土17+床土19	新形破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	集合文様による焼成構成。
338	25号住居	86	32	36	薩摩土	深鉢	甕土	新形破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	深鉢の内面を焼成地文とする。
339	25号住居	86	33	36	薩摩土	深鉢	床土25	新形破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	附加赤線文を焼成地文とする。
340	25号住居	87	34	36	薩摩土	深鉢	床土11	口縁部破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	内反する唇形。胎土、唇位のナ字線が見られる。
341	25号住居	87	35	36	薩摩土	深鉢	甕土	口縁部破片				ほぼ同一個体。
342	25号住居	87	36	36	薩摩土	深鉢	床土52	新形破片				ほぼ同一個体。
343	25号住居	87	37	36	薩摩土	深鉢	床土6	新形破片				ほぼ同一個体。
344	25号住居	87	38	36	薩摩土	深鉢	床土29	新形破片				ほぼ同一個体。
345	25号住居	87	39	36	薩摩土	深鉢	甕土	新形破片	褐色色粒、石炭	明黄緑	どう	胎土上で内反し、口縁が深く内反する唇形。胎土に波線有り。
346	25号住居	87	40	36	薩摩土	深鉢	床土56+床土58	新形破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	唇位は無文。
347	25号住居	87	41	36	薩摩土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	良好	深鉢口縁で深く内反する。内面を焼成地文とする。
348	25号住居	87	42	36	深鉢	深鉢	床土1+床土34	口縁部破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄	良好	深鉢口縁で深く内反する唇形。附加赤文、平行波線を施す。口縁部に深めの斜めを有す。
349	25号住居	87	43	36	深鉢	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	良好	口縁下に附加赤線文を有し、年輪状内面による押引を施す。
350	25号住居	87	44	36	深鉢	深鉢	甕土	新形破片	褐色色粒、煤白	に濃い黄	どう	年輪状内面による押引を施す。

第57表 縄文時代土器観察表(11)

№	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	群類	出土位置	部位	胎土	色調	質感	文様の特徴
311	25号住居	87	45	37	深溝	深溝	深溝一環上34	胴部破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	4号と同一体、変形円筒文、平行波線を輪位にめぐらせ、コシキョウを施す。
312	25号住居	87	46	37	深溝	深溝	深溝一環上34	胴部破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	三尖文を輪位に施す。
313	25号住居	87	47	37	深溝	深溝	深溝一環上34	胴部破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	4号と同一体。
314	25号住居	87	48	37	深溝	深溝	深溝一環上34	胴部破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	4号と同一体。
315	31号住居	92	1	37	薩摩a	深溝	胴部1/2	破片	褐色白化粧、輝石	緑	良好	短胴片を輪位に施す。
316	31号住居	92	2	37	薩摩a	深溝	深溝+床土16 床土上2	胴部-底面1/2	褐色白化粧、石質、輝石	明赤黄	良好	底面4cm、片手を斜位に施す。底面約3cmを施す。内面研磨。
317	31号住居	92	3	37	前期深溝	三ツ上土	腹土	口縁～底面破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	標準口径5.8cm、標準高さ0.6cm、標準3.4cm、外面輪、輪位の磨痕、内面輪位の磨痕が見られる。
318	31号住居	92	4	37	薩摩b	深溝	腹土	口縁部破片	褐色白化粧、石質、輝石	緑	とつう	キョリバ一枚の磨痕。平縁で口縁に並ぶ短形の刻文を付す。集合次第による構成で、刻文下に溝線がキョリバを施す。地文に縦線1を輪位に施す。
319	31号住居	92	5	37	薩摩b	深溝	床土36	口縁部破片	褐色白化粧、石質	緑	良好	縦く外反する磨痕。口縁部に短形を付し、短形集合次第を施す。次第順に円孔を穿つ。内面研磨。
320	31号住居	92	6	37	薩摩a	深溝	胴部破片	褐色白化粧、石質、輝石	に濃い黄緑	良好	胴部円筒文により両手でタープを施す。内面研磨。	
321	31号住居	92	7	37	薩摩a	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、内磨	明赤黄	良好	輪位片手を地文とし、輪位平行波線を施す。	
322	31号住居	92	8	37	薩摩a	深溝	底面破片	褐色白化粧、石質、内磨	に濃い黄緑	良好	底面直径1.0cm、片手を輪位に施す。	
323	31号住居	92	9	37	薩摩a	深溝	床土22	胴部破片	褐色白化粧、石質、輝石	緑	とつう	4号と同一体。
324	31号住居	92	10	36	薩摩a	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、輝石	赤黄	良好	片手を輪位に施す。	
325	31号住居	92	11	38	薩摩a	深溝	腹土	褐色白化粧、輝石	に濃い黄緑	良好	片手を輪位に施す。	
326	31号住居	92	12	38	薩摩a	深溝	床土10	胴部破片	褐色白化粧、石質	明赤黄	良好	片手を輪位に施す。
327	5号土坑	115	2	36	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、輝石	明赤黄	とつう	深溝による磨痕構成。地文に片手1輪位に施す。	
328	5号土坑	115	3	38	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、内磨	緑	良好	深溝による磨痕構成。深溝磨痕に斜位のキョリバを施す。地文に片手1輪位に施す。	
329	13号土坑	115	8	38	前期深溝	三ツ上土	腹土	褐色白化粧、石質、輝石	に濃い黄緑	良好	次第により筒状タープを施す。内面片手1輪位に施す。	
330	16号土坑	115	9	38	深溝	深溝	腹土	口縁部破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	縦く外反する磨痕。口縁下に短形と磨痕を付し、変形円筒文、集合次第をめぐらす。内面研磨。
331	16号土坑	115	10	38	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、内磨	明赤黄	とつう	磨痕を施す。集合次第による磨痕構成。	
332	17号土坑	115	15	38	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、輝石	明赤黄	良好	底面径5.0cm、コシの字状に短く内面する磨痕。新下位に段を有す。	
333	17号土坑	116	1	38	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、輝石	明赤黄	良好	深溝による磨痕構成。	
334	17号土坑	116	2	38	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、石質	緑	とつう	深溝による磨痕構成。深溝磨痕に並ぶ刻文を施す。深溝の刻文は半高竹筒内面による。	
335	17号土坑	116	3	38	薩摩b	深溝	腹土	口縁部破片	褐色白化粧、石質	緑	とつう	口縁が縦く内反する磨痕。集合次第による磨痕構成。次第順に縦線状の集合次第、平行波線による並文を施す。
336	18号土坑	116	8	39	深溝	深溝	腹土	褐色白化粧、縦線	緑	とつう	斜向きの子部。短形は短形。	
337	21号土坑	116	10	39	薩摩b	深溝	腹土	口縁～胴部	褐色白化粧、輝石	赤黄	とつう	標準口径6.2cm、標準高さ1.7cm、標準口縁に短形を施す。標準高さ調整をめぐらせ口縁部短形を施す。空室部内に竹筒状の集合次第を施す。腹土に短形により平行波線による磨痕を施す。
338	21号土坑	116	11	39	薩摩b	深溝	腹土	胴部中位～底面1/2	褐色白化粧、輝石	緑	良好	底面径5.8cm、底面高さ2.4cm、片手を輪位に施す。上縁に輪位の平行波線が見られる。
339	21号土坑	116	12	39	深溝	深溝	腹土	口縁～胴部	褐色白化粧、輝石	に濃い黄緑	良好	標準口径5.7cm、標準高さ0.7cm、標準口縁下に短形を施す。標準口縁に並ぶ短形の刻文を付す。集合次第による構成で、刻文下に溝線がキョリバを施す。地文に縦線1を輪位に施す。次第順にコシキョウを施す。胴部斜位に短形の刻文を施す。内面研磨。
340	21号土坑	116	13	39	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、輝石	に濃い黄緑	とつう	磨痕を施す。深溝による磨痕構成。地文に片手1輪位に施す。	
341	21号土坑	116	14	39	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、石質	明赤黄	良好	深溝による磨痕構成。地文に短形を施す。	
342	21号土坑	117	1	39	深溝	深溝	腹土	口縁部破片	褐色白化粧、石質	に濃い黄緑	良好	口縁下に斜位の短形を施す。変形円筒文をめぐらす。内面研磨。
343	21号土坑	117	2	39	薩摩b	深溝	腹土	褐色白化粧、輝石	に濃い黄緑	良好	外反する磨痕。集合次第による磨痕構成。やや横位の集合次第順に対応した磨痕の集合次第を施す。胴部斜位に短形の平行波線を施す。	
344	24号土坑	117	7	39	深溝	深溝	腹土	褐色白化粧、石質、縦線	に濃い赤黄	とつう	片手1.片手を短形に施す。	
345	26号土坑	117	8	39	深溝	深溝	腹土	口縁部破片	褐色白化粧、石質、縦線	に濃い黄	とつう	斜位短形文を輪位に施す。内面研磨。

第58表 縄文時代土器観察表(12)

№	遺構名	図号	遺物名	凡	型式	形状	出土位置	層位	胎土	色調	装束	文様の特徴等
386	28号土坑	117	9	39	縄線b	深鉢	甕土	口縁部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	にじみ-黄	段打	キリバー状の縞形が口縁近く内周する。集合文様により縦帯、区画モチーフを施す。地文に只し、横位置文。
387	39号土坑	117	10	39	縄線b	深鉢	甕土	底面附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	にじみ-黄	段打	底面10.3cm、平行文様による横帯構成。文様間に区画の平行文様を施す。地文に横線し、横位置文。
388	41号土坑	117	11	39	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	にじみ-黄	とつ	深線による横帯構成。地文に只し、横位置文。
389	44号土坑	117	13	39	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	黄	段打	集合文様による横帯構成。文様間に区画の文様帯を伴い、文様間に対する縦帯状の文様を施し、区画内に区画の平行文様を施す。
390	44号土坑	117	14	39	深帯	深鉢	甕土	口縁部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	深黄	段打	胴部下半部から、口縁が外周する縁部、口縁下と胴部上位にそれぞれ2本の突出部が文様をめぐらして口縁部文様帯を伴い、文様間に集合文様による縦帯状文を施す。文様下は斜線の平行文様を施す。
391	44号土坑	117	15	39	深帯	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	深黄	段打	胴部下半部から、口縁が外周する縁部、口縁下と胴部上位にそれぞれ2本の突出部が文様をめぐらして口縁部文様帯を伴い、文様間に集合文様による縦帯状文を施す。文様下は斜線の平行文様を施す。
392	44号土坑	117	16	39	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、内磨	にじみ-黄	とつ	深線による横帯構成。地文に只し、横位置文。
393	44号土坑	118	1	39	深帯	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	深黄	段打	胴部下半部から、口縁が外周する縁部、口縁下と胴部上位にそれぞれ2本の突出部が文様をめぐらして口縁部文様帯を伴い、文様間に集合文様による縦帯状文を施す。文様下は斜線の平行文様を施す。
394	44号土坑	118	2	39	深帯	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	深黄	段打	胴部下半部から、口縁が外周する縁部、口縁下と胴部上位にそれぞれ2本の突出部が文様をめぐらして口縁部文様帯を伴い、文様間に集合文様による縦帯状文を施す。文様下は斜線の平行文様を施す。
395	44号土坑	118	3	39	縄線b	浅鉢	甕土	胴一部	黄・白色乾、石炭、 煤石、黒母多	明赤	段打	横帯文様13.0cm、口縁が内周する縁部、赤色漆の縞線あり、流石1箇所存在しているが、縞線は存在する。
396	46号土坑	118	14	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	にじみ-黄	段打	集合文様による横帯構成。
397	47号土坑	119	3	40	縄線b	深鉢	甕土	口縁部附近	黄・白色乾、石炭、 内磨	にじみ-黄	段打	口縁が内周する縁部。深線によるモチーフを施す。地文に只し、横位置文。
398	49号土坑	119	4	40	縄線b	深鉢	甕土	口縁部附近	黄・白色乾、黒母	にじみ-黄	段打	口縁部が深、縦く外周する。附加的縦文を横位置文とする。口縁部に流石を伴う。
399	49号土坑	119	5	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	にじみ-黄	段打	深線による横帯構成。
400	49号土坑	119	6	40	縄線a	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 内磨	にじみ-黄	段打	附加的縦文を横位置文とする。
401	49号土坑	119	8	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	にじみ-黄	段打	横帯集合文様をめぐらせ、斜石、区画のモチーフを施す。地文に只し、横位置文。
402	50号土坑	119	9	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	明赤	段打	深線による縁部、集合文様による横帯構成。文様間に区画モチーフを施す。地文に横線し、横位置文。
403	50号土坑	119	10	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 赤母	赤	段打	深線による縁部、胴部上位は集合文様による横帯構成。胴部下位は横線し、横位置文。
404	57号土坑	119	12	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	にじみ-黄	とつ	集合文様により型押しモチーフを施す。地文に横線し、横位置文。
405	57号土坑	119	13	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭	にじみ-黄	段打	口縁が深く内周する縁部。平行文様より幾何学モチーフを施す。地文に只し、横位置文。
406	57号土坑	119	14	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	にじみ-黄	段打	集合文様により幾何学モチーフを施す。
407	57号土坑	119	15	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、石炭、 煤石	黄	段打	附加的縦文を横位置文とする。
408	57号土坑	119	16	40	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	明赤	段打	斜石を横位置文とする。
409	57号土坑	119	17	40	初期深帯	深鉢	甕土	口縁一帯 深 4.7cm	黄・白色乾、石炭、 内磨	赤	とつ	口縁深7.0cm、底面14.6cm、高10.6cm。胴中位から、口縁がすぼまる縁部、内外区画の付いた深帯を施す。地文に只し、横位置文としている。平底よりほとんど 浅れている。
410	57号土坑	120	1	40	縄線b	深鉢	甕土	底面附近	黄・白色乾、石炭	にじみ-黄	段打	底面14.7cm、深線による横帯構成。地文に只し、横位置文。
411	57号土坑	120	2	41	初期深帯	鉢	甕土	口縁一帯 深 4.7cm	黄・白色乾、煤石	にじみ-黄	とつ	底面口縁深4cm、底面深12.0cm、高17.0cmの小円形鉢。縦文、胴部の区画なし、 とつ
412	57号土坑	120	3	41	初期深帯	鉢	甕土	底面附近	黄・白色乾、煤石	黄	とつ	同上同一個体。
413	72号土坑	120	6	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	黄	とつ	深線による縁部、深線による横帯構成。2条と3条を1単位として交互にめぐらせ、2条は斜線部に3条は斜石に斜石を伴う。地文に只し、横位置文。
414	73号土坑	120	7	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	にじみ-黄	段打	横帯、区画の集合文様を施す。
415	79号土坑	120	8	41	縄線b	深鉢	甕土	口縁部附近	黄・白色乾、煤石	明赤	段打	深口縁で内周する縁部。胴部下位に円形刺付文を伴う。集合文様によるモチーフを施す。
416	79号土坑	120	9	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	黄	とつ	同上同一個体。
417	79号土坑	120	10	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	黄	とつ	同上同一個体。
418	79号土坑	120	11	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	黄	とつ	同上同一個体。
419	79号土坑	120	12	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	黄	段打	胴下中位から深線、深線による横帯構成。く付付下位の深線は斜石の付いた、 深線による縦文を施す。地文に附加的縦文を横位置文、内磨へついで区画の形 の付られる。
420	79号土坑	120	13	41	縄線b	深鉢	甕土	胴部附近	黄・白色乾、煤石	黄	段打	深線による横帯構成。胴下は平行帯形刺付による、円形刺付をめぐらす。

第59表 縄文時代土器観察表(13)

№	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	分類	出土位置	層位	胎土	色調	形状	文様の特徴等
421	84号土坑	121	3	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	片しを横位施文する。
422	84号土坑	121	4	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	横	底折	深淵により滑文を施す。地文に片し横位施文。
423	87号土坑	121	5	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	にじみ	底折	筒形を横位にめぐらせ、滑紋の滑文を上下にむかわせる。筒形上には斜位の滑文を打す。
424	88号土坑	121	6	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	横	底折	横位に滑文、0.6cm、キマリバー状の滑文を施す。深淵部にて3條の縦位施文を打す。全面に片し横位施文。
425	88号土坑	121	7	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	縦	底折	キマリバー状の滑文で縦位施文。深淵部にて字状の縦位施文を打す。集合施文による横帯構成で、深淵部下に滑帯をキマリバーを施す。地文に片し横位施文。
426	88号土坑	121	8	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ				7と同一個体。
427	88号土坑	121	9	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	にじみ	底折	集合施文により横位。筒形キマリバーを施す。
428	90号土坑	121	11	61	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	集合施文による横帯構成。地文に片し横位施文。
429	105号土坑	121	15	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	縦	底折	横位。縦位の平行滑文を施す。内面斜位を施す。文帯部下は片し、しを縦位施文。
430	105号土坑	121	16	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	縦	底折	3と同一個体。地文に片し横位施文。
431	105号土坑	121	17	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	にじみ	底折	滑紋の滑文を横位施文する。
432	110号土坑	122	1	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、内面	横	底折	口縁の内面を施す。深淵による横帯構成。一筋太めの滑帯を施す。深淵部の斜位を施す。口縁部は縦位のキマリバーを施す。地文に片し横位施文。
433	110号土坑	122	2	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	深淵による横帯構成。地文に片し横位施文。
434	110号土坑	122	3	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ				5と同一個体。
435	110号土坑	122	4	62	深灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	筒形の先底面を施す。
436	110号土坑	122	5	62	深灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ				1と同一個体。
437	112号土坑	122	6	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	深淵による横帯構成。地文に片し横位施文。
438	112号土坑	122	7	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	にじみ	底折	横位平行滑文。縦位の集合施文を施す。
439	122号土坑	122	9	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	にじみ	底折	口縁下に平行滑文1筋めぐらす。しを横位施文する。内面斜位。
440	122号土坑	122	10	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	この字状に外置する斜位。し、しを縦位施文する。内面斜位。
441	122号土坑	122	11	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	にじみ	底折	この字状に外置する斜位。し、しを縦位施文する。内面斜位。
442	125号土坑	122	12	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、煤油	横	底折	横位に滑文、0.6cm、キマリバー状の滑文で縦位施文を施す。深淵部にて字状の縦位施文を打す。全面に集合施文を施した構成で、口縁下に4本の滑帯をめぐらす。集合施文によるキマリバーを施す。地文に片し横位施文。
443	125号土坑	122	13	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭	にじみ	底折	筒形の平行滑文で筒形キマリバーを施す。深淵部に滑文を先底面施文する。
444	125号土坑	122	14	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	横位。縦位の滑帯を施す。
445	130号土坑	122	15	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	縦	底折	片しを横位施文する。
446	131号土坑	122	16	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ				1と同一個体。
447	131号土坑	122	17	62	黄灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	縦	底折	し、しを縦位施文する。
448	132号土坑	123	1	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	横位に滑文、0.6cm、深淵部に平行滑文を横位施文する。
449	133号土坑	123	3	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	縦	底折	深淵部、筒形深淵部、集合施文による横帯構成。深淵部にて縦位の集合施文を施す。
450	133号土坑	123	4	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭	にじみ	底折	横位。縦位の集合施文を施す。深淵部は平行滑文ではなく、1本書きで縦位の施文。
451	133号土坑	123	5	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	横位集合施文を施す。
452	134号土坑	123	6	62	深灰	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	横	底折	深淵部、口縁部、コッキングを施す。地文に横位の縦帯構成。
453	137号土坑	123	7	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	集合施文による横帯構成。深淵部にて縦位の平行滑文を施す。
454	139号土坑	123	8	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	縦	底折	片しを横位施文する。
455	139号土坑	123	9	62	縄織巾	深鉢	裏面底面	Ⅱ-Ⅲ	褐色、石炭、煤油	にじみ	底折	片しを横位施文する。

第60表 縄文時代土器観察表(14)

№	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	分類	出土位置	層位	胎土	色調	形状	文様の特徴
456	140号土坑	123	10	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	茶褐色	底平	縁地集合文様を施す。笠部下は只し縁位施文。
457	140号土坑	123	11	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	明赤褐色	底平	キャリバー状の縁地。波状口縁で、波部下を把握せず。縁地の斜みを行う。集合文様による縁地。地文に只し縁位施文。
458	140号土坑	123	12	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	茶褐色	口つ	遺跡内所出によりモチーフを施す。片向文様に斜位の斜みを施す。内面研磨。
459	140号土坑	123	13	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、片輝	明赤褐色	底平	遺跡1.5cm、只しを縁位施文する。
460	141号土坑	123	14	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	暗褐色	口つ	笠部下を縁位施文する。
461	141号土坑	124	1	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭	にがい黄	口つ	対象片の集合文様を施す。地文に只し縁位施文。
462	141号土坑	124	2	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、片輝多	暗	口つ	只しを縁位施文する。
463	141号土坑	124	4	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、褐色乾、石炭	明赤褐色	底平	只しを縁位施文する。
464	140号土坑	124	5	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、片輝	にがい赤褐色	底平	キャリバー状の縁地。笠部下の波状口縁。縁地による縁地構成で、波部下に波帯状モチーフを施す。口縁部にも縁地を施文。地文に只し縁位施文。
465	140号土坑	124	6	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	明赤褐色	底平	遺跡遺厚1.6cm、只しを縁位施文する。
466	140号土坑	124	7	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	にがい黄	底平	遺跡1.6cm、集合文様による縁地構成。地文に只し縁位施文。
467	140号土坑	124	8	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石多	明赤褐色	底平	只しを縁位施文する。
468	140号土坑	124	9	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭	明赤褐色	底平	遺跡遺厚1.0cm、耳部縁は施文。
469	151号土坑	124	12	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ				1と同一個体。平行文様による波状文を縁位多目に施す。
470	151号土坑	124	13	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	にがい黄	底平	平行文様を縁位施文する。地文に只し縁位施文。
471	157号土坑	124	15	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭	にがい黄	口つ	只しを縁位施文する。
472	163号土坑	124	96	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	にがい赤褐色	底平	波部の波状口縁。集合文様による波状モチーフを施す。縁地あり。
473	163号土坑	124	17	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	にがい赤褐色	底平	波帯による縁地構成。
474	163号土坑	124	18	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	にがい赤褐色	底平	波状口縁で口縁が立する縁地。集合文様による幾何学モチーフを施す。
475	163号土坑	124	19	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	暗	口つ	新下位が影ら石磨目。縁地集合文様をめぐらさず文様部を区画。文様部内に幾何学モチーフを施す。文様部下は只し縁位施文。
476	163号土坑	125	1	63	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石多	にがい黄	口つ	縁地口縁厚1.6cm、耳部縁厚1.2cmと小。縁地部で波帯り口縁が際立つ。縁地に縁地平行文様をめぐらさず口縁部文様を区画。文様部内に斜位。波状平行文様を施す。文様部下は只し縁位施文。
477	168号土坑	125	2	64	薩摩a	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、片輝多	明赤褐色	底平	只しを縁位施文する。
478	168号土坑	125	3	64	薩摩a	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	にがい黄	口つ	平行文様による波状文を施し、円形列紋を施す。
479	168号土坑	125	4	64	薩摩a	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾	暗	口つ	只しを縁位施文する。
480	170号土坑	125	6	64	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、片輝	にがい黄	口つ	地文。上縁の内周することから縁地を施す縁地による縁地構成と推定される。
481	170号土坑	125	7	64	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭、輝石	にがい黄	底平	集合文様による縁地構成。地文に只し縁位施文。
482	170号土坑	125	8	64	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭	暗	底平	只しを縁位施文する。
483	170号土坑	125	9	64	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、石炭	にがい黄	底平	遺跡1.5cm、只しを縁位施文する。
484	170号土坑	125	10	64	紀伊風	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石、片輝多	にがい黄	口つ	上、下による波状縁文を縁位施文する。
485	171号土坑	125	12	64	薩摩a	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	暗	口つ	新下位が影ら石磨目。只しを縁位施文する。内面研磨。
486	180号土坑	125	15	64	薩摩b	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	にがい赤褐色	口つ	集合文様による縁地構成。地文に只し縁位施文。
487	182号土坑	125	16	64	薩摩c	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	暗	底平	斜帯子目的に平行文様を施す。先に縁位施文している平行文様があることから縁位施文しているように見えます。
488	182号土坑	125	17	64	薩摩a	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	暗褐色	底平	只しを縁位施文する。内面研磨。
489	182号土坑	125	18	64	薩摩a	深鉢	裏新碓内	Ⅱ				2と同一個体。
490	187号土坑	125	19	64	高森	深鉢	裏新碓内	Ⅱ	紫・白色乾、輝石	にがい赤褐色	口つ	遺跡遺厚11.6cm、遺跡内所出文を縁位施文する。地文に只し、上、下、耳部施文。

第61表 縄文時代土器観察表(15)

No	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	素材	出土位置	部位	胎土	色調	図式	文様の特徴等
491	180号土坑	126	1	54	黄良土	深鉢	甕土	口縁～胴下位	褐色土、黒石、 緑泥	に濃い赤褐色	とつう	黄良土製2.5cm、口縁縁が外反する器形、口しを横位施文する。
492	180号土坑	126	2	54	黄良土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色土、石炭、 緑石、緑泥	黄褐色	とつう	縁が内反する器形、縁部が褐色を横位施文する。地文に口し横位施文。
493	180号土坑	126	3	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石、 緑泥	赤褐色	とつう	口しを横位施文する。
494	180号土坑	126	4	54	黄良土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色土、石炭、 緑泥	に濃い褐色	とつう	口縁下に平行波線、縁の浅い縁部が褐色をめぐらす。横文に口し横位施文。
495	180号土坑	126	5	54	黄良土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色土、石炭、 緑泥	黄褐色	とつう	口しを横位施文する。内面研磨。
496	180号土坑	126	6	54	黄良土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色土、石炭、 片岩	に濃い褐色	とつう	口縁が縁が外反する器形、口しを横位施文する。
497	180号土坑	126	7	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、緑泥	明赤褐色	とつう	口し。口しを耳状施文する。
498	180号土坑	126	8	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑泥	に濃い褐色	とつう	口しを横位施文する。
499	180号土坑	126	9	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑泥	に濃い褐色	とつう	口しを横位施文する。
500	180号土坑	126	10	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑泥	に濃い褐色	とつう	平行波線、コシイ文を横位施文する。内面研磨。
501	180号土坑	126	11	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑泥	に濃い褐色	とつう	口し。口しを耳状施文する。
502	180号土坑	126	12	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石、 緑泥	に濃い褐色	とつう	口し。口しを耳状施文する。
503	180号土坑	126	13	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑泥	に濃い褐色	とつう	口し。口しを耳状施文する。
504	180号土坑	126	14	54	黄良土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石、 緑泥	に濃い褐色	とつう	黄良土製1.5cm、口しを横位施文する。
505	191号土坑	126	17	55	緑褐色土	深鉢	甕土	胴部1/3	褐色土	に濃い褐色	段付	黄良土製による器形構成。定置器内に三角片状、底面状の黄良土製を施し、器内面に ついで半部中縁部をモチーフを施す。地文に縦線が横位施文。
506	195号土坑	127	1	65	緑褐色土	深鉢	甕土	口縁～胴下位1/3	褐色土、石炭、 緑石	に濃い褐色	とつう	口縁1.5cm、黄良土製約2.5cm、縁部が内反による器形構成。内面全周部に横位波線が 定置モチーフを施し、器内面に平行波線を施す。口先文部、斜位の器形を施す。口縁に 縁部を施す。縁部の厚縁を施す。
507	195号土坑	127	2	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭	黄褐色	とつう	厚縁による器形構成。地文に縦線が横位施文。
508	195号土坑	127	3	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石	に濃い褐色	とつう	縁部が内反により幾何学モチーフを施す。口先文部に斜位の器形を施す。
509	195号土坑	127	4	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片			とつう	3と同一器形。
510	195号土坑	127	5	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑石	に濃い褐色	とつう	口しを横位施文する。
511	196号土坑	127	6	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭	明赤褐色	段付	黄良土を横位施文する。
512	197号土坑	127	7	65	緑褐色土	深鉢	甕土	口縁～胴部	褐色土	明赤褐色	段付	口縁が外反する器形、口しを横位施文する。
513	197号土坑	127	8	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石	明赤褐色	とつう	器形状の黄良土製を施す。
514	197号土坑	127	9	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石、 緑石	明赤褐色	段付	黄良土を横位施文する。
515	197号土坑	127	10	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑石	明赤褐色	段付	口し。口しを耳状施文する。
516	197号土坑	127	11	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石、 緑石	黄褐色	段付	黄良土製1.5cm、厚縁による器形構成。
517	198号土坑	127	14	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑石	に濃い褐色	段付	三角片状、内面縁部のモチーフ。
518	199号土坑	128	1	65	緑褐色土	深鉢	甕土	胴部	褐色土、石炭、 緑石	明赤褐色	段付	胴下部の器形のみ、外反する器形。横位黄良土製をめぐらせて縦位の器形を施す。定置 器内に半部中縁部をモチーフ。大半が口縁のモチーフを施し、内面に縦線文を施す。 地文に口しを横位施文。
519	205号土坑	128	4	65	緑褐色土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色土、石炭、 緑石	黄褐色	段付	口縁が内反する器形。厚縁による構成。縁部、斜位、縁部のモチーフを施す。地文に 口しを横位施文する。
520	205号土坑	128	5	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑石	に濃い褐色	段付	厚縁部は施文。
521	205号土坑	128	6	65	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、黒石	明赤褐色	段付	黄良土製1.5cm、縁部が横位施文する。
522	204号土坑	128	8	66	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 片岩	黄褐色	段付	口しを横位施文する。
523	205号土坑	128	9	66	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 緑石	黄褐色	とつう	口しを横位施文する。
524	205号土坑	128	10	66	緑褐色土	深鉢	甕土	底面破片	褐色土、石炭、 黄褐色	明赤褐色	段付	口しを横位施文する。内面研磨。
525	207号土坑	128	12	66	緑褐色土	深鉢	甕土	口縁部破片	褐色土、石炭	黄褐色	段付	黄良土製の定置口縁部、厚縁による構成。内面に黄良土製モチーフを施す。

第62表 縄文時代土器観察表(16)

№	遺構名	図面No.	遺物No.	凡	型式	分類	出土位置	層位	胎土	色調	図式	文様の特徴
526	207号土坑	128	13	66	縄織り	深鉢	裏面破片	Ⅱ	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図9	片、L具を写した痕文。
527	207号土坑	128	14	66	縄織り	深鉢	裏面破片	Ⅱ				2と同一個体。
528	197号坑	129	1	66	縄織り	深鉢	口縁～胴下 部2/3	Ⅱ	白色、石炭、 煤	ぬ	図10	横口部径20cm、底径16cm、高さ10cm、口縁部、胴部を有し、上は急勾配、下部は緩勾配を有す。口縁部は腹径中央に内径1.5cmを有す。胴部下部は足の縁を縁取りしている。焼成に片、縁文。
529	197号坑	129	2	66	縄織り	深鉢	裏面破片	Ⅱ	白色、煤	にじみぬ	図11	直径12cm、胴部縁文を有す。
530	縄文古瓦	136	1	67	早期後半 高文高	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	ぬ	図12	外面に縁の痕を有す。
531	縄文古瓦	136	2	67	早期後半 高文高	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図13	外面にぬ、痕をまばらに有す。
532	縄文古瓦	136	3	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図14	縁く内径する部。L具を縁文とする。内面縁。
533	縄文古瓦	136	4	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図15	口縁が外径する部。L具を縁文とする。内面縁。
534	縄文古瓦	136	5	67	縄織り	深鉢	—	裏面破片				4と同一個体。
535	縄文古瓦	136	6	67	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	ぬ	図16	胴部縁文を有す。
536	縄文古瓦	136	7	67	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	ぬ	図17	L具を縁文とする。
537	縄文古瓦	136	8	67	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	ぬ	図18	L具を縁文とする。内面縁。
538	縄文古瓦	136	9	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図19	遺跡状況により裏面及び腹径をモチーフを有す。磨光し、縁文。
539	縄文古瓦	136	10	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、煤	ぬ	図20	Kの字状に磨光する部。口縁下に3条の連続した文をめぐらせ、その間に内径を有す。胴部は内径より多くの文をモチーフを有す。胴部下部は縁文が認められ、胴部に用いた文をめぐらす。
540	縄文古瓦	136	11	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片				9と同一個体。
541	縄文古瓦	136	12	67	縄織り	深鉢	—	裏面破片				9と同一個体で胴部にぬ、痕。胴部付近に縁をめぐらす。
542	縄文古瓦	136	13	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、煤	ぬ	図21	横口部径20cmで口縁が内径する部。胴部下部に内径した文を有す。平行縁により胴部モチーフを有す。
543	縄文古瓦	136	14	67	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	にじみぬ	図22	斜位の平行縁、内径刻文を有す。焼成に片、縁文。
544	縄文古瓦	136	15	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤、 磁石	にじみぬ	図23	3条の連続した文を有す。口縁下に3条の連続した文をめぐらせ、その間に内径を有す。胴部は内径より多くの文をモチーフを有す。胴部下部は縁文が認められ、胴部に用いた文をめぐらす。
545	縄文古瓦	136	16	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図24	横口部径20cmで口縁が内径する部。胴部による縁文を有す。胴部下部に内径した文を有す。
546	縄文古瓦	136	17	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、煤	ぬ	図25	3条の連続した文を有す。口縁下に3条の連続した文をめぐらせ、その間に内径を有す。胴部は内径より多くの文をモチーフを有す。胴部下部は縁文が認められ、胴部に用いた文をめぐらす。
547	縄文古瓦	136	18	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、煤	にじみぬ	図26	横口部径20cm。胴部による縁文を有す。胴部下部に内径した文を有す。
548	縄文古瓦	136	19	67	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図27	3条の連続した文を有す。胴部による縁文を有す。胴部下部に内径した文を有す。
549	縄文古瓦	137	20	68	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図28	横口部径20cm、胴部による縁文を有す。胴部下部に内径した文を有す。胴部は内径より多くの文をモチーフを有す。胴部下部は縁文が認められ、胴部に用いた文をめぐらす。
550	縄文古瓦	137	21	68	縄織り	深鉢	—	口縁部破片	褐色、煤	ぬ	図29	直径16cm、胴部による縁文を有す。胴部下部に内径した文を有す。胴部は内径より多くの文をモチーフを有す。胴部下部は縁文が認められ、胴部に用いた文をめぐらす。
551	縄文古瓦	137	22	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図30	胴部による縁文を有す。
552	縄文古瓦	137	23	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	にじみぬ	図31	チャッカー状の部。胴部による縁文を有す。口縁部に縁文、腹径のモチーフを有す。焼成に片、縁文。
553	縄文古瓦	137	24	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図32	胴部による縁文を有す。焼成に片、縁文。
554	縄文古瓦	137	25	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	にじみぬ	図33	腹径による部。胴部による縁文を有す。胴部にぬ、痕を有さない。
555	縄文古瓦	137	26	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図34	胴部による縁文を有す。焼成に片、縁文。
556	縄文古瓦	138	27	68	縄織り 磁石	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図35	胴部による縁文を有す。
557	縄文古瓦	138	28	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片				2と同一個体。
558	縄文古瓦	138	29	68	縄織り 磁石	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図36	胴部による縁文を有す。
559	縄文古瓦	138	30	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、煤	ぬ	図37	胴部による縁文を有す。胴部は内径より多くの文をモチーフを有す。
560	縄文古瓦	138	31	68	縄織り	深鉢	—	裏面破片	褐色、石炭、 煤	ぬ	図38	胴部による縁文を有す。焼成に片、縁文。

第63表 縄文時代土器観察表(17)

№	遺構名	図面No	遺物No	凡	型式	分類	出土位置	部位	胎土	色調	形状	文様の特徴
501	縄文土器Ⅱ	130	32	08	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘	にひい粘	ぶつ	深鉢による特殊構成。斜位の彫み付さない浮線も見られる。底面に片し捺印施文。
502	縄文土器Ⅱ	130	33	08	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘	ぶつ	深鉢による特殊構成。底面に片し捺印施文。
503	縄文土器Ⅱ	130	34	08	縄織り	深鉢	—	口縁～胴下部	褐色、白色粘、片粉	にひい粘	紋付	横定口径24.5cm、胎厚約1.0cm。胴上段に穴の付いた口縁が深く彫り、捺印集合文様をめぐらして口縁部文様を形成。文様部には古墳時代の集合文様を充満施文する。底文、文様部下に片し捺印施文。
504	縄文土器Ⅱ	130	35	08	縄織り	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘	紋付	深鉢口縁で外反する器形。集合文様による構成で裏面胴内に片し捺印施文を行い、裏面底面に片し捺印施文する。
505	縄文土器Ⅱ	130	36	08	縄織り	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘	紋付	深鉢口縁でキャリパー状の彫り。集合文様による構成で裏面胴内に片し捺印施文を行い、裏面底面に片し捺印施文する。
506	縄文土器Ⅱ	130	37	08	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘赤褐色	紋付	集合文様による特殊構成。笠縁部間に字引線による捺印文を施す。
507	縄文土器Ⅱ	130	38	08	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	紋付	集合文様による特殊構成。底文に片し捺印施文。
508	縄文土器Ⅱ	130	39	08	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	紋付	横定。底文の捺印集合文様を施す。
509	縄文土器Ⅱ	130	40	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	ぶつ	集合文様による特殊構成。底文に縦向き片し捺印施文。
510	縄文土器Ⅱ	130	41	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、片粉	赤褐色	紋付	文様部内の部位で、集合文様による捺印文を施す。区画内には縦向き字引線や加蓋文、横内文などを見られる。
511	縄文土器Ⅱ	130	42	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面				41と同一個体。
512	縄文土器Ⅱ	130	43	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	ぶつ	集合文様による特殊構成。底文に片し捺印施文。
513	縄文土器Ⅱ	130	44	09	縄織り	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘	紋付	深鉢口縁で口縁部に彫み付す。片し捺印施文する。
514	縄文土器Ⅱ	130	45	09	縄織り	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	ぶつ	底面の深鉢口縁に片し捺印施文施す。横筋孔あり。
515	縄文土器Ⅱ	130	46	09	縄織り	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、片粉	にひい粘	ぶつ	底面片し捺印施文施す。内面浮線。
516	縄文土器Ⅱ	130	47	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面				46と同一個体。
517	縄文土器Ⅱ	130	48	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	紋付	片し捺印施文する。
518	縄文土器Ⅱ	130	49	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面				51と同一個体。
519	縄文土器Ⅱ	130	50	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、片粉、片粉	粘赤褐色	ぶつ	横筋孔を捺印施文する。
520	縄文土器Ⅱ	130	51	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、石炭多、藍青	にひい粘	紋付	片し捺印施文施す。
521	縄文土器Ⅱ	130	52	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	にひい粘	紋付	片し捺印施文施す。
522	縄文土器Ⅱ	130	53	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、片粉	粘赤褐色	紋付	横定。斜位の集合文様を施し、彫印文を行う。
523	縄文土器Ⅱ	130	54	09	縄織り	深鉢	—	口縁～胴部	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘赤褐色	ぶつ	横定口径21.4cm、丸く内裏に、口縁が深く外反する器形。
524	縄文土器Ⅱ	130	55	09	縄織り	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、石炭	粘	ぶつ	裏面底面穴あり。口縁が深く外反する器形。
525	縄文土器Ⅱ	130	56	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、石炭	粘	ぶつ	横筋孔の字引線内反する器形。字引線で横筋文字モチーフを描き、笠縁部に斜位の彫み付す。
526	縄文土器Ⅱ	130	57	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面				56と同一個体。
527	縄文土器Ⅱ	130	58	09	縄織り	深鉢	—	裏面底面				56と同一個体。
528	縄文土器Ⅱ	140	59	09	黒丸	深鉢	—	口縁部底面				49と同一個体。
529	縄文土器Ⅱ	140	60	09	黒丸	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、石炭、片粉	粘赤褐色	ぶつ	裏面底面文による黒丸文、円形捺印を施す。底文に片し捺印施文。
530	縄文土器Ⅱ	140	61	09	黒丸	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、片粉、片粉	にひい粘	ぶつ	片し捺印施文施す。横筋孔あり。
531	縄文土器Ⅱ	140	62	09	黒丸	深鉢	—	口縁部底面	褐色、白色粘、片粉、片粉	にひい粘	ぶつ	片し、片しを捺印施文する。口縁部、内面浮線。
532	縄文土器Ⅱ	140	63	09	黒丸	深鉢	—	口縁部底面				62と同一個体。
533	縄文土器Ⅱ	140	64	09	黒丸	深鉢	—	裏面底面	褐色、白色粘、片粉、片粉	粘赤褐色	ぶつ	裏面底面文を3点めぐらせ、片し、片しを捺印施文する。
534	縄文土器Ⅱ	140	65	09	黒丸	深鉢	—	裏面底面				64と同一個体。
535	縄文土器Ⅱ	140	66	09	黒丸	深鉢	—	裏面底面				64と同一個体。



第64表 縄文時代土器観察表(18)

№	遺物名	図号	遺物種	凡	型式	時期	出土位置	部位	胎土	色調	図式	文様の特徴等
596	縄文土器類	140	67	69	黄洲	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
597	縄文土器類	140	68	69	黄洲	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑、硝子	明赤黒	まつ	斜帯子目文線を施す。
598	縄文土器類	140	69	70	黄洲	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
599	縄文土器類	140	70	70	黄洲	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
600	縄文土器類	140	71	70	黄洲	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
601	縄文土器類	140	72	70	黄洲	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
602	縄文土器類	140	73	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	黄	まつ	深凹口縁で外反する器形。甕形の内文。平行文線によるモチーフを施す。内面磨削、口縁部に斜めを施す。
603	縄文土器類	140	74	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、煤屑	に濃い黄緑	斜紋	深凹口縁で外反する器形。甕形の内文を施し、文線帯を区画。文線帯内に平行文線によるモチーフを施す。一部が凹文線にしている。口縁下部反折部の内文文。外反する口縁部に斜位の斜めを施す。
604	縄文土器類	140	75	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄緑	斜紋	コシキを施す。外反する口縁部に斜位の斜めを施す。
605	縄文土器類	140	76	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	斜紋	深凹口縁。甕形の内文を2条施す。褐色文線に斜位の斜めを施す。口縁部に斜めを施す。
606	縄文土器類	140	77	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭	黄		64上同一個体。
607	縄文土器類	140	78	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	まつ	外反する器形で口縁部に小突起を施す。しりを施文とし、横位平行文線を施す。
608	縄文土器類	140	79	70	深溝	前期	—	口縁部破片				64上同一個体。
609	縄文土器類	140	80	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	明赤黒	まつ	口縁部に折り返し状の段を2段作り出し、下縁に斜線をめぐる。胴部はコシキと斜位外反折文に多量にめぐる。
610	縄文土器類	141	81	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄緑	まつ	甕形の内文を2条めぐる器形に斜位を施す。胴部は外反折部の口縁部に斜めを施す。内面磨削。
611	縄文土器類	141	82	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭	に濃い黄緑	斜紋	縁から外反する器形。三角文を伴った甕形の内文を2条めぐる器形で文線帯を区画。文線帯内に平行文線によるモチーフを施す。平行文線と斜位外反折文を伴って、半環状の帯状による斜位を施す。外反する口縁部に斜位の斜めを施す。内面磨削。
612	縄文土器類	141	83	70	深溝	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	黄	斜紋	縁から外反する器形。口縁部縁から外反する器形。甕形の内文を2条めぐる器形で文線帯を区画。文線帯内に横位外反折文を施す。褐色内文を伴った斜位外反折文を施す。外反する口縁部には斜位の斜めを施す。文線帯下部にはコシキを施す。
613	縄文土器類	141	84	70	深溝	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
614	縄文土器類	141	85	70	深溝	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
615	縄文土器類	141	86	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	まつ	甕形の内文をめぐる器形で文線帯を区画。文線帯内に平行文線によるモチーフを施す。内面に半環状の帯状による斜位を施す。甕形の内文文線に斜位の斜めを施す。
616	縄文土器類	141	87	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	斜紋	斜位内を施す。
617	縄文土器類	141	88	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	黄	斜紋	甕形の内文文線に平行文線によるモチーフを施す。
618	縄文土器類	141	89	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	まつ	平行文線によるモチーフを施す。
619	縄文土器類	141	90	70	深溝	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
620	縄文土器類	141	91	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭	黄	斜紋	甕形の内文。平行文線によるモチーフを施す。
621	縄文土器類	141	92	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	斜紋	半環状の帯による平行文線。斜位を施す。内面磨削。
622	縄文土器類	141	93	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭	黄	斜紋	斜位内。負帯内面を施す。
623	縄文土器類	141	94	70	深溝	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	黄	まつ	平行文線。縁部縁文を施す。
624	縄文土器類	141	95	70	深溝	前期	—	胴部破片				64上同一個体。
625	縄文土器類	141	96	70	中期前半	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	斜紋	キリバー一枚の器形。縁部による横位内文を施し、しりを横位施文する。
626	縄文土器類	141	97	70	中期前半	前期	—	胴部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	まつ	横位。胴内面に文線帯を施す。
627	縄文土器類	141	98	70	中期後半	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	まつ	口縁部に横位内文を施す。縁部による斜位縁部文を施し、しりを施文施文する。
628	縄文土器類	141	99	70	中期後半	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	に濃い黄緑	まつ	口縁下に横位文線を施す。
629	縄文土器類	141	100	70	中期後半	前期	—	口縁部破片	褐色色粒、石炭、煤屑	黄	斜紋	帯状にしり。区切り文を施す。内面に3条の文線帯をめぐらす。口縁部に斜位の斜めを施す。内面磨削。

\*出土位置の図上高さについては、遺物の横断面と遺物出土位置から遺物の深部位置をもとにして計測。単位はmm。また、深部は、図上位置が50%とした。

第65表 縄文時代石器観察表(1)

No	遺物名	分類	器種	図版No	遺物No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1	3号住居	割肉系石鏃	石鏃	17	1	39	新羅石	1.5	1.4	0.5
2	3号住居	割肉系石鏃	石鏃	17	2	39	チャート	1.9	2.0	0.9
3	3号住居	割肉系石鏃	石鏃	17	3	39	チャート	3.7	2.0	2.0
4	3号住居	割肉系石鏃	石鏃	17	4	39	黄色頁岩	7.5	2.9	30.0
5	3号住居	割肉系石鏃	黒燐	17	5	39	黄色頁岩	5.1	5.5	50.7
6	3号住居	割肉系石鏃	黒燐	17	6	39	黄色頁岩	4.0	5.8	31.6
7	3号住居	割肉系石鏃	黒燐	17	7	39	黄色頁岩	4.2	7.4	46.7
8	3号住居	割肉系石鏃	黒燐	17	8	39	黄色頁岩	6.0	5.8	48.3
9	3号住居	割肉系石鏃	石鏃	17	9	39	新羅石	2.7	5.9	40.1
10	3号住居	割肉系石鏃	打製石斧	17	10	39	灰色砂岩	8.0	5.4	100.4
11	3号住居	割肉系石鏃	打製石斧	17	11	39	緑色輝石砂岩	8.1	5.2	76.2
12	3号住居	割肉系石鏃	磨製石斧	17	12	39	黄玉武岩	6.4	6.5	115.0
13	3号住居	礫石鏃	礫石	17	13	39	粗粒輝石砂岩	10.8	6.3	337.0
14	3号住居	礫石鏃	礫石	17	14	39	粗粒輝石砂岩	10.4	7.3	526.0
15	3号住居	礫石鏃	石鏃	17	15	39	粗粒輝石砂岩	26.8	18.9	5,040.0
16	3号住居	礫石鏃	礫石	17	16	39	中粒砂岩	10.1	5.8	102.3
17	3号住居	石製品	丸石	17	17	39	滑石	1.4	1.4	1.6
18	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	1	41	黄色砂岩	1.5	1.2	0.4
19	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	2	41	黄色頁岩	2.8	2.4	2.1
20	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	3	41	黄色頁岩	5.5	2.8	7.9
21	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	4	41	黄色砂岩	3.7	3.7	6.0
22	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	5	41	チャート	2.5	3.9	0.8
23	7号住居	割肉系石鏃	黒燐	27	6	41	黄色頁岩	5.2	7.0	43.0
24	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	7	41	黄色砂岩	6.3	6.0	111.4
25	7号住居	割肉系石鏃	石鏃	27	8	41	新羅石	2.8	2.3	8.3
26	7号住居	割肉系石鏃	打製石斧	27	9	41	緑色片岩	14.4	5.4	130.6
27	7号住居	割肉系石鏃	打製石斧	27	10	41	黄色片岩	10.7	4.9	95.1
28	7号住居	割肉系石鏃	打製石斧	27	11	41	黄色片岩	7.7	3.8	40.6
29	7号住居	割肉系石鏃	打製石斧	27	12	41	黄色片岩	7.7	6.6	62.7
30	7号住居	割肉系石鏃	打製石斧	27	13	41	黄色片岩	8.3	4.3	58.7
31	7号住居	礫石鏃	礫石	27	14	41	粗粒輝石砂岩	7.7	7.0	282.0
32	7号住居	礫石鏃	礫石	27	15	41	粗粒輝石砂岩	9.7	5.1	196.0
33	8号住居	割肉系石鏃	石鏃	31	1	42	黄色頁岩	2.8	1.5	1.9
34	8号住居	割肉系石鏃	打製石斧	31	2	42	灰色砂岩	8.7	4.9	65.0
35	8号住居	割肉系石鏃	打製石斧	31	3	42	黄色頁岩	10.6	3.7	32.6
36	8号住居	礫石鏃	礫石	31	4	42	粗粒輝石砂岩	13.7	4.8	112.3
37	8号住居	礫石鏃	礫石	31	5	42	粗粒輝石砂岩	15.7	8.2	717.0
38	8号住居	礫石鏃	礫石	31	6	42	粗粒輝石砂岩	9.8	5.3	280.0
39	8号住居	礫石鏃	礫石	31	7	42	粗粒輝石砂岩	6.0	4.6	141.0
40	8号住居	礫石鏃	多孔石	31	8	42	粗粒輝石砂岩	29.4	17.4	6,980.0
41	8号住居	礫石鏃	石鏃	31	9	42	粗粒輝石砂岩	21.4	10.8	1,560.0
42	9号住居	割肉系石鏃	打製石斧	31	10	42	霞石片岩	9.5	3.5	57.3
43	9号住居	割肉系石鏃	石鏃	31	11	42	黄色砂岩	6.6	8.6	222.0
44	10号住居	割肉系石鏃	石鏃	42	1	46	新羅石	1.3	1.2	0.3
45	10号住居	割肉系石鏃	石鏃	42	2	46	黄色頁岩	3.6	2.5	3.7
46	10号住居	割肉系石鏃	黒燐	42	3	46	黄色頁岩	8.3	5.2	50.7
47	10号住居	割肉系石鏃	打製石斧	42	4	46	黄色頁岩	10.3	5.6	96.6
48	10号住居	割肉系石鏃	打製石斧	42	5	46	珪岩	7.5	5.1	82.2
49	10号住居	割肉系石鏃	打製石斧	42	6	46	黄色頁岩	5.8	3.9	22.6
50	10号住居	割肉系石鏃	打製石斧	42	7	46	黄色頁岩	10.0	5.1	79.5

第66表 縄文時代石器観察表(2)

No	遺物名	分類	器種	図版No	遺物No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
51	10号住居	割河原石器	打製石斧	42	8	40	黄色頁岩	6.2	5.8	48.3
52	10号住居	割河原石器	打製石斧	42	9	40	黄色頁岩	6.4	4.5	37.0
53	10号住居	礫石器	礫石	42	10	40	砂岩質	5.5	4.8	76.3
54	10号住居	礫石器	礫石	42	11	40	粗粒輝石砂山岩	11.2	8.4	357.0
55	10号住居	礫石器	凹石	42	12	40	粗粒輝石砂山岩	9.8	6.8	330.0
56	10号住居	礫石器	多孔石	42	13	40	粗粒輝石砂山岩	15.0	8.0	618.0
57	11号住居	割河原石器	石鏢	43	2	40	黄色頁岩	6.9	3.1	15.7
58	13号住居	割河原石器	石鏢	46	1	40	チャート	2.7	1.8	3.4
59	13号住居	割河原石器	箭鏢	46	2	40	黄色頁岩	4.6	6.3	41.4
60	13号住居	割河原石器	箭鏢	46	3	40	黄色頁岩	6.2	5.0	22.4
61	13号住居	割河原石器	打製石斧	46	4	40	黄色頁岩	12.2	6.6	134.6
62	13号住居	割河原石器	打製石斧	46	5	40	黄色頁岩	10.8	5.3	81.3
63	13号住居	割河原石器	打製石斧	46	6	40	黄色頁岩	7.9	5.9	73.0
64	13号住居	割河原石器	打製石斧	46	7	40	粗粒輝石砂山岩	9.3	5.0	84.3
65	13号住居	礫石器	凹石	46	8	40	石英質礫岩	10.8	9.4	796.0
66	13号住居	礫石器	凹石	46	9	40	粗粒輝石砂山岩	13.5	9.7	891.0
67	13号住居	礫石器	凹石	46	10	40	粗粒輝石砂山岩	16.9	9.4	565.0
88	14号住居	石製品	缺欠残片少	53	26	47	凝灰石質礫石	4.1	4.5	14.7
68	14号住居	割河原石器	石鏢	54	1	40	黄色砂山岩	2.6	1.7	1.9
69	14号住居	割河原石器	石鏢	54	2	40	黄色砂山岩	3.2	2.4	5.4
70	14号住居	割河原石器	石鏢	54	3	40	黄色頁岩	4.2	1.9	3.0
71	14号住居	割河原石器	石鏢	54	4	40	珩質頁岩	5.7	3.3	20.2
72	14号住居	割河原石器	箭鏢	54	5	40	黄色頁岩	5.2	5.8	66.6
73	14号住居	割河原石器	箭鏢	54	6	40	黄色頁岩	5.0	8.7	43.7
74	14号住居	割河原石器	箭鏢	54	7	40	黄色頁岩	4.3	7.5	67.6
75	14号住居	割河原石器	石核	54	8	40	黄色砂山岩	4.1	8.9	130.2
76	14号住居	割河原石器	石核	54	9	40	黄色砂山岩	5.5	4.7	127.3
77	14号住居	割河原石器	打製石斧	54	10	40	黄色頁岩	3.4	4.3	32.0
78	14号住居	割河原石器	打製石斧	54	11	40	凝灰砂山岩	8.8	5.6	124.7
79	14号住居	割河原石器	打製石斧	54	12	40	黄色頁岩	6.9	5.2	82.3
80	14号住居	割河原石器	打製石斧	54	13	40	黄色頁岩	7.3	4.3	47.1
81	14号住居	割河原石器	打製石斧	54	14	40	黄色頁岩	6.2	5.1	42.4
82	14号住居	礫石器	礫石	54	15	40	牛沢砂岩	6.4	4.6	38.0
83	14号住居	礫石器	礫石	54	16	40	黄色頁岩	11.2	4.0	193.0
84	14号住居	礫石器	凹石	54	17	40	粗粒輝石砂山岩	10.1	7.4	451.0
85	14号住居	礫石器	凹石	54	18	40	文象河泥	10.4	6.0	316.0
86	14号住居	礫石器	礫石	54	19	40	粗粒輝石砂山岩	14.3	7.5	795.0
87	14号住居	礫石器	多孔石	54	20	40	粗粒輝石砂山岩	13.3	17.6	2,191.0
89	15号住居	割河原石器	石鏢	58	1	40	黄色頁岩	2.3	1.5	0.7
90	15号住居	割河原石器	石鏢	58	2	40	チャート	1.8	1.7	0.7
91	15号住居	割河原石器	石鏢	58	3	40	珩質頁岩	3.7	2.1	4.5
92	15号住居	割河原石器	石鏢	58	4	40	黄色頁岩	4.0	5.3	19.6
93	15号住居	割河原石器	石鏢	58	5	40	チャート	3.9	2.0	7.0
94	15号住居	割河原石器	打製石斧	58	6	40	珩質頁岩	5.2	5.2	38.9
95	15号住居	割河原石器	箭鏢	58	7	40	黄色頁岩	5.0	3.6	13.8
96	15号住居	割河原石器	硬質礫石製内	58	8	40	黄色頁岩	7.8	3.8	22.4
97	15号住居	割河原石器	磨製石斧	58	9	40	雲玄岩質	6.2	3.3	28.0
98	15号住居	割河原石器	打製石斧	58	10	40	黄色頁岩	7.6	4.2	63.9
99	15号住居	割河原石器	打製石斧	58	11	40	黄色頁岩	7.7	4.7	47.9
100	15号住居	割河原石器	打製石斧	58	12	40	黄色頁岩	6.0	5.0	56.0

第67表 縄文時代石器観察表(3)

No	遺物名	分類	器種	図番 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
101	15号住居	礫石類	礫石	58	13	48	F(中)貫結円筒	7.1	5.5	174.0
102	15号住居	礫石類	礫石	58	14	49	短形礫石形山筒	11.4	8.3	731.0
103	15号住居	礫石類	礫石	58	15	49	短形礫石形山筒	7.8	6.7	338.0
104	15号住居	礫石類	礫石	58	16	49	短形礫石形山筒	7.0	5.9	209.0
105	15号住居	礫石類	礫石	58	17	49	短形礫石形山筒	11.1	10.0	745.0
106	15号住居	礫石類	礫石	58	18	49	短形礫石形山筒	13.1	6.9	489.0
107	15号住居	礫石類	礫石	58	19	49	短形礫石形山筒	10.2	6.9	495.0
108	15号住居	礫石類	礫石	58	20	49	短形礫石形山筒	8.7	7.0	377.0
109	15号住居	礫石類	礫石	58	21	49	黄色煎餅	7.8	6.2	262.0
110	15号住居	礫石類	礫石	58	22	49	灰色山筒	5.3	7.8	111.4
111	15号住居	礫石類	礫石	58	23	49	短形礫石形山筒	22.8	11.4	216.9
112	15号住居	石製品	袈裟笥跡	58	24	49	黄石	5.5	5.8	37.7
113	18号住居	割内系石類	石鏃	64	1	50	チャート	2.8	2.1	2.8
114	18号住居	割内系石類	磨石	64	2	50	黄色煎餅	4.1	1.3	2.9
115	18号住居	割内系石類	磨石	64	3	50	チャート	3.0	2.6	10.3
116	18号住居	割内系石類	磨石	64	4	50	黄色煎餅	5.5	6.5	70.2
117	18号住居	割内系石類	磨石	64	5	50	黄赤煎餅	11.1	5.0	125.0
118	18号住居	礫石類	礫石	64	6	50	短形礫石形山筒	9.3	6.9	340.0
119	18号住居	礫石類	礫石	64	7	50	黄色煎餅	7.0	6.9	226.0
120	19号住居	割内系石類	石鏃	69	1	51	チャート	1.6	1.3	0.4
121	19号住居	割内系石類	石鏃	69	2	51	黄色煎餅	4.3	6.5	24.1
122	19号住居	割内系石類	磨石	69	3	51	黄色煎餅	9.4	6.4	101.8
123	19号住居	割内系石類	磨石	69	4	51	黄色煎餅	8.5	5.1	135.3
124	19号住居	割内系石類	打製石片	69	5	51	ホルンフ エルヌ	9.5	5.9	79.3
125	19号住居	割内系石類	打製石片	69	6	51	黄色煎餅	4.4	2.8	13.1
126	19号住居	割内系石類	打製石片	69	7	51	黄色煎餅	7.0	3.9	45.4
127	19号住居	割内系石類	打製石片	69	8	51	黄色煎餅	7.3	5.0	62.2
128	19号住居	割内系石類	磨石	69	9	51	黄赤煎餅	4.9	2.1	10.7
129	19号住居	礫石類	礫石	69	10	51	短形礫石形山筒	5.8	8.1	239.0
130	19号住居	礫石類	礫石	69	11	51	黄色山筒	6.2	4.9	100.0
131	19号住居	礫石類	礫石	69	12	51	黄色山筒	6.9	5.0	96.5
132	19号住居	礫石類	礫石	69	13	51	黄赤煎餅	15.1	6.8	688.0
133	19号住居	礫石類	礫石	69	14	51	石葉閃緑岩	20.4	10.0	2050.0
134	20号住居	割内系石類	石鏃	72	1	52	黄色煎餅	2.5	1.9	1.9
135	20号住居	割内系石類	石鏃	72	2	52	黄色煎餅	4.1	1.3	3.7
136	20号住居	割内系石類	石鏃	72	3	52	黄色煎餅	4.3	2.2	3.8
137	20号住居	割内系石類	石鏃	72	4	52	黄色山筒	2.6	2.3	3.4
138	20号住居	割内系石類	加工痕ある割内	72	5	52	黄色煎餅	4.4	2.5	8.2
139	20号住居	割内系石類	打製石片	72	6	52	黄色煎餅	10.6	5.7	91.9
140	20号住居	割内系石類	打製石片	72	7	52	短形礫石形山筒	9.6	5.2	101.3
141	20号住居	割内系石類	打製石片	72	8	52	黄色煎餅	6.8	5.0	56.8
142	20号住居	礫石類	礫石	72	9	52	短形礫石形山筒	9.0	6.7	206.2
143	20号住居	礫石類	礫石	72	10	52	F(中)貫結円筒	8.8	7.1	294.0
144	20号住居	礫石類	礫石	72	11	52	黄色山筒	10.4	6.3	442.0
145	20号住居	礫石類	石鏃	72	12	52	短形礫石形山筒	12.0	7.7	386.0
146	20号住居	礫石類	石鏃	72	13	52	短形礫石形山筒	22.5	10.5	1000.0
147	20号住居	礫石類	石鏃	72	14	52	緑色片岩	16.6	9.0	367.0
148	20号住居	礫石類	多孔石	72	15	52	短形礫石形山筒	21.4	21.6	7736.0
149	21号住居	割内系石類	石鏃	80	1	54	黄褐色	1.8	1.7	0.5
150	21号住居	割内系石類	石鏃	80	2	54	チャート	2.5	1.8	2.0

第68表 縄文時代石器観察表(4)

No	遺跡名	分類	器種	図番 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
151	23号住居	割河原石類	石鏢	80	3	54	チャート	2.5	1.9	2.4
152	23号住居	割河原石類	石鏢	80	4	54	チャート	3.4	2.6	6.4
153	23号住居	割河原石類	射鏢	80	5	54	黄色頁岩	3.5	2.2	5.5
154	23号住居	割河原石類	打製石斧	80	6	54	黄色頁岩	9.4	4.5	88.7
155	23号住居	割河原石類	打製石斧	80	7	54	粗粒輝石砂山層	9.1	4.6	76.2
156	23号住居	割河原石類	打製石斧	80	8	55	黄色頁岩	5.2	3.8	34.3
157	23号住居	割河原石類	打製石斧	81	9	55	黄色頁岩	11.0	5.6	85.0
158	23号住居	割河原石類	磨製石斧	81	10	55	変状頁岩	15.3	5.5	353.0
159	23号住居	割河原石類	スタンプ形石鏢	81	11	55	粗粒輝石砂山層	12.2	5.7	331.0
160	23号住居	礫石類	礫石	81	12	55	黄色砂山層	5.6	4.9	153.5
161	23号住居	礫石類	礫石	81	13	55	粗粒輝石砂山層	11.5	10.5	1940.0
162	23号住居	礫石類	礫石	81	14	55	粗粒輝石砂山層	10.7	8.4	570.0
163	23号住居	礫石類	礫石	81	15	55	粗粒輝石砂山層	10.0	6.8	400.0
164	23号住居	礫石類	礫石	81	16	55	ひん岩	9.0	6.6	389.0
165	23号住居	礫石類	石鏢	81	17	55	粗粒輝石砂山層	21.8	18.8	3200.0
166	23号住居	礫石類	礫石	81	18	55	粗粒輝石砂山層	20.4	13.5	3674.0
167	23号住居	礫石類	多孔石	81	19	55	粗粒輝石砂山層	18.6	22.4	4440.0
168	23号住居	礫石類	多孔石	81	20	55	粗粒輝石砂山層	51.8	37.0	15635.0
169	25号住居	割河原石類	石鏢	88	1	57	チャート	2.3	3.2	5.8
170	25号住居	割河原石類	石鏢	88	2	57	チャート	2.8	1.6	1.0
171	25号住居	割河原石類	石鏢	88	3	57	黄色砂山層	6.6	8.0	206.9
172	25号住居	割河原石類	石鏢	88	4	57	黄色砂山層	6.7	7.1	308.0
173	25号住居	割河原石類	打製石斧	88	5	57	粗粒輝石砂山層	5.2	3.8	26.9
174	25号住居	割河原石類	打製石斧	88	6	57	黄色頁岩	8.1	6.9	127.6
175	25号住居	割河原石類	打製石斧	88	7	57	灰色砂山層	6.6	7.9	122.4
176	25号住居	割河原石類	打製石斧	88	8	57	灰色砂山層	7.1	4.8	83.8
177	25号住居	割河原石類	打製石斧	88	9	57	黄色頁岩	12.3	5.7	134.6
178	25号住居	割河原石類	磨製石斧	88	10	57	変状頁岩	11.3	4.5	209.5
179	25号住居	礫石類	礫石	88	11	57	ホルンフェルス	12.6	4.6	262.0
180	25号住居	礫石類	礫石	89	12	57	変状頁岩	7.7	5.5	270.0
181	25号住居	礫石類	礫石	89	13	57	粗粒輝石砂山層	9.4	6.4	295.0
182	25号住居	礫石類	礫石	89	14	57	石質閃緑岩	9.8	8.4	433.0
183	25号住居	礫石類	礫石	89	15	57	牛沢砂岩	7.8	6.4	104.4
184	25号住居	礫石類	石鏢	89	16	57	粗粒輝石砂山層	18.2	13.8	3700.0
185	25号住居	礫石類	礫石	89	17	57	粗粒輝石砂山層	29.8	37.2	5385.0
186	25号住居	礫石類	多孔石	89	18	57	粗粒輝石砂山層	20.6	13.1	2875.0
187	25号住居	石製品	磨製器身	89	19	57	粗粒輝石砂山層	4.3	2.4	10.7
188	31号住居	割河原石類	石鏢	92	13	58	磨製石	2.5	1.4	0.6
189	31号住居	割河原石類	打製石斧	92	14	58	粗粒輝石砂山層	8.6	4.0	59.8
190	31号住居	割河原石類	打製石斧	92	15	58	灰色砂山層	9.8	3.8	94.7
191	31号住居	割河原石類	打製石斧	92	16	58	黄色頁岩	10.0	6.3	77.4
192	31号住居	割河原石類	射鏢	92	17	58	粗粒頁岩	5.1	9.2	64.2
193	31号住居	割河原石類	打製石斧	92	18	58	黄色頁岩	11.3	9.3	209.0
194	31号住居	割河原石類	磨製石斧	92	19	58	変状頁岩	9.4	5.8	240.0
195	31号住居	礫石類	礫石	92	20	58	粗粒輝石砂山層	9.4	7.7	548.0
196	03号土坑	割河原石類	磨製石斧	115	1	58	変状頁岩	15.1	7.1	738.0
197	05号土坑	割河原石類	石鏢	115	4	58	チャート	4.3	2.3	6.1
198	07号土坑	割河原石類	石鏢	115	5	58	黄色砂山層	7.3	6.6	312.0
199	11号土坑	礫石類	礫石	115	6	58	粗粒輝石砂山層	34.1	26.3	4595.0
200	11号土坑	礫石類	礫石	115	7	58	粗粒輝石砂山層	8.7	5.8	248.0

第69表 縄文時代石器観察表(5)

№	遺物名	分類	器種	図版No	遺物No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
201	16号土坑	割肉系石鏃	石鏃	115	11	58	チャート	2.8	1.7	1.3
202	16号土坑	割肉系石鏃	箭鏃	115	12	58	黄色頁岩	6.8	5.9	77.0
203	16号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	115	13	58	黄色頁岩	3.4	2.9	12.8
204	16号土坑	石製品	珠状貫通石	115	14	58	燧石	2.9	2.8	6.7
205	17号土坑	割肉系石鏃	石鏃	116	4	58	黄色砂山層	2.8	1.9	3.8
206	17号土坑	割肉系石鏃	箭鏃	116	5	58	黄色頁岩	5.3	6.4	21.7
207	17号土坑	礫石鏃	礫石	116	6	58	黄色頁岩	8.9	7.2	337.0
208	17号土坑	礫石鏃	多孔石	116	7	58	磐城燧石砂山層	14.1	11.7	1,331.0
209	18号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	116	9	59	黄色頁岩	5.7	5.6	48.1
210	21号土坑	割肉系石鏃	箭鏃	117	3	59	黄色砂山層	6.5	4.0	32.3
211	21号土坑	礫石鏃	燧石	117	4	59	磐城燧石砂山層	9.9	6.5	290.0
212	22号土坑	石製品	鏃鏃	117	5	59	燧石	3.1	1.5	4.2
213	22号土坑	礫石鏃	多孔石	117	6	59	磐城燧石砂山層	10.2	11.1	537.0
214	41号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	117	12	59	黄色頁岩	11.8	5.3	137.8
215	44号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	4	60	黄色砂山層	2.9	2.4	5.4
216	44号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	5	60	黄色砂山層	3.1	2.3	4.5
217	44号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	6	60	チャート	2.1	1.7	0.8
218	44号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	7	60	黄色砂山層	1.9	1.2	0.5
219	44号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	8	60	黄色頁岩	4.0	1.6	2.8
220	44号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	9	60	磐城燧石砂山層	3.1	2.5	1.5
221	44号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	118	10	60	磐城燧石砂山層	5.3	4.5	37.5
222	44号土坑	礫石鏃	礫石	118	11	60	黄色頁岩	5.0	7.3	110.5
223	44号土坑	礫石鏃	礫石	118	12	60	柱状頁岩	7.4	5.5	127.8
224	44号土坑	礫石鏃	燧石	118	13	60	磐城燧石砂山層	10.1	8.5	614.0
227	46号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	15	60	黄色頁岩	2.1	1.6	0.9
228	46号土坑	割肉系石鏃	石鏃	118	16	60	黄色砂山層	4.1	2.1	2.3
229	46号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	118	17	60	磐城燧石砂山層	10.9	8.5	373.0
225	46号土坑	礫石鏃	燧石	119	1	60	磐城燧石砂山層	9.9	6.5	338.0
226	46号土坑	礫石鏃	多孔石	119	2	60	磐城燧石砂山層	17.3	20.4	1,999.0
230	49号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	119	7	60	黄色頁岩	3.5	4.3	29.7
231	56号土坑	割肉系石鏃	石鏃	119	11	60	チャート	2.2	1.6	1.2
232	57号土坑	割肉系石鏃	石鏃	120	4	61	チャート	1.8	1.7	0.6
233	57号土坑	割肉系石鏃	石鏃	120	5	61	黄色頁岩	1.3	1.3	1.1
236	78号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	120	14	61	黄色頁岩	6.9	4.4	67.3
237	78号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	120	15	61	黄色頁岩	4.9	4.7	35.3
234	78号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	121	1	61	貫通石片岩	20.9	5.5	299.0
235	78号土坑	礫石鏃	礫石	121	2	61	白土岩	16.1	6.1	564.0
238	88号土坑	礫石鏃	礫石	121	10	61	黄色頁岩	3.6	4.6	23.0
239	93号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	121	12	61	黄色頁岩	7.7	5.6	75.5
240	94号土坑	割肉系石鏃	石鏃	121	13	61	黄色頁岩	4.2	2.8	5.3
241	94号土坑	礫石鏃	礫石	121	14	61	磐城燧石砂山層	13.6	8.4	1,001.0
242	112号土坑	礫石鏃	燧石	122	8	62	磐城燧石砂山層	9.6	8.4	315.0
243	133号土坑	礫石鏃	礫石	123	2	62	流紋岩	12.8	9.4	646.0
244	141号土坑	礫石鏃	燧石	123	15	63	磐城燧石砂山層	14.9	8.8	742.0
245	143号土坑	割肉系石鏃	石鏃	124	3	63	チャート	2.3	2.3	2.2
246	146号土坑	割肉系石鏃	石鏃	124	10	63	黄色砂山層	3.1	1.7	3.6
247	146号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	124	11	63	黄色頁岩	6.6	4.6	38.9
248	156号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	124	14	63	黄色頁岩	5.5	3.7	32.6
249	169号土坑	礫石鏃	礫石	125	5	64	黄色頁岩	9.7	8.8	218.3
250	179号土坑	割肉系石鏃	打製石鏃	125	11	64	黄色頁岩	3.3	4.0	13.8

第70表 縄文時代石器観察表(6)

No	遺物名	分類	種類	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
251	174号土坑	礫石器	礫石	125	13	64	相模碓石砂山層	12.0	10.2	840.0
252	174号土坑	礫石器	礫石	125	14	64	相模碓石砂山層	12.0	8.1	762.0
253	187号土坑	割石系石器	石鏃	125	20	64	新羅石	1.9	1.2	0.5
254	187号土坑	礫石器	凸石	125	21	64	相模碓石砂山層	10.4	7.2	470.0
255	188号土坑	割石系石器	矢鏃	126	15	64	栗色頁岩	7.7	4.2	40.2
256	188号土坑	礫石器	凸石	126	16	64	相模碓石砂山層	9.3	6.7	340.0
257	197号土坑	礫石器	石鏃	127	12	65	相模碓石砂山層	18.7	8.7	869.0
258	197号土坑	礫石器	凸石	127	13	65	ひん丸	9.1	7.2	398.0
259	186号土坑	礫石器	凸石	127	15	65	相模碓石砂山層	8.5	7.3	393.0
260	199号土坑	割石系石器	打製石斧	128	2	65	栗色頁岩	7.6	5.0	58.0
261	199号土坑	礫石器	礫石	128	3	65	栗原砂山層	12.0	5.5	315.0
262	201号土坑	割石系石器	磨製石斧	128	7	65	霞石片岩	7.1	4.6	54.0
263	206号土坑	割石系石器	打製石斧	128	11	66	柱斑頁岩	6.3	4.4	74.3
264	207号土坑	礫石器	凸石	128	15	66	相模碓石砂山層	17.1	13.5	1,081.0
265	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	1	66	チャート	2.6	1.4	1.1
266	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	2	66	チャート	2.8	1.5	1.0
267	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	3	66	チャート	2.5	1.6	2.9
268	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	4	66	チャート	3.2	3.0	8.6
269	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	5	66	チャート	3.6	2.5	7.6
270	遺物集中部	割石系石器	磨製石鏃	135	6	66	チャート	2.4	3.5	8.3
271	遺物集中部	割石系石器	磨製石鏃	135	7	66	チャート	2.9	2.3	6.2
272	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	8	66	新羅石	1.8	2.1	3.6
273	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	9	66	チャート	2.5	3.3	9.3
274	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	10	66	栗色砂山層	8.0	5.9	325.0
275	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	11	66	栗色頁岩	7.2	8.1	200.9
276	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	12	66	新羅石	1.4	2.1	4.9
277	遺物集中部	割石系石器	石鏃	135	13	66	チャート	3.3	3.1	10.9
278	遺物集中部	割石系石器	新羅	135	14	67	栗色頁岩	8.3	5.6	87.4
279	遺物集中部	割石系石器	新羅	135	15	67	栗色頁岩	3.6	8.0	30.3
280	遺物集中部	割石系石器	新羅	135	16	67	チャート	3.1	2.6	10.5
281	遺物集中部	割石系石器	打製石斧	135	17	67	栗色頁岩	4.8	3.8	36.6
282	遺物集中部	割石系石器	打製石斧	135	18	67	相模碓石砂山層	4.7	4.5	50.7
283	遺物集中部	割石系石器	打製石斧	135	19	67	栗色頁岩	8.2	6.9	107.0
284	遺物集中部	割石系石器	新羅	135	20	67	栗色頁岩	9.8	6.6	285.0
285	遺物集中部	割石系石器	打製石斧	135	21	67	栗色頁岩	10.7	5.5	101.1
286	遺物集中部	礫石器	礫石	135	22	67	相模碓石砂山層	7.8	7.8	350.0
287	遺物集中部	礫石器	礫石	135	23	67	灰色砂山層	7.5	3.3	81.7
288	遺物集中部	割石系石器	打製石斧	135	24	67	相模碓石砂山層	16.6	11.3	1,020.0
289	遺物集中部	割石系石器	打製石斧	135	25	67	栗色頁岩	10.5	5.1	150.3
290	遺物集中部	石製品	石製品	135	26	67	緑色頁岩	13.4	3.0	66.5
291	遺物集中部	礫石器	礫石	135	27	67	牛枝頁岩	8.1	6.1	166.8
292	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	1	71	チャート	2.4	1.4	1.0
293	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	2	71	栗色頁岩	3.0	1.9	3.0
294	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	3	71	栗色砂山層	2.3	1.3	1.3
295	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	4	71	栗色頁岩	2.2	1.5	1.3
296	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	5	71	栗色砂山層	2.5	1.9	1.3
297	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	6	71	チャート	2.7	1.4	1.0
298	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	7	71	新羅石	2.3	2.0	0.7
299	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	8	71	チャート	1.5	1.4	0.1
300	縄文台倉庫	割石系石器	石鏃	142	9	71	栗色頁岩	2.0	1.5	0.5

第71表 縄文時代石器観察表(7)

No	遺物名	分類	器種	図面No	遺物No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
301	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	10	71	黄色頁岩	3.2	1.9	1.7
302	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	11	71	特異頁岩	6.5	2.7	11.6
303	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	12	71	チャート	7.2	3.1	30.0
304	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	13	71	黄色砂山岩	8.1	2.3	14.5
305	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	14	71	チャート	3.7	4.3	7.7
306	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	15	71	黄色頁岩	4.2	3.7	9.7
307	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	16	71	チャート	1.3	4.6	3.2
308	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	17	71	黄色頁岩	8.3	3.7	28.9
309	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	18	71	チャート	4.2	3.2	9.1
310	縄文古石器	割肉用石器	楕円石鏃	142	19	71	チャート	3.0	2.6	7.1
311	縄文古石器	割肉用石器	加工面ある割肉	142	20	71	黄色頁岩	4.5	4.9	48.9
312	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	21	71	黄色砂山岩	5.0	5.7	132.5
313	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	22	71	チャート	3.3	4.2	20.4
314	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	142	23	71	輝燧石	3.3	2.1	14.0
315	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	24	71	黄色砂山岩	6.5	5.4	139.0
316	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	25	71	チャート	3.7	4.1	23.2
317	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	26	71	黄色砂山岩	7.4	6.8	172.5
318	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	27	71	黄色頁岩	4.8	10.6	281.0
319	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	28	71	黄色頁岩	6.1	9.3	708.0
320	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	29	71	黄色頁岩	7.6	7.3	140.2
321	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	30	71	黄色頁岩	8.2	5.2	119.8
322	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	31	71	黄色砂山岩	4.2	6.2	133.4
323	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	32	71	黄色砂山岩	5.3	8.7	111.5
324	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	33	71	黄色砂山岩	7.0	6.4	171.3
325	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	34	71	輝燧石	2.9	3.0	16.3
326	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	35	71	黄色砂山岩	8.0	11.3	612.0
327	縄文古石器	割肉用石器	石鏃	143	36	71	黄色砂山岩	6.3	5.9	115.9
328	縄文古石器	割肉用石器	加工面ある割肉	143	37	71	緑色片岩	9.5	4.4	65.7
329	縄文古石器	割肉用石器	加工面ある割肉	143	38	71	黄色頁岩	11.0	13.0	653.0
330	縄文古石器	割肉用石器	加工面ある割肉	144	39	71	灰色砂山岩	9.3	8.4	190.0
331	縄文古石器	割肉用石器	箭鏃	144	40	71	黄色頁岩	8.2	5.0	43.9
332	縄文古石器	割肉用石器	箭鏃	144	41	71	黄色頁岩	7.7	4.9	41.7
333	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	42	71	緑色片岩	7.3	2.9	43.4
334	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	43	71	黄色頁岩	6.5	4.4	39.7
335	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	44	71	黄色頁岩	6.3	4.7	47.3
336	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	45	71	黄色頁岩	6.8	4.8	37.4
337	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	46	71	雷打石原状片	10.7	4.7	93.3
338	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	47	72	緑色片岩	7.9	4.5	69.6
339	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	48	72	黄色頁岩	7.3	5.2	46.6
340	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	49	72	黄色頁岩	5.1	3.7	23.5
341	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	50	72	黄色頁岩	9.2	4.1	75.0
342	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	51	72	黄色頁岩	8.8	4.6	66.9
343	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	52	72	黄色頁岩	9.0	4.2	52.4
344	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	53	72	黄色頁岩	10.9	4.9	86.4
345	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	54	72	黄色頁岩	10.8	5.0	103.0
346	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	144	55	72	黄色頁岩	16.1	5.1	78.9
347	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	145	56	72	黄色頁岩	9.1	5.9	75.5
348	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	145	57	72	黄色頁岩	7.5	6.6	114.3
349	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	145	58	72	黄色頁岩	9.1	4.7	145.9
350	縄文古石器	割肉用石器	打製石片	145	59	72	黄色頁岩	16.3	5.5	85.2



第72表 縄文時代石器観察表(8)

No	遺物名	分類	器種	図面No	遺物No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
351	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	60	72	黒色頁岩	9.5	5.5	76.1
352	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	61	72	黒色頁岩	9.4	5.5	96.7
353	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	62	72	黒色頁岩	10.7	5.0	105.4
354	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	63	72	埴貫頁岩	12.0	5.6	212.7
355	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	64	72	キルンフェルス	10.4	4.6	113.5
356	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	65	72	灰色砂岩	14.9	6.9	254.0
357	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	66	72	粗粒輝石砂岩	13.9	5.0	202.1
358	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	145	67	72	黒色頁岩	12.2	5.4	110.0
359	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	68	72	黒色頁岩	8.9	5.4	76.0
360	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	69	72	黒色頁岩	9.1	4.5	49.4
361	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	70	72	黒色頁岩	9.2	5.3	105.6
362	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	71	72	黒色頁岩	9.0	5.5	113.5
363	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	72	72	黒色頁岩	8.3	4.6	104.8
364	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	73	72	黒色頁岩	9.8	5.2	80.2
365	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	74	72	黒色頁岩	9.1	5.8	125.0
366	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	75	72	黒色頁岩	9.6	4.6	76.1
367	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	76	72	黒色頁岩	10.0	6.0	139.1
368	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	77	72	灰色砂岩	10.2	6.3	131.5
369	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	78	72	緑色片岩	9.2	4.9	74.3
370	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	146	79	72	黒色頁岩	10.5	7.9	134.2
371	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	80	72	灰色砂岩	10.8	5.8	171.4
372	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	81	72	黒色頁岩	10.3	4.7	86.3
373	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	82	72	埴貫頁岩	10.2	5.3	141.0
374	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	83	72	粗粒輝石砂岩	7.2	5.7	67.8
375	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	84	72	粗粒輝石砂岩	8.2	6.0	64.7
376	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	85	72	緑色片岩	7.3	5.3	51.3
377	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	86	72	黒色頁岩	11.5	7.9	158.7
378	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	87	72	黒色頁岩	11.0	8.3	264.0
379	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	88	73	黒色頁岩	17.4	8.0	556.0
380	縄文石斧	割肉系石斧	打製石斧	147	89	73	黒色頁岩	15.4	9.2	415.0
381	縄文石斧	割肉系石斧	磨製石斧	148	90	73	雲長武岩	14.3	4.8	257.0
382	縄文石斧	割肉系石斧	磨製石斧	148	91	73	雲長武岩	9.0	4.4	59.0
383	縄文石斧	割肉系石斧	磨製石斧	148	92	73	雲長武岩	9.3	2.7	37.0
384	縄文石斧	割肉系石斧	磨製石斧	148	93	73	雲長武岩	4.1	2.3	13.3
385	縄文石斧	割肉系石斧	磨製石斧	148	94	73	川丸岩	9.0	5.4	243.0
386	縄文石斧	礫石	礫石	148	95	73	粗粒輝石砂岩	8.7	9.2	480.0
387	縄文石斧	礫石	礫石	148	96	73	粗粒輝石砂岩	9.7	7.6	497.0
388	縄文石斧	礫石	礫石	148	97	73	粗粒輝石砂岩	9.9	9.3	465.0
389	縄文石斧	礫石	礫石	148	98	73	浜野層岩	9.5	8.8	390.0
390	縄文石斧	礫石	礫石	148	99	73	粗粒輝石砂岩	12.0	7.6	290.0
391	縄文石斧	礫石	礫石	148	100	73	粗粒輝石砂岩	14.0	11.6	832.0
392	縄文石斧	礫石	礫石	148	101	73	粗粒輝石砂岩	16.2	6.1	696.0
393	縄文石斧	礫石	礫石	148	102	73	粗粒輝石砂岩	14.7	9.8	1,022.0
394	縄文石斧	礫石	礫石	148	103	73	粗粒輝石砂岩	14.2	9.2	880.0
395	縄文石斧	礫石	礫石	149	104	73	粗粒輝石砂岩	11.7	8.2	520.0
396	縄文石斧	礫石	礫石	149	105	73	粗粒輝石砂岩	10.6	6.8	472.0
397	縄文石斧	礫石	礫石	149	106	73	粗粒輝石砂岩	11.3	6.1	278.0
398	縄文石斧	礫石	礫石	149	107	73	粗粒輝石砂岩	13.0	6.4	471.0
399	縄文石斧	礫石	礫石	149	108	73	粗粒輝石砂岩	10.1	8.0	522.0
400	縄文石斧	礫石	礫石	149	109	73	粗粒輝石砂岩	10.6	6.8	520.0

第73表 縄文時代石器観察表(9)

No	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
401	縄文古墳	礫石類	SS石	149	110	73	磐城輝石砂山脈	16.8	12.0	799.0
402	縄文古墳	礫石類	SS石	149	111	73	石炭層砂岩	9.8	7.8	558.0
403	縄文古墳	礫石類	SS石	149	112	73	磐城輝石砂山脈	9.6	9.0	525.0
404	縄文古墳	礫石類	SS石	149	113	73	閃緑岩	8.5	6.8	298.0
405	縄文古墳	礫石類	SS石	149	114	73	磐城輝石砂山脈	8.8	7.8	402.0
406	縄文古墳	礫石類	SS石	149	115	73	磐城輝石砂山脈	8.8	7.1	414.0
407	縄文古墳	礫石類	SS石	149	116	73	磐城輝石砂山脈	13.5	6.2	458.0
408	縄文古墳	礫石類	凝石	149	117	73	磐城輝石砂山脈	11.3	4.9	258.0
409	縄文古墳	礫石類	凝石	149	118	73	砂岩	9.7	3.0	80.0
410	縄文古墳	礫石類	凝石	149	119	73	葦原系山脈	12.9	4.0	237.0
411	縄文古墳	礫石類	凝石	149	120	74	茨城県山脈	13.3	6.9	730.0
412	縄文古墳	礫石類	凝石	149	121	74	黄色頁岩	7.7	4.4	144.5
413	縄文古墳	礫石類	凝石	149	122	74	黄色砂岩	7.1	4.3	90.0
414	縄文古墳	礫石類	凝石	149	123	74	黄色頁岩	7.4	6.2	99.8
415	縄文古墳	礫石類	凝石	149	124	74	霞雲玄武岩	8.5	6.7	265.0
416	縄文古墳	礫石類	石炭	150	125	74	磐城輝石砂山脈	14.6	17.8	1390.0
417	縄文古墳	礫石類	石炭	150	126	74	磐城輝石砂山脈	26.5	17.6	2280.0
418	縄文古墳	礫石類	石炭	150	127	74	磐城輝石砂山脈	35.0	25.0	10,820.0
419	縄文古墳	礫石類	多孔石	150	128	74	磐城輝石砂山脈	34.4	21.7	15,760.0
420	縄文古墳	礫石類	多孔石	150	129	74	磐城輝石砂山脈	26.4	20.0	6,096.0
421	縄文古墳	礫石類	多孔石	150	130	74	磐城輝石砂山脈	33.4	19.0	16,650.0
422	縄文古墳	礫石類	多孔石	150	131	74	磐城輝石砂山脈	20.5	16.2	3,850.0
423	縄文古墳	石製品	石製品	150	132	74	磐城輝石砂山脈	9.5	8.8	348.0
424	縄文古墳	石製品	鍬状磨石	150	133	74	凝石	1.9	2.2	30.3
425	遺構名	石製品	石製品	150	134	74	凝石	2.1	1.8	4.3

第74表 奈良時代以降土器観察表(1)

№	遺構	種別	種類	遺物 No.	数量 PL	形状等	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調等	色調区分	色調記号	構成	胎土	調整	備考	
1	2号住居	溝敷跡	坪	155	1	92	C形(厚 底付)	13.4	—	13.0	粗	2.596/6	灰	593/71	還元焼 良好	中 焼中 焼少少量	コウロ調整 内面黄色調整
2	2号住居	溝敷跡	坪	155	2	92	C形(厚 底付)	13.0	8.0	3.5	灰	596/1	灰	596/1	還元焼 良好	焼 黄色焼中・灰 灰中量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
3	2号住居	溝敷跡	坪	155	3	92	C形(厚 底付)	13.0	8.0	3.6	オレンジ 焼	593/1	高灰	2.596/1	還元焼 良好	焼 灰黄色(バミ)中 量・焼跡焼	コウロ調整
4	2号住居	土師器	甕	155	4	92	C形(厚 底付)	—	4.6	34.4	粗赤焼	593/5	粗	596/8	還元焼 中々量	中 焼中量 焼跡 少量	コウロ調整 調整内面調整付内面 胎土ナシ
5	4号住居	土師器	坪	156	1	92	C形(厚 底付)	12.4	10.8	2.8	IC-IC-焼 焼	1096/4	還元焼 良好	中 焼中 焼中量	コウロ調整ナシ 体面外胎土ナシ 底 面外胎土調整付 内面胎土		
6	4号住居	土師器	坪	156	2	92	C形(厚 底付)	14.0	—	13.0	粗	2.596/6	粗	2.596/6	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土ナシ 底 面外胎土調整付 内面胎土
7	4号住居	溝敷跡	坪	156	3	92	C形(厚 底付)	13.7	10.2	3.5	灰	596/1	灰	596/1	還元焼 良好	焼 白色焼中少量 焼跡・高石中少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
8	4号住居	溝敷跡	坪	156	4	92	C形(厚 底付)	12.4	8.0	3.8	灰	595/1	灰	595/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
9	4号住居	溝敷跡	坪	156	5	92	底面1/3	—	8.0	12.0	灰	596/1	灰	596/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
10	4号住居	溝敷跡	坪	156	6	92	底面1/4	—	8.0	13.4	灰	596/1	高灰	2.596/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整 還元焼灰入り胎 土ナシ
11	4号住居	溝敷跡	平埴	156	7	92	筒形(高 底付)	23.2	—	14.0	灰赤	2.596/2	高灰	2.595/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整 筒形に1号1号の槽状 土器による調整(灰・土層)
12	4号住居	土師器	甕	156	8	92	C形(厚 底付)	22.4	—	18.4	粗赤焼	593/5	粗赤焼	593/5	還元焼 中々少量	中 焼中量 焼跡少 量	コウロ調整 調整内面調整付 内面胎土
13	5号住居	溝敷跡	坪	156	9	92	C形(厚 底付)	12.4	8.2	3.6	灰	93/1	灰	93/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡・焼 跡灰中少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
14	5号住居	溝敷跡	坪	156	10	92	C形(厚 底付)	12.3	8.8	3.5	灰	96/1	灰	96/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
15	5号住居	溝敷跡	坪	156	11	92	底面1/2	—	8.0	13.0	灰赤	1096/1	灰赤	1096/1	還元焼 普通	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土ナシ
16	5号住居	溝敷跡	甕	156	12	92	C形(厚 底付)	19.4	—	13.0	IC-IC-焼 焼	1092/2	還元焼 普通	中 焼中 焼跡・石 灰中少量	コウロ調整内面焼 天目焼跡焼 付		
17	12号住居	土師器	坪	161	1	92	底面1/2	12.5	10.1	3.2	粗	596/8	IC-IC-焼	2.596/4	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土ナシ 底 面外胎土調整付・ナシ 内面胎土
18	12号住居	土師器	坪	161	2	92	C形(厚 底付)	12.0	8.4	3.4	IC-IC-焼 焼	595/4	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土ナシ 底 面外胎土調整付・ナシ 内面胎土		
19	12号住居	土師器	坪	161	3	92	C形(厚 底付)	11.4	—	12.0	IC-IC-焼 焼	596/3	還元焼 中々少量	中 焼中 焼跡少量	調整灰調整ナシ 調整灰調整ナシ 底 面外胎土調整付内面胎土ナシ		
20	12号住居	溝敷跡	坪	161	4	92	底面	12.8	7.2	3.7	灰	596/1	灰	596/1	還元焼 良好	中 焼中 焼跡・灰 石中少量	コウロ調整内面焼 還元焼灰入り 胎土調整調整付
21	12号住居	溝敷跡	坪	161	5	92	C形(厚 底付)	12.0	—	12.4	灰赤	1096/1	灰赤	1096/1	還元焼 中々少量	中 焼中量 焼跡 少量	コウロ調整内面焼
22	12号住居	土師器	甕	161	6	92	C形(厚 底付)	22.0	—	18.0	粗	596/6	粗赤焼	595/5	還元焼 中々量	中 焼中量 焼跡 少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ
23	12号住居	土師器	甕	161	7・8	92	C形(厚 底付)	26.0	8.8	36.0	IC-IC-焼 焼	2.596/4	還元焼	1095/3	還元焼 中々量	粗 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ
24	17号住居	土師器	坪	163	1	93	C形(厚 底付)	13.2	—	13.7	IC-IC-焼 焼	596/4	IC-IC-焼	596/4	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土ナシ 底 面外胎土調整付・ナシ 内面胎土
25	17号住居	土師器	坪	163	2	93	C形(厚 底付)	12.0	—	13.0	IC-IC-焼 焼	2.596/4	IC-IC-焼	2.596/4	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土ナシ 底 面外胎土調整付・内面胎土 内面 調整調整ナシ
26	17号住居	土師器	坪	163	3	93	C形(厚 底付)	18.0	—	13.0	IC-IC-焼 焼	2.596/4	IC-IC-焼	596/4	還元焼 良好	中 焼中少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土調整 付胎土ナシ 内面胎土 内面 調整調整ナシ
27	17号住居	土師器	坪	163	4	93	C形(厚 底付)	15.0	8.4	3.0	IC-IC-焼 焼	1096/3	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 体面外胎土調整 付胎土調整ナシ	
28	17号住居	溝敷跡	甕	163	5	93	天井形(厚 底付)	—	7.5	13.0	灰	596/1	灰	596/1	還元焼 良好	焼 黄色胎土多量・焼 跡・焼跡少量	コウロ調整 天目焼跡調整付 内 面調整付 内面胎土調整ナシ
29	17号住居	土師器	甕	163	6	93	C形(厚 底付)	13.0	—	10.0	粗赤焼	1096/3	粗赤焼	1096/3	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ
30	17号住居	土師器	小甕 家	163	7	93	C形(厚 底付)	10.2	—	10.0	IC-IC-焼 焼	596/4	IC-IC-焼	596/4	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ
31	17号住居	土師器	小甕 家	163	8	93	C形(厚 底付)	11.2	—	10.4	IC-IC-焼 焼	2.595/3	粗	596/5	還元焼 良好	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ
32	17号住居	土師器	甕	163	9	93	C形(厚 底付)	23.3	—	23.0	粗	2.596/5	粗	2.596/5	還元焼 中々少量	中 焼中量 焼跡少 量	コウロ調整 中々少量
33	17号住居	土師器	甕	163	10	93	C形(厚 底付)	23.4	—	11.4	IC-IC-焼 焼	596/4	粗	596/5	還元焼 中々少量	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整灰調整ナシ 底 面外胎土調整付・ナシ 内面胎土
34	17号住居	土師器	甕	163	11	93	C形(厚 底付)	22.3	—	11.3	IC-IC-焼 焼	595/3	粗赤焼	2.595/3	還元焼 中々少量	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ
35	17号住居	土師器	甕	163	12	93	C形(厚 底付)	11.3	—	11.4	粗赤焼	595/5	IC-IC-焼	2.596/4	還元焼 中々量	中 焼中 焼跡少量	コウロ調整ナシ 調整内面調整付内 面胎土ナシ



第76表 奈良時代以降土器観察表(3)

No	遺構名	種別	器種	器号 No	PL	残存率	口径 (cm)	口径 径(m)	高さ (cm)	色調表	色調記号	色調記号	構成	胎土	調整	備考	
71	9号溝	遺構外	杯	107	1	95	遺部1/4	—	15.0	13.0	灰	516/1 灰オリーブ	516/2	還元結 良好	輪 細中・粗中少量 口縁部有凹溝 遺部1/4あり 無調整		
72	172号土 坑	土坑跡	杯	100	1	95	口縁部～遺 部1/4	13.0	19.0	13.0	にぶい 黄	7.516/4	7.516/4	酸化結 良好	輪 細中・粗中少 量 口縁部ナデ 体部～遺部外遺部 あり 肉面ナデ		
73	172号土 坑	土坑跡	杯	100	2	95	口縁部～遺 部1/6	12.0	18.0	12.0	黄	7.516/6	7.516/6	酸化結 中少量	輪 細中・粗中少 量 口縁部ナデ 体部～遺部外遺部 あり 肉ナデ		
74	219号土 坑	土坑跡	鉢	190	1	95	体部～遺部 1/6	—	10.4	12.2	明赤	7.516/5	にぶい 黄	7.516/3	酸化結 良好	輪 細中・粗中少 量 体部～遺部外遺部あり 肉面ナデ	
75	221号土 坑	土坑跡	杯	190	2	95	口縁部～遺 部1/6	13.0	—	12.7	明赤	5165/6	明赤	5165/6	酸化結 良好	輪 細中・粗中少 量 口縁部ナデ 体部外遺部ナデ? 遺 部外遺部あり 肉面ナデ	
76	遺構外	遺構外	杯	100	3	95	体部～遺部 1/4	—	18.0	12.0	黄	2.517/2	黄	2.517/2	還元結 良好	輪 褐色細粒・粗中 口縁部 遺部1/4あり(7.1号 ナデ)	

第77表 奈良時代以降鉄製品観察表

No	遺構名	種別	器種	器号 No	PL	胎土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存率	特 徴	
1	12号住居	鉄製品	鍔	161	10	92	埋土	14.0	3.7	0.1	10.0	高埋戻穴溝	小孔の裏の方だけ残ったものか?
2	21号住居	鉄製品	釘	165	5	94	埋土	13.2	0.5	0.5	0.9	高埋戻穴溝	新渡戸内?
3	21号住居	鉄製品	不明	165	6	94	埋土	13.4	3.4	0.4	3.1	高埋戻穴溝?	刀子の先端に当たるが刃がないため用途不明
4	21号住居	鉄製品	刀子	165	7	94	埋土	16.1	3.4	0.5	5.9	要戻・高埋戻穴	
5	21号住居	鉄製品	鉄棒	165	8	94	埋土	3.7	3.2	2.2	39.6		
6	21号住居	鉄製品	鉄棒	165	9	94	埋土	2.9	3.5	0.7	3.2		
7	27号住居	鉄製品	刀子	171	10	94	埋土	18.0	5.2	0.7	10.9	要戻穴溝	刃部中央が2枚重なって構成したように厚くなる
8	27号住居	鉄製品	釘	171	11	94	埋土	14.0	0.4	0.4	1.0	高埋戻穴溝	新渡戸内
9	27号住居	鉄製品	刀子	171	12	94	埋土	18.0	0.8	0.3	5.6	要戻穴溝	
10	27号住居	鉄製品	丸鋸	171	13	94	埋土	3.1	12.0	0.14	2.1	3/4	青銅製丸鋸
11	27号住居	鉄製品	鉄棒	171	14	94	床下	2.5	2.2	1.3	5.0		
12	28号住居	鉄製品	刀子	173	7	95	埋土	12.7	3.2	0.4	1.7	高埋戻穴溝	埋戻穴残る
13	4号溝	鉄製品	釘	180	1	95	埋土	14.7	3.2	1.2	4.7	高埋戻穴溝	大型の角釘
14	遺構外	鉄製品	鍔	180	4	95	表層	17.2	2.0	0.6	10.5	要戻穴溝?	鍔の裏面が残ったものか?
15	遺構外	鉄製品	埋戻穴溝	180	5	95	72-B-6	13.0	3.0	0.7	2.2	一部穴溝	

第78表 奈良時代以降石製品観察表

No	遺構名	種別	器号 No	PL	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存率	石材	備考
1	5号住	158	13	97	石製品	砥石	5.2	4.9	2.4	96	ほぼ完整	黒石	全面使用か 磨痕あり
2	12号住	161	9	97	石製品	砥石	4.2	0.8	1.6	30.9	完整	黒石	